

令和4年度 愛媛県がん診療連携協議会

第2回 幹事会

◇ 日時・場所 ◇

令和4年10月18日(火) メール会議
発信: 四国がんセンター

◇ 議題 ◇

1. 令和4年度幹事会 名簿確認(資料1)・・・2
20220421 幹事会議事録(資料2)・・・3
20220806 役員会および第1回専門部会報告会議事録(資料3)・・・18
2. がん診療連携拠点病院等の整備について(令和4年8月1日厚生労働省健康局長発出)より(資料4)・・・37
3. 報告事項
 - 1) PDCA 部会(資料5)・・・42
 - 2) がん地域連携専門部会(資料6)・・・52
 - 3) 緩和ケア専門部会(資料7)・・・54
 - 4) がん相談支援専門部会(資料8)・・・59
 - 5) がん登録専門部会(資料9)・・・69
 - 6) がんの集学的治療専門部会(資料10)・・・94
 - 7) がん看護専門部会(資料11)・・・110
 - 8) 令和4年(2022)度協議会活動年間スケジュールおよび次回専門部会報告会の予定について 2023年1月19日(木)17:30~19:00 Web開催(資料12)・・・112
 - 9) 厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業(受託:日本サイコオンコロジー学会)「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」(資料13)・・・114
4. 討議事項
 - 1) 令和5年(2023)度協議会活動年間スケジュール案(資料14)・・・116
 - 2) 令和5年度緩和ケア研修会 PEACE 案内状(案)(資料15)・・・117
 - 3) がん相談支援センター四国ブロック会申し合わせ事項の取り扱いについて(資料16)・・・120
5. 討議事項に対する返答のお願い・・・別添

令和4年度10月幹事会名簿

	施設名	職名	氏名(敬称略)
地域拠点病院	愛媛県立中央病院	副院長	中西 徳彦
		がん治療センター長	森高 智典
		総務医事課 主幹	越智 祐二郎
	愛媛大学医学部附属病院	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科長	高田 泰次
		腫瘍センター長	薬師神 芳洋
		医学部医事課長	高木 剛造
	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	院長	松野 剛
		医療情報課課長心得	矢野 清久
	市立宇和島病院	乳腺外科科長	岡田 憲三
		医事課長補佐	井上 悌爾
		医事係長	清家 さゆり
	医療法人 住友別子病院	がんセンター長	松原 稔
		がんセンター事務	藤田 元司
	日本赤十字社 松山赤十字病院	呼吸器外科 部長 がん診療推進室長	竹之山 光広
		外科 部長	南 一仁
臨床腫瘍科 部長		白石 猛	
がん診療推進係長		大西 麻弓	
推進病院	一般財団法人永頼会 松山市民病院	院長	柚木 茂
		地域医療連携室	三谷 直紀
	社会福祉法人恩賜財団 済生会西条病院	医療福祉センター相談役	長櫓 巧
		医事課係長	荻野 智子
	独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院	院長	木戸 健司
		医事課長	入江 英範
	一般財団法人積善会 十全総合病院	副院長	太田 和美
		事務長	藤原 篤
	公立学校共済組合 四国中央病院	緩和ケア外科部長	武知 浩和
		事務部長	川上 英二
		医療課長	高橋 幹
	社会医療法人石川記念会 HITO病院	地域医療介護連携課主任	遠藤 健介
		病棟師長	小坂 泰二郎
		診療支援部 医事診療情報課長補佐	中岡 剛志
	社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院	済生会松山医療・福祉センター長補佐	安岡 康夫
事務長		林田 哲也	
市立八幡浜総合病院	副院長	武田 肇	
	医事課長補佐兼医事第1係長	田中 昭光	
専門部会等	PDCA部会	部会長	藤山 幹子
	がん地域連携専門部会	部会長	橋根 勝義
	緩和ケア専門部会	部会長	成本 勝広
	がん相談支援専門部会	部会長	灘野 成人
	がん登録専門部会	部会長	寺本 典弘
	がんの集学的治療専門部会	部会長	青儀 健二郎
	がん看護専門部会	部会長	大西 玉美
その他	愛媛県	保健福祉部健康衛生局健康増進課長	丹 純一
		担当係長	三宅 宏和
	一般社団法人愛媛県医師会	常任理事	窪田 理
事務局	四国がんセンター	幹事長	藤山 幹子
		院長(会長)	山下 素弘
		事務部長	浅松 誠治

令和4年度 愛媛県がん診療連携協議会 第1回 幹事会 議事録

開催日時：令和4年4月21日(木) 18:00～19:30

開催形式：WEB会議 四国がんセンター地域医療連携研修センター研修室①からの発信

司会進行：四国がんセンター 幹事長 橋根 勝義

出席者：資料1「幹事会名簿」

議題

開会の挨拶<山下協議会会長>

連携協議会も引き続き我々の方で盛り立てていきたいと思っておりますので、是非、ご協力をよろしくお願いいたします。残念ながら今回もWEB会議の形となってしまいましたが、活発なご意見を頂ければ幸いに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

1. 令和4年度幹事会 自己紹介・名簿確認(資料1)

- ・自己紹介 WEB開催の為割愛、資料1にて確認。

*新しい年度になって多くの異動があり、多数入れ替えがあったと思いますが、事務局で把握して名前を書かせてもらっているのも、もし何か間違いがあれば、連絡をお願いします。

- ・20210807 役員会および専門部会報告会議事録(資料2)

- ・20211007 幹事会(メール会議)議事録(資料3)

第1回の幹事会(2021年4月)はWeb会議として開催したが、第2回は、審議事項があまりなかったことから、10月7日～10月13日の期間において、メール審議とした。

- ・20211204 第2回専門部会報告会議事録(資料4)

*議事録は、一度、メールの方ではお知らせしていますが、再度確認をお願いします。

2. 3. 2022年度協議会活動年間スケジュールと2022年度年間スケジュール案(資料5、6)

2022年度中の開催協議会について

- ・4/21(木) 第1回幹事会(本日)
- ・8/6(土) 役員会および専門部会報告会

*参加不可の施設がないようであれば、8/6(土)に決定でよいか。都合が悪い施設があれば、調整しますので、連絡をお願いします。

・10/13(木) 第2回幹事会

*昨年度、一昨年度はメール会議となった。今年度の開催については具体的に決定できていないが、重大な議案がなければ、今年度もメール会議になるかもしれません。これについては状況をみながら事務局から連絡する。以前10/6(木)で案内していたが、四国がんセンターが国立病院総合医学会の開催と重なり、10/13(木)を第一候補として検討したく、訂正をお願いします。

・12/3(土) 第2回専門部会報告会

*予備日として11/26(土)も挙げているが、12/3(土)で予定してよいか。また、多くの方に参加をしてもらおうとため、土曜日ではなく平日の開催ではどうかという意見があり、その場合は12/8(木)も候補に挙げている。この点については、今後も検討する。

<橋根幹事長>

会議の開催方法について WEB会議が続いているが、感染状況が落ち着いて可能であれば、集合会議も考えているが、この点について如何か。遠方の方はWEBがよいなどあるかと思いますが、また、ハイブリッド形式も学会ではよくあります。ご意見があれば、後からでも良いので事務局までご連絡をお願いします。

*今年度の予定は、以上で決定とさせて頂く。何かあれば、事務局までご連絡下さい。

2023年度の協議会年間スケジュール(案)について

*4月の第1回幹事会のみ、本会議で決定したい。

4/20(木)が第一候補としているが、泌尿器科学会の総会と重なっているため、追って調整する。WEBか集合かは未定。気が付いたことがあれば、お知らせ願います。

*役員会、報告会などは、先の予定ではありますが、候補としてこのように考えているので、お知らせします。

4. 今後の専門部会報告会のあり方について

先に提示した日程案に続く内容になるが、平日開催の方が多くの方が参加しやすい、ということがあれば、変更も可能なのでご意見をお願いしたい。

5. 会議への招聘状の取り扱いについて

招聘状について、今回も事務局から送らせて頂いたが、特に各施設で問題となるようなことはなかったため、引き続き同様の形で事務局から招聘状を発行して、なるべく多くの方に参加して頂けるような形にしていく。

6. 愛媛県健康増進課 (資料 7)

1) 第3期愛媛県がん対策推進計画の中間評価と今年度の事業の概略について

第3期愛媛県がん対策推進計画は、平成29年度の末に策定し、計画期間が平成30年度から令和5年度までの6年間となっている。中間の年度にあたる令和2年度が中間評価の策定期間であったが、1年遅らせて令和3年度に、愛媛県がん対策推進委員会、またその専門部会にあたるがん相談支援推進協議会、在宅緩和ケア推進協議会の3つの会議によって中間評価をとりまとめて頂いた。がん対策推進計画の大きな数値目標としては、令和4年度までに75歳未満の年齢調整死亡率を67.9まで下げることが目標となっている。

I 科学的根拠に基づくがんの予防・がん検診の充実

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・全国と比較して肝がんや乳がん、子宮がんなどの死亡率が顕著に高い
- ・がん検診の受診率は全国平均を下回っている状況
- ・新型コロナウイルス感染拡大による検診控え、受診控えの影響が出ている

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん登録情報をはじめとする実態データを活用して県民への注意喚起や本件独自の課題の抽出に取り組むことを検討されたい。
- ・検診受診の啓発に「がん対策推進員」を有効活用するなど、検診受診率の向上や死亡率の低減を図るための取組みの強化が必要

II 患者本位の安全・安心で質の高いがん医療の提供

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・セカンドオピニオンに関する話しを受けた患者が少なく、医療者間での情報共有や患者が相談しやすい体制作りに大きな課題がある
- ・患者の2割が専門的な医療を受けられたと感じていない(希少がんについては4割がそう感じていない)

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・患者やその家族が納得して治療を受けられたと感じられるよう、医療機関や医療スタッフ間での更なる連携強化、情報共有が必要
- ・専門的な人材の確保・育成・配置に更に注力されたい

III がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・依然として、患者やその家族に対して十分に情報が届いているとは言えない
- ・がん患者の就労や小児・AYA世代など特有の課題を抱えている世代への支援やサポート体制が不十分である

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん相談支援センターを核に、医療関係機関や行政、患者団体等がそれぞれの立

場で情報の共有や周知の強化を図ることが必要

- ・相談支援や啓発に携わる人材育成にも取り組んでいくことが必要複数の分野に係る意見

複数の分野に係る意見

【今後の取組みに対する委員からの意見】

・次期計画の目標や指標の設定にあたって、各分野の主要な取組みの内容や成果を検証、評価するためのエビデンスについて改めて関係者間で御議論いただきたい。
これについては、どういう取組みを何件実施したかということだけではなく、その取組みがどのような成果をもたらしたかというのを重視して欲しい、という意見であった。
これを踏まえて、残りの計画期間である令和4年度、令和5年度に、委員の皆様から出た今後さらに評価することが必要である取組みに対して注力し、次期計画を策定していく上での材料としていきたいと考えている。医療機関の皆様におかれましては、今後とも引き続きご協力をお願いできればと思います。

2) 令和4年度の愛媛県のがん対策予算について

全体目標の3本柱に応じて、相談に対する事業や検診受診率の向上に対する事業、各医療機関での相談体制の強化などの取組みを、今年度に引き続き実施していく。

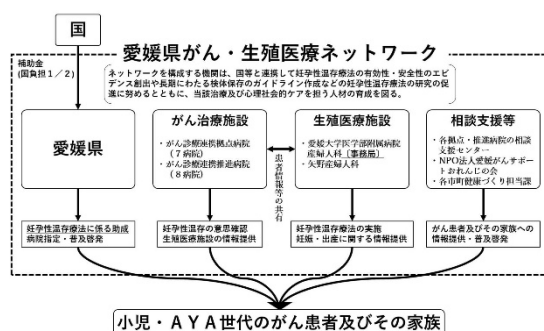
3) 愛媛県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

令和3年度末に国が事業を実施すると決定している。愛媛県では、準備期間を経て令和4年度から開始することができた。現在は、妊孕性温存療法の指定医療機関となる病院の指定の手続きを進めている。愛媛大学医学部附属病院の産婦人科、矢野産婦人科の2つの医療機関が対象となる。

温存後生殖補助医療については、指定をどのようにするかは国のほうで現在検討中であるため、指定はもう少し遅れる。

事業の実施体制については、2つの医療機関で連携をとりがん治療の影響がないかについては意見書として出して頂き、2医療機関の了承がとれたものについて、患者に治療費を助成するという仕組みとなっている。

3 事業イメージ



年度末に各医療機関の事務担当者様には要綱をお送りしているが、医療従事者の皆様に情報について周知させて頂くとともに、ご不明な点は、健康増進課健康政策グループまでお問い合わせをお願いします。

<橋根幹事長>

妊孕性温存は新しく始まった事業ですので、これからわからないことが出てくるかもしれませんが、不明な点があれば、事務局や愛媛大学、愛媛県の健康増進課に問い合わせして下さい。

7. 報告事項

1) PDCA 部会 (資料 8)

<PDCA 部会 青儀副部会長>

PDCA 活動はゆっくりとすすんでいる段階であるが、今後の方針等も含めて説明申し上げます。

1. PDCA 活動：質評価指標調査、QI 研究、患者体験調査

- ・毎年度末に行っている東京大学の質評価指標調査については、愛媛県全体の医療の質の向上を目指している。調査結果については、都度、皆様にご提示する。
- ・国立がん研究センター東班、国立病院機構の臨床評価指標等で興味を持っていただけるような QI 研究の情報を使って、新たに愛媛県独自の臨床指標を設定し、活動の一旦として行っていきたい。
- ・国立がん研究センターで 3~4 年に 1 回程度、患者体験調査が定期的に実施されている。患者さん自身に診療内容を評価して頂くという患者目線の評価指標となるので、これを活用させて頂いて、県全体でデータを共有し、PDCA 活動につなげられないかという検討もおこなっている。質問の例)・「がん治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができたか。・がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話がありましたか。など。

2. 相互訪問監査を WEB 監査に

相互訪問調査は 5~6 年前に実施しているが、今回はより負担が少ない方法で実施したいと考えており、Web による施設間ピアレビューを計画している。国立がん研究センターでメソッドが完成しているので、簡易な形のピアレビューを何年かかけて (数施設ずつ) おこないたい。正式な提案ができれば、ご案内する。

3. 連携協議会部会活動周知のためのアンケート調査

専門部会活動に対しては、外部評価をされていないのではないかという視点から、各施設幹部 (PDCA 委員など) と一般職員 (非専門部会員) の皆様を対象として各専門部会の活動の認知度や評価をアンケートとして実施し、それを協議会自身の PDCA 活動とできるのではないか。質問の例)・活動の認知度『がん登録でみる愛媛県のがん診療』・全国がん登録データ・がんサポートサイトえひめ・研修会など。・活動の評価 実際に役に立ったことがあるかないか、利用したことがあるかないか。期待。など。

まずは、がん登録専門部会からはじめるので、アンケートが届いたら、回答をお願いします。

4. 通院治療室の運用セミナーのご案内 がん化学療法について、多職種チーム、医師・看護師・薬剤師のみならず MSW も含めたチームをつくり、患者とのコミュニケーションをいかにとるかという点を主眼としたセミナーが国立がん研究センターを中心に開催されており、四国がんセンターが参加したので、共有させて頂き、PDCA 活動としたい。5 大がんの化学療法に関する e-learning を受けた後、チームビルディング、コミュニケーションに関する講義を受講し、どのような対応をしていくかをはかる。正式な案内ができればお知らせする。

5. 診療ガイドラインの一覧を更新したので、活用して頂きたい。

《質問特になし》

2) がん地域連携専門部会 (資料 9)

<がん地域連携専門部会 橋根部会長>

・コロナ禍で多くの影響を受けたので、ウィズコロナという視点を見据えて、どういう活動があったかという点をアンケートで調査し話し合った。中でも、緩和病棟がコロナ病棟に代わったというようなことが全国的にも問題となったので、愛媛県ではどうだったのかなどを中心に調査をおこなった。実際に緩和病棟がコロナ病床に転嫁したという施設もあったが、現在は元に戻っている。

・緩和ケアに関する内容、現状、コロナ禍での面会の状況、情報をどのようにしたのかという点なども議事録にまとめているので目を通して頂きたい。

・連携に関しては、リモートカンファレンスを有効な手段として活用出来はじめたため、実際に各施設でどのような状況かという点についても調査した。有効活用できている施設となかなか難しい施設があるが、共通して、まだコロナが落ち着かないのでこれからも活用していかないといけないという認識であった。

・ネットワーク連携について 昨年度は県立中央病院で新たに開始されたので、紹介して頂いた。各施設徐々にネットワークの活用が広がってきているので、全国的に共通のネットワークができて同じように見られるようになればよいというのが地域連携の希望であるので、そういった点については、協議会を通じて引き続きはたらきかけていきたいと考える。

▶今年度の活動予定

・オンライン面談。リモートを活用した活動を推進していくことを引き続きおこなっていく。

《質問特になし》

3) 緩和ケア専門部会 (資料 10)

＜緩和ケア専門部会 成本部会長＞

・11月17日に Web 会議で専門部会を開催し、グループワークをおこなった。

- 1) 各施設のコロナ禍における現状報告
- 2) ベテル病院中橋先生から愛媛県の麻薬の使用調査について
- 3) グループワーク「今さら聞けないオピオイドの使用法 あなたの施設はどうしていますか？」

事前に次のような設問(1. 疼痛コントロールについて 2. タイトレーションの方法について 3. 難治性疼痛の場合、治療はどうすることが多いか? 4. 非がん性の呼吸不全(呼吸困難)、慢性心不全の患者に対して、どのように麻薬を使用しているか?)でアンケートをおこない、アンケート結果をもとに 5 施設に発表を依頼し、ディスカッションをおこなった。

・愛媛県全体の麻薬使用量は、2015年までは微増であったが、その後はほぼ横ばいである。薬剤の種類については、フェンタニール、オキシコドン、の順。2018年からヒドロモルフォンが徐々に使われ始めている。

・初回オピオイド導入時、使用頻度の高いオピオイドで分けると、オキシコドンが多い施設、トラマドールが多い施設、それ以外の施設に分かれる。

・タイトレーションの方法は、持続皮下注射で行うのが素早くできて細かく調整でき、手技的にも慣れれば有効な方法ではないかということが議論された。内服の場合は、レスキューを使用しながらタイトレーションしていくという施設が多かった。

・難治性疼痛に対しては、神経ブロック、放射線治療の選択肢も検討する。メサドンが使われることが多いが、使える施設が限られているので、e-learningを受講して頂いて、使える施設が増えてくるとよい。

・非がん性の呼吸困難では、症例がある施設で、使用している施設が出てきている。

・緩和ケア研修会 PEACE の開催について

昨年の8月に厚生労働省から出された事務連絡により、今年度は研修会を WEB で開催する施設も出てくると思うが、WEB で開催しても修了証が発行されるので、各施設で検討して頂けるとよい。四国がんセンターは、3月に、他施設からの参加もあり WEB で開催した。

《質問特になし》

4) がん相談支援専門部会 (資料 11)

<がん相談支援専門部会 灘野部会長>

・昨年度の活動報告

昨年の幹事会以降の活動内容については、まとめた資料を添付しているので、目を通して頂きたい。

・11/11 に専門部会を Web 会議で開催している。

・がん相談員研修ワーキング・10/23 に愛媛県がん相談員研修会 WEB で開催した。参加者は 21 名 (県内 12 名、県外 9 名)。ご協力ありがとうございました。・がん相談員フォーラム in 四国 (2022/1/22)。徳島と高知の主催で開催された。受講者 65 名のうち県内は 21 名で、四国では最も参加が多かった。ご協力ありがとうございました。

・広報活動ワーキング がんサポートブックえひめの改訂をおこなった。12/17 にオンラインで検討会をおこない、がんサポートブック第 4 版が完成している。

・AYA 世代支援活動のアンケートについて 今年の 1 月にアンケートを実施した。各施設でのがん相談対応や AYA 世代患者支援の活動に活かすことを目的として、拠点・推進病院での活動状況を皆で共有することができた。

・チェックリストワーキング 毎年 1 回、チェックリストを用いて相談員の PDCA 活動をおこない、相談員の質の向上に努めている。今年もまとめているので、資料に目を通して頂きたい。

・今年度の予定

1) 災害ワーキング 目的を達成できたので、活動を終了する。「自然災害発生時における研修会等の取り扱いについて」も完成し、連絡網(メーリングリスト)がうまく活用できるかというシミュレーションについては、5 月に実施する。

2) がんサポートブックえひめ第 4 版の発刊について がんサポートブックえひめが完成したので、注文を受け付ける。沢山注文して頂けると単価が安くなるため、ご検討をお願いしたい。さきほど愛媛県からも報告があったが、患者体験調査では情報提供や相談体制が十分ではないということであるため、相談支援専門部会としては、この冊子を利用して広報をおこなうことを予定したい。また、告知をしたときに医師からサポートブックを手渡して頂きたいということから、何か取り組みをおこないたいのので、ご協力をお願いしたい。

3) 毎年おこなっていた出張相談は、今年もコロナのために開催できないと思われる。

4) 相談員研修ワーキング 今年度は愛媛が主催で「地域相談支援フォーラム in 四国」を開催する。両立支援をテーマに 10/22 にオンラインで開催する。ファシリテーターや参加者が多数必要となるので、ご協力をお願いしたい。

5) チェックリストワーキング 今年度も例年同様に実施するが、オンラインでの入力フォームを活用し、入力の手軽減をはかることを計画している。

以上の報告のように、相談支援センターのスタッフは頑張っておりまして、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

《質問特になし》

5) がん登録専門部会 (資料 12)

＜がん登録専門部会 寺本部長＞

・昨年度の活動報告

がん登録専門部会は全国がん登録、地域がん登録の精度向上を目的としている。

今年最大のニュースとしては、「Cancer incidence in five continents」に愛媛県からもデータを提出して参加することになった。今までは、全国で9県の参加であったが、愛媛も加わった。これは、WHOのブルーブックなどで、どこの国に何のがんが多いというような最初のページに書いてあるようなデータの元になっているもので、精度の高い地域がん登録であると認められた国と地域のみ参加できる。生存率では、既に3年ほど前にコンコルドスタディに参加しており、愛媛県も世界的に生存率と罹患率の両方が揃ったことになる。

全国がん登録のデータ登録状況 拠点・推進病院全てにおいて3月に提出済み。愛媛県オープンデータカタログというところに3年分掲載されているので、罹患率の集計表などが必要な場合は、見て頂けるとよい。各病院の集計については協議会ホームページ「がん登録でみる愛媛県のがん診療」から参照頂きたい。

・全国がん登録室の外部監査について

法律で定められ4～5年に1度実施される。オンラインおよび現地監査がおこなわれた。

・愛媛県健康増進課 三宅様より

がん登録推進法の20条に基づいた全国がん登録から院内がん登録への予後情報の提供に関して、新たな申請書類を作成した。セキュリティ関連の確認や整備もお願いしたい。データ提供を受けるには、1 院内がん登録実施規定 2 院内がん登録情報利用規程 3 院内がん登録情報管理規定 4 院内がん登録委員会実施規定と実施。これらに相当する規定とその実施が必須である。

・がん登録部門の体制について 初級認定者がいないと、国立がん研究センターにデータの提出ができてデータとして処理されないということが起こるので、初級認定者の最低1名の確保が必要である。また、協力医師等の欄に、カウントできる医師が増えると嬉しい。

・院内がん登録に関して 実務者研修や業務について検討するため活動検討委員会を発足した。1 研修会企画・運営グループ 2 学び方・教え方～私はこうしています～ 3 日常業務悩み相談(施設間交流)グループ 4 はじめての試験対策グループ (5 勉強会グループ) 6 愛媛県の院内が

活動予定

月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
がん登録推進法20条に基づく院内がん登録への予後情報の提供に関する申請書類作成															
院内がん登録実施規定 院内がん登録情報利用規程 院内がん登録情報管理規定 院内がん登録委員会実施規定と実施															
初級認定者の最低1名の確保															
実務者研修や業務について検討するため活動検討委員会を発足															
研修会企画・運営グループ															
学び方・教え方～私はこうしています～															
日常業務悩み相談(施設間交流)グループ															
はじめての試験対策グループ															
勉強会グループ															
愛媛県の院内がん登録															

ん登録データ利活用グループ。

今年度はどのような活動をしていくか、WEB 検討会をおこない、活動方針を決定した。
試験対策・実務者の育成・・・など。

・5大がん登録講座 毎年開催しているが、今年度も後半に開催予定。最近ではWEB開催のため日本中からアクセスがあり、100数十人の参加がある。今年度は第10回目の記念大会。

院内がん登録・がん登録も研修活動をおこない、レベルを上げていく必要があるが、それには十分な人材が必要である。診療情報管理士においては、研修会を開いても参加できない、ということがおこりがちなため、研修の参加、自習の時間などに対する配慮を是非お願いします。

・全県集計について

最近では総会等でお知らせができていないので、利用状況についてはそれほど広がっていないかもしれない。この点については、考えていく必要がある。

・コロナ速報について

- 新聞2社掲載
- 日本医師会 JACR 共催シンポジウム
- 東京都がん診療連携協議会
- 日本疫学会シンポジウム
- 愛媛県知事記者会見
- NHK などの反響があった。

愛媛県内ではがん医療崩壊というほどの大きな変化はないが、様々な影響が見られた。

- 検診・人間ドックが特に必要とされる年代での受診率・発見率が下がっている。
- 患者の移動・センチメントが低下している。

健康のための活動は自粛してはならない。 というメッセージを発信した。

コロナ速報版『がん登録で見る愛媛県のがん診療 2020年診断』報告 on line meeting
« 愛媛県がん診療連携協議会 HP https://ecch.jp/?page_id=2006

今年度も実施する。また、コロナ速報は愛媛県が全国に先駆けての報告となったが、今後は全国と連携してできるとよいと考えている。

E-CIP～がんサポートサイトえひめ

愛媛県がん診療連携協議会が愛媛県より受託したがん情報サイトで、「愛媛県がん対策推進計画」に基づく。がん登録専門部会とがん相談支援専門部会が合同で活動している。

広報をどんどんしていく必要があるが、紹介のためのデジタルサイネージなどの資料を作成したので、待合室等にデジタルサイネージがある施設の方、データを提供しますので、是非使ってください。

・令和4年4月現在 コンテンツは充実～

-がん患者のためのコロナ情報

-臓器別 はほぼ揃ったので、内容を充実させていく予定である。リクエストがあれば追加は可能。

-トピック別 あなたを支える

-アクセス状況 月 2,000 以上。もう少し伸びてもよいと思う。

《質問特になし》

6) がんの集学的治療専門部会 (資料 13)

<がんの集学的治療専門部会 青儀部会長より>

1. 薬薬連携
2. ゲノム研究と治験情報提供について
3. HD 曝露共同研究
4. CSTD によるコアリングの調査結果
5. 新規検討課題：IT を用いた副作用管理ツールの開発・運用
6. 放射線治療の病院間紹介状の提案
7. 外来がん化学療法室のブラッシュアップセミナー
8. がんサバイバーシップについて

1. 薬薬連携 県内全体の薬薬連携をすすめていく活動をおこなっている。連携協議会共催講演会の開催(昨年度は10/27にWebで開催 Oncology Specialist Meeting 2021)は勿論であるが、システムづくりを急いでおり、宇和島の竹内先生や日赤の村上先生を中心に、ネットワークを構築している。

2. ゲノム研究と治験情報提供について 愛媛大学薬師神先生や四国がんセンター消化器内科仁科が中心となってゲノム医療を展開しているところである。以前より連携協議会各施設にご協力頂きすすめていた SCRUM JAPAN 研究については、今後はスクリーニング研究としては終了することとなった(フォローアップ調査については継続)。日常的にゲノム医療を推進していくためにも、今後も専門部会において努力していきたいと考える。

3. HD 曝露共同研究の報告 各施設からご参加頂いて、抗がん剤におけるいろいろな場所の曝露調査をさせて頂いている。3回目が済んだところであるが、汚染が出る場所についての対策を皆で共有しながらすすめている。調整部門、投与部門について、項目ごとに達成

度、改善度をみており、愛媛県全体としてグラフ化すると、いずれも年度をまたぐごとに改善がみられることがわかり、明確なアウトカムになっていると思われる。医療スタッフによるサイクロフォスファミド尿中濃度と床面 HD 曝露のパイロット調査を昨年 12 月に実施した。集学的治療専門部会の中で結果を共有させて頂き、新しい曝露の調査、改善の方法を検討していく。曝露に関しては、全国的な e-learning を作る事ができたので、また、患者さんのご家族用の情報提供用のツールなどについても、共有させて頂きたく検討している。

4. CSTD によるコアリングの調査結果 愛媛大学の薬師神先生、済川先生が中心となって連携協議会の中で実施した Study で、CSTD によるコアリングが不明熱の原因になっているのではないかという視点において調査をおこない、CSTD 使用あり vs CSTD 使用なし：4.7% vs 0.1%との結果が得られ、論文化し Scientific Reports にアクセプトされている。このようなアウトカムも連携協議会の中で出すことが出来ている。

5. 愛媛大学薬師神先生より irAE についての「在宅がん患者の副作用管理ツール」 3 月に愛媛新聞でも紹介されているが、IT を用いた「在宅がん患者の副作用管理ツール」(スマホやタブレットを使って患者さんと病院が常に有害事象に関するデータを共有できるシステム)について、愛媛大学の中央 IRB で承認が得られ、連携協議会参加各施設の研究参加が出来る。<愛媛大学 薬師神先生>2 年間無料で提供できるので、連携協議会以外の施設でも使って頂けると、助かります。

6. 放射線治療の病院間紹介状の提案 連携協議会の施設間で放射線治療の紹介を簡略化したいという意見が従来よりあったが、放射線科の医師の参加がしばらく途絶えており立案に至っていなかった。今回、四国がんセンター放射線科の濱本医師により放射線治療紹介 FAX 雛形の案を作成した。紹介状による情報共有の時間をとるよりも、簡略な形で紹介ができないかということ視点で、今年度の取り組みとして検討している。

7. 外来がん化学療法室のブラッシュアップセミナー 外来化学療法室の運用については、統一した運用法がないので、統一した形で何かできないか、というところで、県で統一した運用法を作成することを目標とした。国立がん研究センターでがん診療をおこなっている施設を中心とした通院治療室の現状と課題をテーマにしたセミナーが開催され、四国がんセンターが参加したので、今年度の半ば過ぎに研修会の開催を計画している。「実践から学ぶ がん薬物療法多職種チーム研修」として、医師・看護師・薬剤師・MSW 等の相談員 4 人 1 チームをつくり、治療の流れ、有害事象の出現形を研究し、対応方法を考えるセミナーを計画している。5 大がんの治療の流れについて e-learning を受講した後に、グループワークを含む 1 日の実地研修をおこなう。皆で学んでいきましょう。

8. がんサバイバーシップについて 日本サポーターケア学会と合同で、サバイバーシップの対応について何とかしていきたいと、e-learning や研修会の開催を検討している。研修会は愛媛で開催という案もあるので、その際には先生方にお声かけさせて頂きます。ご協力をお願いします。サバイバーシップについても、病院全体でサポートをおこなっていく

体制をつくっていきたいと考えている。

《質問特になし》

7) がん看護専門部会 (資料 14)

＜がん看護専門部会 大西部会長＞

・昨年度の活動報告

定例会を2回実施した。がん看護実践能力向上 WEB 研修会は、初めての試みとして WEB 研修、自施設実習を取り入れたため、研修対象者を拠点病院に限定して開催させて頂いた。9名の応募があり、受講生全員が研修を終了することができた。トピックス研修は、募集人数より多くの応募があり、ニーズに合った研修を開催することができた。

・がん看護実践能力向上研修会の活動について 令和3年度は第3期がん対策推進基本計画の分野別施策を達成するために、目的および内容を変更して「がんと診断された時からの緩和ケア」「ライフステージに応じたがん対策」にスポットをあてて、研修計画を立案して開催した。受講生参加施設においては、講義・実習の対応のみならず自施設の研修企画委員が実習生にかかわることができるようにというところで支援を頂いた。評価として、目標は達成できた。アンケートの結果を踏まえて課題も明確になっている。それらを踏まえて、令和4年度の計画は、日程を8.5日間程度に増やして講義内容の追加、中間評価・フォローアップ研修の開催、そして、現時点においては四国がんセンターにおいての実習を計画している。より効果的な研修が実践できるよう、現在、研修実施要項、ファシリテーターマニュアルの見直しに取り組んでいる。

定例会は2回の開催を予定している。

《質問特になし》

＜橋根幹事長＞

専門部会報告全体を通して確認事項、質問など、お気付きの点があれば事務局まで連絡をお願いします。

《質問・意見等特になし》

8. 愛媛県におけるがんの医科歯科連携推進に向けて (資料 15)

＜橋根幹事長＞

当初協議会が始まった時は歯科医師会から参加して頂いていたが、事務局の不手際により途中から連絡が途絶えていた。今年度から再度歯科医師会とも連絡をとり合って連携をしていけたらと思います。それに関して、当院の歯科医師から報告事項があるので、よろしくをお願いします。

＜四国がんセンター歯科医師 古川＞

当院のようながん専門病院でも「全ての患者」に「必要な口腔管理」を提供できておらず、重要度の高い患者から対応している。また、一般的には病院内に「がん医科歯科連携システム」の構築がない、または、構築されていても活用されていない場合も多く、患者が紹介状を持参せず、がん治療中であることも伝えずに地域の歯科医院等で歯科受診をしている事が推測される。これは、患者にとっても歯科医院にとってもリスクが高い。そこで、すべてのがん患者が必要な歯科治療・口腔管理を安心して受けられる体制の構築が必要であるが、病院歯科だけでは対応が難しく「歯科開業医」との連携が重要となってくる。

全国におけるがん医科歯科連携の現状は、がん治療開始前からの歯科受診は手術、抗がん剤ともに増加している。しかし、愛媛県においては不十分な面もある。

(参考) 開業歯科医院における周術期口腔機能管理計画策定数

	算定医療機関	算定回数
1位	広島県 838	5496
32位	愛媛県 37	289

がん治療病院とかかりつけ歯科との医科歯科連携推進するため、下記の事項を行いたい。

■ 県内の歯科医療従事者のがんについてのレベルアップ

- ・ 歯科医師、歯科衛生士向けのがん関係講習会開催▶歯科衛生士会は開催予定
- ・ 歯科衛生士会の協議会への参加

■ 県内での医科歯科連携の構築、歯科医師会とのさらなる連携

- ・ がん治療医の先生方に負担のかからない仕組み
 - ▶ 地域連携室等で対応（紹介先の歯科医院の選定、診療情報提供書作製）
 - ▶ 担当医の先生は書類の内容チェックと捺印を行う（負担軽減）
- ・ かかりつけ歯科の先生方がわかりやすい仕組み
 - 依頼が少ないと依頼内容や算定、書類がわかりにくい
 - ▶ 県内で医科歯科連携に関する書類を統一してどの病院から来ても同じ対応
 - ▶ 紹介状に必要な書類や処置別の対応方法の要点を同封等

《質問特になし》

< 橋根幹事長 >

歯科医師会との連携も途絶えていたようなので、今年度からまた復活してこのような活動もすすめていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。

予定議題はこれで終了しますが、その他追加事項等、何かあればお願いします。

< 四国中央病院 >

当院は本年度地域がん診療病院の申請を検討していることを報告させていただきます。またその節はよろしく願いいたします。

閉会の挨拶<山下協議会会長>

本日は日常診療終了後のお忙しい中、このような時間をとって頂き、報告会を中心にさせて頂きましたが、ご参集本当にありがとうございました。特に新たな取り組みとしては、一旦歯科の先生の参加が途絶えていたところ、また新たな取り組みがはじまったという報告がありました。宇摩地区に関して、以前に検討課題にさせて頂いていたところであるが、四国中央病院より新たに地域がん診療病院への申請を考えて頂いているということで、しっかりと、今後 5 月以降、ヒアリング等を始めて検討させて頂けたらと思っております。また皆様方に情報共有させて頂きますので、ご検討、ご意見等、よろしくお願いいたします。県の方からも、中間報告の状況も皆様に周知頂けたかと思いますが、よろしいでしょうか。全般通じて追加ご発言がないようでしたら、これで本日のがん診療連携協議会を終了させて頂きたいと思っております。ありがとうございました。

《質問・意見等特になし》

閉会

令和4年度 愛媛県がん診療連携協議会役員会および第1回専門部会報告会 議事録

開催日時：＜役員会＞令和4年8月6日（土）10：15～11：00

＜第1回専門部会報告会＞令和4年8月6日（土）11：00～12：00

開催方法：Web 会議 四国がんセンター新棟研修室からの発信

司会進行：協議会幹事長 四国がんセンター 橋根 勝義

出席者：別紙資料1「役員会名簿」

議題

1. 開会の挨拶＜山下協議会会長＞

皆様、本日はお忙しいところ本会にお集まり頂きましてありがとうございます。8月1日に「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」の通知が出され、このがん診療連携協議会の機能強化し、がん診療の質の向上と診療連携体制の整備し、地域のニーズに合わせた対応、情報共有することが盛り込まれています。しっかり役割が果たせますよう、ご協力をお願いします。

2. 令和4年度役員自己紹介（資料1 P.3 参照）

新規役員	四国がんセンター	院長	山下 素弘 先生
	市立宇和島病院	院長	善家 喜一郎 先生
	松山赤十字病院	院長	西崎 隆 先生
	愛媛労災病院	院長	木戸 健司 先生
	愛媛県歯科医師会	会長	橋本 成人 先生
		(代理出席) 副会長	松木 建二 先生
	愛媛県病院薬剤師会	会長	田中 守 先生

3. 報告事項

1) 第15回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（2022.06.30Web 会議）報告

＜山下協議会会長＞

*詳細については、がん情報サービスに掲載されている第15回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の議事を参照下さい。

平成30年から始まった第3期がん対策推進基本計画は今年度までとなる。

分野別施策 1. がん予防、2. がん医療の充実、3. がんとの共生 に関し、更なる充実について、特に情報提供の在り方、それに対してのプロセスなどに関しては、いくつか改善を求められる点があった。中間評価の概要について、①科学的根拠に基づくが

ん予防・がん検診の充実、については、がん検診の受診率を高めるという目標が達成できなかった。②患者本位のがん診療の充実、については、いろいろな形での提案や数値目標も挙げられており、協議会の役割もしっかり求められている。

具体的なところでは、

- ・「都道府県がん診療連絡協議会」の機能を強化し、情報共有と連携強化、利用される患者への広報活動や地域への周知を含めたがん診療等水準向上を目指す。
- ・県内拠点病院の役割分担を議論・整理し、情報共有につながる体制を確立する。
- ・頻度の高いがんに対する集学的医療体制の整備と、希少がん・小児がん治療や妊孕性に関する適切なネットワーク構築につなげる支援・情報提供体制を確立する。
- ・患者に対して「セカンドオピニオン受診を促す」、「必要な緩和ケア」を提供できる体制を構築する。
- ・相談支援センターの充実（人材育成と、患者はがん相談支援センターを一度は訪れることを拠点病院の「必要条件」に位置づける予定）。愛媛県ではがんサポートブックえひめ（冊子）の改訂版を発刊しているので、利用頂きたい。
- ・地域のがん登録に関しての目標設定や、人材の教育研修についても広く力を入れるようにといった提言がなされている。

以上のような点について、秋にはいろいろ確定してくると思われるので、協議会参加施設の皆様にはご協力をお願いしたい。

<橋根幹事長>

先日、がん診療連携拠点病院の指定要件が新しく公表されたので、各施設で現況報告に向けてよく目を通して頂きたい。

2) 愛媛県がん診療連携協議会規程・運営要綱、組織図（資料 3）

組織図（P.17）について、当院の藤山が副院長に就任したので、次回からは幹事を藤山が担当する。

<藤山四国がんセンター副院長>

四国がんセンター藤山です。この後役を引き継がせて頂きます。至らない点が多いと思いますが、宜しく願いいたします。

3) 厚生労働科学研究の報告「がん診療連携拠点病院等の指定要件関連の詳細の実態」病院第 81 巻第 5 号_医学書院。他（資料 8）

四国がんセンター谷水前院長から、班会議等で参加していた活動がまとまって本になったものを寄稿して頂いた。資料にも載せているが、各施設に数部ずつお送りする。

4) 令和3年度役員会、令和3年度第2回専門部会報告会、令和4年度第1回幹事会の議事録(資料4~6)

議事録資料について、不明な点や疑義があれば、お知らせ下さい。

5) がんに関する冊子のお知らせ(全国がんセンター協議会)(資料9)

毎年、中央から冊子が送られてきており各施設に配布しているが、昨今はコロナの状況で出張相談等のイベントが少なくなり冊子が余っているため、部数を増やして配布する。活用して下さい。

6) 愛媛県健康増進課

<保健福祉部健康衛星局健康増進課係長 三宅様>

・若年がん患者在宅療養支援事業について

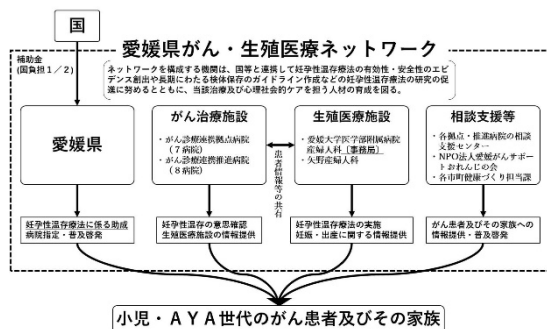
小児慢性特定疾病の医療助成と介護保険のはざまにある世代の方を対象に在宅療養を支援するため、令和2年度から開始している。昨年度までは一部市町で対応できていなかったが、今年度から県内の全市町で事業が実施できているので、各市町の相談窓口の詳細は問い合わせ頂きたい。対象は20歳以上~40歳未満、内容は訪問介護や入浴介護、また福祉用具の貸与・購入に対する助成であり、月額6万円を上限として、そのうち9割を市町と県で共同して助成する。この制度についてはまだまだ患者さんへの認知度が広がっていないところがあるため、各病院の相談窓口等においては、制度の周知にご協力をお願いします。

・小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

愛媛大学医学部附属病院様にネットワークを構築して頂くなどの多大なご尽力を頂き、本県においても今年度から事業を開始している。小児・AYA世代のがん患者に対して妊孕性温存療法や温存後の生殖補助医療に関し、治療費の概ね半額程度が補助される制度である。この制度は原則治療後に申請することとなる。制度の利用にあたっては、がんおよび妊孕性温存療法等の双方の主治医からの証明書が必要になるため、患者の方から要請があった場合にはご対応をお願いします。

ネットワークに関して、指定医療機関となる病院の指定には、県や学会の指定が必要となっており、現在愛媛県内では、愛媛大学医学部附属病院の産婦人科、松山市の矢野産婦人科の2つの医療機関が指定となっている。

3 事業イメージ



・第3期愛媛県がん対策推進計画の中間評価について

国の基本計画の中間評価に関しては、冒頭で山下会長より説明があったとおり公表されたところであるが、第3期愛媛県がん対策推進計画の中間評価は昨年度末に公表している。委員からは、主にごがん登録などの実態データを活用した県民への検診受診啓発の強化や、患者家族の方への情報提供の強化を図るべきという意見を頂いている。引き続き、原計画に沿ったがん対策の推進にご支援頂きたいほか、山下会長からご報告があったとおり、国の基本計画が今年度をもって改訂となり来年度から新計画がはじまり、それに沿った形で、県の対策計画も令和5年度を終期として国の新基本計画に沿った形で来年度改訂をおこなうため、改訂作業があるという予定となっている。その他、国がんの方では患者家族調査もおこなわれるようなので、ご協力をお願いいたします。

I 科学的根拠に基づくがんの予防・がん検診の充実

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・全国と比較して肝がんや乳がん、子宮がんなどの死亡率が顕著に高い
- ・がん検診の受診率は全国平均を下回っている状況
- ・新型コロナウイルス感染拡大による検診控え、受診控えの影響が出ている

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん登録情報をはじめとする実態データを活用して県民への注意喚起や本件独自の課題の抽出に取り組むことを検討されたい。
- ・検診受診の啓発に「がん対策推進員」を有効活用するなど、検診受診率の向上や死亡率の低減を図るための取組みの強化が必要

II 患者本位の安全・安心で質の高いがん医療の提供

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・セカンドオピニオンに関する話しを受けた患者が少なく、医療者間での情報共有や患者が相談しやすい体制作りに大きな課題がある
- ・患者の2割が専門的な医療を受けられたと感じていない（希少がんについては4割がそう感じていない）

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・患者やその家族が納得して治療を受けられたと感じられるよう、医療機関や医療スタッフ間での更なる連携強化、情報共有が必要
- ・専門的な人材の確保・育成・配置に更に注力されたい

III がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現

【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・依然として、患者やその家族に対して十分に情報が届いているとは言えない
- ・がん患者の就労や小児・AYA世代など特有の課題を抱えている世代への支援やサポート体制が不十分である

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん相談支援センターを核に、医療関係機関や行政、患者団体等がそれぞれの立場で情報の共有や周知の強化を図ることが必要
- ・相談支援や啓発に携わる人材育成にも取り組んでいくことが必要複数の分野に係る意見

複数の分野に係る意見

【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・次期計画の目標や指標の設定にあたって、各分野の主要な取組みの内容や成果を検証、評価するためのエビデンスについて改めて関係者間で御議論いただきたい。

<橋根幹事長>

若年者および妊孕性に関して、県でもサポートの体制をすすめて頂いていますが、各施設の方でも十分な周知と患者さんへの説明等が必要と思いますので、引き続き、協議会の方ですすめていきたいと思えます。

何か質問があれば、事務局まで連絡をお願いします。

7) 愛媛県におけるがんの医科歯科連携推進に向けて (資料 10)

<橋根幹事長>

医科歯科連携においては今まであまりすすんでいなかった面もあるため、今年から少しずつ体制を構築できたらと思えます。当院の歯科古川より説明があります。

<四国がんセンター古川歯科医長>

当院のようながん専門病院でも「全ての患者」に「必要な口腔管理」を提供できておらず、重要度の高い患者から対応している。また、一般的には病院内に「がん医科歯科連携システム」の構築がない、または、構築されていても活用されていない場合も多く、患者が紹介状を持参せず、がん治療中であることも伝えずに地域の歯科医院等で歯科受診をしている事が推測される。これは、患者にとっても歯科医院にとってもリスクが高い。そこで、すべてのがん患者が必要な歯科治療・口腔管理を安心して受けられる体制の構築が必要であるが、病院歯科だけでは対応が難しく「歯科開業医」との連携が重要となってくる。

全国におけるがん医科歯科連携の現状は、がん治療開始前からの歯科受診は手術、抗がん剤ともに増加している。しかし、愛媛県においては不十分な面もある。

(参考) 開業歯科医院における周術期口腔機能管理計画策定数

	算定医療機関	算定回数
1位	広島県 838	5496
32位	愛媛県 37	289

がん治療病院とかかりつけ歯科との医科歯科連携推進するため、下記の事項を行いたい。

■ 県内の歯科医療従事者のがんについてのレベルアップ

- ・ 歯科医師、歯科衛生士向けのがん関係講習会開催
 - ▶ 歯科衛生士会は秋に開催予定
- ・ 歯科衛生士会の協議会への参加

■ 県内での医科歯科連携の構築、歯科医師会とのさらなる連携

- ・ がん治療医の先生方に負担のかからない仕組み
 - ▶ 地域連携室等に対応（紹介先の歯科医院の選定、診療情報提供書作製）
 - ▶ 担当医の先生は書類の内容チェックと捺印を行う（負担軽減）
- ・ かかりつけ歯科の先生方がわかりやすい仕組み
 - 依頼が少ないと依頼内容や算定、書類がわかりにくい
 - ▶ 県内で医科歯科連携に関する書類を統一してどの病院から来ても同じ対応
 - ▶ 紹介状に必要な書類や処置別の対応方法の要点を同封等

4. 協議事項

1) 令和4年度後半スケジュール

今年度後半のスケジュールについて、10月13日の幹事会までは日程が決定しているが、その後の第2回専門部会報告会の開催日程が決まっていない。候補日について、資料中に1/12、1/19を挙げているが、できれば1月中で、また、年明け早々になるため1/19（木）に開催させて頂きたい。従来は12月に開催していたが、多くの方に参加頂きたいことから、開始時刻が遅くはなるが、平日の17時半から1時間半ぐらいの時間帯での開催として、提案する。

《異議なし》

<橋根幹事長>

第2回専門部会報告会の開催は令和5年1月19日（木）17時30分～、に決定とします。もし何か都合があれば、事務局まで連絡下さい。

2) 令和5年度年間スケジュール

例年4月に開催している幹事会と、7～8月に開催している役員会の日程について検討したい。幹事会の候補日は4/13か4/27を挙げているが、学会シーズンでこの期間もかなり多くの全国学会があり、日程的には厳しいところがある。

《異議なし》

<山下協議会会長>

8月の役員会については、本日も、午後からの時間帯での開催に変更となったが、愛

媛県外科会など各種学会等の予定が重なるため、先生方のご都合をお聞かせ頂きながら、できる限り調整をしていきたいと思っております。

<橋根幹事長>

幹事会は第一候補を 4/13、第 2 候補を 4/27、役員会は第一候補を 7/29 の提案とし、学会等の先生方の都合によって可能な限り調整する。

3) 令和 5 年度緩和ケア研修会 PEACE 日程案 (資料 13)

各施設で日程案を確認の上、検討をお願いします。

4) 愛媛県でのがんデータベースの構築について (資料 14)

<がん登録専門部会 寺本部長>

議案；愛媛県がん診療連携協議会（協議会）が『愛媛県がん情報データベース』を構築し、『研究利用』という枠組みで利用する。

データベースの構築・管理は愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会と四国がんセンター臨床研究センターがん予防疫学研究部、愛媛県がん登録室が共同で行う。協議会の方々に構成される『データ利用促進委員会』で議論したいと考えているので、成立したら、是非、参加をお願いします。

背景；現在では、愛媛県のがん診療連携協議会ではがん登録専門部会が中心となって「がん登録でみる愛媛県のがん診療」という冊子を作成している。県の事業として集計事業としておこなっているが、冊子やがんサポートサイトえひめに提供することはできるが、医療関係者の方々から希望にあわせた詳細なデータについては、集計事業であるため研究的に近いものは提供しづらいというようなことがあった。

⇒集計事業は継続するが、臨床研究という枠を付け加えて実施していきたいと考える。

*がん登録データなど、既存資料の研究利用については、これまでは、それぞれの施設での倫理審査委員会で承認を得てそれぞれの公示文書を作成し、公示していたが、根拠となる法律等の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」とその「ガイダンス」、「個人情報保護法」が改正され、協議会の全施設を一括で倫理審査をおこない、同一の公示文書で公示できるようになり、利活用しやすくなった。

がん登録関連データの収集について；

役員会、倫理審査委員会で承認後

A 国がんへの全国集計データ提出

B 愛媛県院内がん登録集計（0 年データ）

C 愛媛県院内がん登録生存率集計 (予後付きデータ)

D 東班 QI データ (拠点のみ参加)

(→提出用アプリがあり簡単に提出できるので、推進病院にも参加頂きたい。)

愛媛県がん情報データベースでは上記の B、C、D を取り扱う。

B 愛媛県院内がん登録集計 (0 年データ)

C 愛媛県院内がん登録生存率集計 (予後付きデータ)

D 東班 QI データ

愛媛県がん登録データベースを作成したらできること；

データ活用の範囲が増える

- ・ NCD にデータを申請する前の予備データとなる。
 - ・ 臨床研究を計画したいが、予後情報や治療情報を含めて知りたい。など。
- 例) セカンドオピニオンの各施設の初回治療時までにおこなっている数。

類似先行事例；

1. 北信がんプロ運営委員 データベース委員会

<https://gan-pro.net/about/>

富山、金沢の辺りの先生が中心となって活動している。院内がん登録の研究利用という形でデータベースを作っている例がある。1、2 例 AYA 関係の研究が動いており、同じようなことを目指している。

役員会および倫理審査委員会で承認を頂けたら、今までと同じ扱いのがん登録データを研究利用できるデータベースの形にして、使いたい人が、迅速審査で 1 カ月程度でデータ提供を受けられるところを目指したい。

ご承認をよろしく願いいたします。

< 橋根幹事長 >

特に各施設から追加のデータが要るということではなくて、研究をしたいということデータをデータ利用促進委員会事務局に申し出れば、倫理審査委員会に提出する資料も準備できるということでしょうか。

< がん登録専門部会 寺本部長 >

中央倫理審査委員会での一括審査に提出するための書類は現在作成中である。先生方から、このようなデータが欲しい、という相談をしてもらえると、目的やタイトルを書き換えるだけで倫理審査委員会に提出できるような書類の作成を検討しているので、迅

速審査の上提供できることになると考えている。

《異議なし》

<橋根幹事長>

懸念事項が何かあれば、事務局まで連絡をお願いします。特に反対意見がなければ、承認とさせて頂けたらと思います。

WEB 会議室を切り替え

6. 専門部会報告(資料15)

1) PDCA 部会

<PDCA 部会 寺本副部会長、青儀副部会長>

第1回専門部会を6/21に開催した。

1. 患者体験調査について

国立がん研究センターで3~4年に1回程度、患者体験調査が定期的に実施されている。患者さん自身に診療内容を評価して頂くという患者目線の評価指標となるので、これを活用させて頂いて、県全体でデータを共有し、PDCA活動につなげられないかという検討をおこなっている。質問の例)・「がん治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができたか。・がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話がありましたか。など。愛媛県の中間報告が公表されたことから、協議会、がんサポートサイトえひめ等のホームページに公開するための案を作成している。いくつかの点を取り上げてPDCAの対象とする。

2. 東班「QI研究」について

・PDCA部会における指標として採用

①大腸がん 継続 2018 大腸癌への術後化学療法

④全がん 継続 2018 制吐高リスクの抗がん剤へ制吐剤

⑤全がん 継続 2018 外来麻薬開始時の緩下剤処方

⑦胃がん 継続 2018 切除不能IV期胃がんへの化学療法前 HER2 検査

⑧胃がん 継続 2018 化学療法前の血液検査

①、⑦については改善の余地がないくらいに良かった。

ホームページに公開してお知らせできるよう準備中である。

3. 専門部会活動のアンケート調査

専門部会活動に対しては、外部評価をされていないのではないかという視点から、各施設幹部(PDCA委員など)と一般職員(非専門部会員を含む)の皆様を対象として各専門部会

の活動の認知度や評価をアンケートとして実施し、それを協議会自身の PDCA 活動とできるのではないかと。質問の例)・活動の認知度『がん登録でみる愛媛県のがん診療』・全国がん登録データ・がんサポートサイトえひめ・研修会など。・活動の評価 実際に役に立ったことがあるかないか、利用したことがあるかないか。期待。など。

まずは、がん登録専門部会からはじめるということで、先週、メーリングリストに配信した。幹事・PDCA 部会員向けと、一般協議会職員向けと 2 種類あるので、間違えないよう回答にご協力下さい。

4. 協議会共通 Quality Indicator の設定について

愛媛県独自の Quality Indicator を作成したい。PDCA 部会員宛てにアンケートを取らせて頂き 1. がん診療評価指標 2. がん診療体制の質に関する調査 3. がん相談支援の PDCA サイクル確保の取り組み 4. 緩和ケアチームセルフチェックプログラム などの QI を使っているということをお知らせ頂いた。簡易な指標を用いて経営などを含めた指標ができないかということで模索している。

5. 相互訪問調査／WEB 監査について

がん診療の質を担保する取り組みとして、相互訪問調査の実施を検討している。相互訪問調査は 5～6 年前に実施しているが、今回はより負担が少ない方法で実施したいと考えており、Web による施設間ピアレビューを計画している。国立がん研究センターで完成している ZOOM によるハイブリッドでのピアレビューのメソッドを紹介。完全リモートでは手順の問題など難しいので、ハイブリッドの形で、できれば今年度中に開始できるよう検討をすすめたい。

6. がん診療体系の質に関する調査について

毎年度末に行っている東京大学の質評価指標調査については、愛媛県全体の医療の質の向上を目指している。今回(昨年度末に行った)調査結果が出たので供覧する。トップマネージャーに病院の出来栄えファイルとして評価用のファイルが送られ評価を依頼しているが、各診療科の現場医師に向けて、ミドルマネージャー、スタッフ用の簡単なミニ調査票も開発されている。診療科におけるミドルマネージャーの先生方の意識や認識がわかるような、簡易なものであると、興味があれば、是非参加をお願いしたい。

《質問特になし》

2) がん地域連携専門部会

<がん地域連携専門部会 橋根部会長>

・7/13 に Web で専門部会を開催し、主に 2 つの議題について意見交換をおこなった。

議題 1 診療報酬の改定による病院体制に変更があったか。

議題2 コロナ禍でオンライン面談が普及してきたので、オンライン面談の取り組み状況と件数。

- ・大きな病院体制の変更はなかった。
- ・オンライン診療(セカンドオピニオンなど)の実施や検討をしている施設は現時点ではなかった。
- ・コロナ禍のため、発熱外来などに関しては、タブレットなどを利用した問診や診察について、各施設で独自の取り組みがなされているようであった。

連携パスの充実について

- ・乳がんの連携パスについて、現在は5年計画のものであるが10年間に対応できるパスを作成してもよいのではないか。
- ⇒乳がんに関しては、10年対応の連携パスを使用していくことが承認された。
- ・連携パスの普及については、改訂や運用についてなど更に検討していく。

コロナ禍で対面での専門部会が開催できていないが、がん地域連携専門部会では、各施設の連携室の取り組みについて事前にその時々状況に応じたアンケートをおこなって、連携を強めていくという方針を固めた。

《質問特になし》

3) 緩和ケア専門部会

＜緩和ケア専門部会 成本部会長＞

- ・7/8にWeb会議で専門部会を開催した。
- ・1症例を通してグループワーク。テーマ「患者さん・家族の声を聴いていますか」4つの課題を用意し、3グループに分かれてディスカッションをおこなった。
 - 1) あなたがもしこのケースに遭遇したら、どう思い、何をしますか?
 - ・経過をたどると状態が悪化傾向だったので、治療継続が難しくなってきた入院の際に、今後どうするか意思決定ができていれば良かったのではないかと思います。
 - ・帰宅願望があるが症状が強くなり難しい場合、症状緩和が可能か否かを検討する必要があるのではないかと思います。
 - ・どのような状況であっても本人や家族の覚悟次第では帰宅が可能であるから、双方の覚悟を確認した上サポート体制を整え、在宅療養の準備ができれば良かったのではないかと思います。
 - 2) 緩和ケアチームが療養場所の支援にどのように取り組んでいるのか?
 - ・チームとしては介入できておらず、緩和ケアナースや退院支援担当者が介入し主治医へ報告している。

・宇和島地区ではモデル事業があり、地域リソースも把握している上、状態が悪い患者でも受け入れてくれるという信頼関係があるので、在宅緩和に繋げやすい。

3) 意思決定支援で心がけていることは何か？

- ・患者・家族双方から話を聞く。
- ・本人の意向を第一に確認。家族と意見の相違がある場合、チームメンバーが介入し本人と家族の橋渡しができるのであればよいのではないかと思います。
- ・医療者としてはどちらか一方に気持ちが傾くことがないように、本人・家族が同じ立場で話せるよう配慮し、関わっていければよいのではないかと思います。

4) 患者・家族が望む療養場所の決定支援に必要な情報は何か？

- ・本人・家族の意向
- ・病状・予後の認識
- ・マンパワー・社会資源の状態

・ベテル病院中橋先生のミニレクチャー

「緩和ケアをスムーズに進めるための3つのポイント」

①目標の確認

自分らしい生活の在り方・目標をどのように考えているかを確認することは緩和ケアの大切な出発点である。

②病状についての共有

本人・家族と医療者が共通の認識を持つことが大事である。

③予後の予測

いろいろな今後の見通しを立てる上で予後を予測することは重要である。

・まとめ

4つのポイントで、患者さん、家族の声を聴きましょう。

- ①病名・病状の認識 ②治療・療養の場所に対する気持ち
- ③余命についての認識 ④療養についての希望

《質問特になし》

4) がん相談支援専門部会

<がん相談支援専門部会 灘野部会長>

・7/14にWEBで専門部会を開催した。

I. 報告・協議事項

1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告
(第18回5月26日(木)オンライン配信)

1) 次期基本計画及び整備指針への提案内容

人員配置要件や相談員の研修終了要件の見直しについて

2) 愛媛県から当専門部会の取り組みについて発表を行った。

3) 「がんと診断されて間もない人向け情報コンテンツ」(冊子)について作成したので、利用して頂くように情報提供があった。利用の仕方について、医師向けにビデオが供覧できる。

4) 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

2. 愛媛県健康増進課より

・「若年がん患者在宅療養支援事業」について

今年度からは県内の全市町で実施できるようになった。

・今治市・西条市で「ウィッグ及び胸部補整具購入費助成事業」が始まった。

・「小児・AYA 世代のがん患者の妊孕性温存療法研究促進事業」の県内動向について

3. AYA 世代支援活動についてアンケート結果(2021年度実施)について

昨年度実施した AYA 世代支援活動のアンケート結果のホームページへの掲載については、個人情報観点から検討することとなった。

4. 都道府県がん診療連携協議会四国ブロック会申し合わせ事項について

相談支援部門では四国ブロックでもいろいろな活動をおこなっており、申し合わせ事項を作成したのでご承知をお願いしたい。

5. 各ワーキンググループからの活動報告

1) 相談員研修ワーキング

・四国ブロックの活動としての地域相談支援フォーラム in 四国について、今年度は愛媛主催で開催する(令和4年10月22日、WEB開催)。ご協力をお願いします。

2) 広報活動ワーキング

・がんサポートブックえひめ第4改訂版が完成した。拠点病院へは500冊、推進病院へは100冊ずつ四国がんセンターから配布させて頂いた。

・都道府県連絡協議会で情報提供のあった「がんと診断されて間もない人向け情報コンテンツ」(冊子)とがんサポートブックえひめの両方を上手く利用しての広報活動について、今年度、検討することを予定している。

3) チェックリストワーキング

・昨年度実施報告と今年度の評価及び課題について

・チェックリストに Google フォーム(がん相談支援専門部会 Google アカウント)を使用すること、重点項目の評価のみ実施するという件について検討をおこない、承認を得た。

・チェックリストの提出について、今年度も例年通り11月末(11/30(水))までに全施設

より提出頂き、WGで結果を取りまとめる。今年度の重点目標は、①患者を孤立化させない支援、②研修参加の促進の2点について検討する予定としている。

6. がん患者サロンについて

1) おれんじの会松本さんより

ピアサポーターの派遣およびピアサポーター養成研修について

コロナ禍でなかなかスムーズに行なえないが、今年度も養成研修は行う(令和4年9月予定)。

2) サロンの開催状況について

四国がんセンター患者・家族総合支援センター暖だんの現状報告と、愛媛大学医学部附属病院のオンライン開催取り組みについての紹介があった。

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

1) 「認定がん専門相談員」認定事業の研修案内

2) 「情報から始まるがん相談支援」研修案内

令和4年8月21日(日)高知県主催でオンライン開催

II. その他

1. がん診療連携拠点病院等指定要件に関するワーキングより

(おれんじの会 松本さんより)

2. 2022年度愛媛県災害時連絡シミュレーション実施について

毎年おこなっている愛媛県災害時連絡シミュレーションを、8月1日に行った。

3. 災害発生時の部会活動中止・延期に関する取り決めについて、周知をおこなった。

<愛媛大学医学部附属病院の薬師神先生より>

若年がん患者在宅療養支援事業について、具体的に詳しく教えて下さい。

<愛媛県保健福祉部健康衛生局健康増進課係長 三宅様>

事業の概要についての説明あり

<おれんじの会 松本さん>

この事業については患者団体からも強い要望を出して県のご理解により実現して頂いている。20歳~40歳未満の方は、国の制度上、在宅で過ごしたい場合に全く何もサポートがない状態となる。例えばベッドを借りるとかヘルパーさんの助けを得るといった場合に、この事業を利用することで介護保険並みのサービスを利用できるという制度となっている。県と市町のご理解に感謝しております。医療者の皆様からも是非こういった制度があることを紹介して頂けたらと思います。

5) がん登録専門部会

＜がん登録専門部会 寺本部長＞

- ・6/24に専門部会をWebで開催した。

1. がん登録専門部会の Vision について

これまでの活動方針は、自分たちが頑張ることに重点をおいていたが、これからは周りをみて「質の高いがん登録を継続して行える体制を作り、住民・医療関係者の期待に応え、信頼できるがん情報を提供する」。目指すところをホームページに挙げている。

2. 都道府県がん診療連携協議会報告

- ・今年度は院内がん登録と全国がん登録の提出を1回の提出作業で完了するよう「がん登録共通届け出システム(GTS)を利用するように変更があった。
- ・東班QI研究は拠点病院のみの参加となっているが、推進病院の参加も可能なので、愛媛県のPDCA活動としても重要な研究活動となっているので、推進病院も是非参加して下さい。提出作業はアプリに登録をするだけで完了できる。
- ・患者体験調査が2023年に実施される。(2022年度中に倫理審査および対象者選択の通知がある。)

3. 全国がん登録室からの連絡事項

昨年と同様のスケジュールで提出をお願いします。

- ・院内がん登録 全国集計提出期間と同じ。
- ・がん診療連携拠点病院 2022年7月4日(月)～8月5日(金)
- ・がん診療連携推進病院 2022年8月8日(月)～9月9日(金)

4. 活動検討委員会について

実務者が主体となって検討できる場の一つとして運営している。これまで、医師(山下夏・がん登録部会副部長)が中心となっていたが、今年の夏より腫瘍登録士を中心に活動していくようにスタイルを変えている。腫瘍登録士同士で試験(受験)の支援などをおこなっている。

5. 2021年症例冊子『がん登録でみる愛媛県のがん診療2023』

- ・例年同様に2021年のデータを国がんへ提出後に集める予定としているが、今年は院内がん登録の提出方法が変わったことで冊子の発刊は遅れる可能性がある。
- ・愛媛県がん情報データベースの構築により、研究利用が可能となる予定である。
- ・コロナ速報を昨年引き続き実施する。『健康のために必要なことはコロナ禍でも自粛してはならない』
- ・昨年は、冊子を院内で配布したいので部数を増やしてほしいという要望があった。受付ますので希望があればがん登録専門部会事務局まで連絡下さい。
- ・全県集計については腫瘍登録士以外のメンバーを集めて編集委員会を開くことも検討しているため、参加したい方はがん登録専門部会事務局まで連絡下さい。

6. C15 に関して

がん登録専門部会は全国がん登録も視野に入れて活動しているが、「Cancer incidence in five continents」という世界のがん罹患についての冊子に愛媛県からもデータを提出して、次の号から参加できることになった。これは、WHO のブルーブックなどで、どこの国に何のがんが多いというような最初のページに書いてあるようなデータの元になっているもので、精度の高い地域がん登録であると認められた国と地域のみ参加できる。これまでは全国で9県の参加であったが、17都道府県が参加することになり、その中に愛媛も加わることとなった。

7. がん情報利用プロジェクトを再開する予定。具体的には決まっていない。

8. 5大がん登録講座第10回記念大会を来年開催する。腫瘍登録士以外でも参加可能なので、参加下さい。

9. がんサポートサイトえひめ

・愛媛県がん診療連携協議会(がん登録専門部会とがん相談支援専門部会が共同で)が愛媛県より受託したがん患者さんのためのがん情報サイトで、「愛媛県がん対策推進計画」に基づく。

・がん種別(乳房・胃・大腸・肺・肝臓・子宮頸部・原発不明癌・AYA世代(15~39歳)のがん、膵臓、前立腺)はほぼ揃ったので、内容を充実させていく。アンケート7/31締切でData更新、HP関係では図のRetina対応化、HP appearance近代化、などを検討中である。

・広報をどんどんしていく必要があるが、コロナ禍のため中断している。近いうちにWEBミーティングなどを開きたい。

・アクセス状況 11689 views/2020、4406 unique access/2020

<おれんじの会松本さんより、患者体験調査のスケジュールについて再確認して頂いた。>

6) がんの集学的治療専門部会

<がんの集学的治療専門部会 青儀部会長>

・7/14にWEBで専門部会を開催した。

1. 「在宅がん患者のirAE管理ツール」の運用について
2. 薬薬連携「保険薬局とがん専門病院のがん化学療法に関する連携」について
3. 愛媛県在宅ケア推進協議会の活動について
4. 曝露体験型セミナーについて、曝露調査について
5. 放射線治療FAX紹介簡易版について
6. がん薬物療法多職種チーム研修について
7. 提案：がんサバイバーシップ研究について

1. 「在宅がん患者のirAE管理ツール」の運用について

愛媛大学の薬師神先生が中心となって開発されたIT技術を用いた「在宅がん患者の

irAE 管理ツール」について紹介。通院治療での抗がん剤の副作用に関しては、医療者が患者さんの体調をアップデートした形で把握することが難しいといった状況がある。そこで、医療者、患者さんの双方が簡単にアクセスして患者さんの副作用や不安等を把握できる方法がないか検討して頂き、IT 技術を用いて、毎日の患者さんの体調を医療者が知ることができるようなシステムとして開発されたものである。愛媛大学の中央倫理審査委員会での承認が得られており、四国がんセンターでもこのシステムが利用できないか検討をすすめているが、連携協議会参加施設の皆様、参加施設外の皆様も無償で利用可能であるので、使ってもらいたい。

2. 薬薬連携「保険薬局とがん専門病院のがん化学療法に関する連携」について

外来化学療法をおこなう際の保険薬局と医療機関との連携について、愛媛県薬剤師会の会員保険薬局の薬剤師を対象としたアンケート調査結果のまとめを提示。特定薬剤管理指導加算2について調査時点で取得しているのは1/4に留まっており、薬薬連携について充実させていく必要がある。がんに関する新しい情報を得るための勉強会の機会についても、まだまだ利用されていない現状があるので、医療機関の側からも勉強会の機会を提供していくことが必要である。次回は、医療機関の連携充実加算の取得状況を調査させて頂きたい。

3. 愛媛県在宅ケア推進協議会の活動について

愛媛県在宅ケア推進協議会の活動についての報告あり。在宅緩和コーディネーターを中心とする各地区の症例検討会があるのでご案内していく。

4. 曝露体験型セミナーについて、曝露調査について

例年行っていてコロナで中止になっていた曝露体験型セミナーを 2022/6/30 (木曜日) 18 時から当院で開催した。国がん名誉総長、抗がん剤曝露対策協議会理事長の垣添忠生先生のご講演もあり、各ご施設からのご出席も含め 53 名の参加ありとの報告あり。

ケモ関連スタッフの尿中サイクロフォスファミドのパイロット試験を 2022/2 に実施、尿中の濃度が高いスタッフあり。また通院治療室、薬剤部の床、壁からサイクロフォスファミド、5-FU が検出された。再調査中で、対策・モニタリングが必要かと思われる。部会内での調査も検討中である。

5. 放射線治療 FAX 紹介簡易版について

放射線治療 FAX 紹介を簡易におこないたいということから、明日の予定はどうか、等の手続きが簡易にできるような放射線治療 FAX 紹介簡易版の原案を作成し、協議会参加施設に配布をする予定で準備をすすめていたが、関係者間で相談し、まず四国がんセンターから紹介の際に原案の様式を使用し、問題点を探ってから検討したい。協議会参加施設の皆様には、ご意見を頂ければと思います。

6. がん薬物療法多職種チーム研修について

外来通院治療室のよりきめ細かい運用を目指して「実践から学ぶがん薬物療法多職種チーム研修」を 7/30(土)に開催した。MSW を中心とした情報共有の方法についての検討が本

研修の要である。県内 3 施設のご参加をいただき、医師・薬剤師・看護師・MSW のチーム活動として問題点の検討をおこなっている。継続して開催していく。

7. 提案：がんサバイバーシップ研究について

第 3 期がん対策推進基本計画、分野別施策の「がんと共生」、がんサバイバーシップに関して、がんサバイバーシップケアモデルに関する概念定着や実践の展開は十分とはいえない。愛媛県で、どういったリソースを用いてサバイバーシップケアを展開していくか、日本癌治療学会とファイザーのチーム医療に関する 3 年間の研究助成金が取れたので、e-ラーニングと、地方研修プログラムを作成予定である。その折は愛媛県がん診療連携協議会参加施設の皆様のご参加をお願いしたい。書籍「がんサバイバーシップ学」については、各施設に 1 冊ずつ配布させて頂いた。

《質問特になし》

7) がん看護専門部会

＜がん看護専門部会 大西部会長＞

- ・がん看護専門部会の重要な活動としてのがん看護実践能力向上研修について

コロナ禍の中、令和 2 年度は実施できず、令和 3 年度は初めての試みとして WEB 研修、自施設実習を取り入れ、対象者を拠点病院に限定して開催させて頂いたが、9 名の修了者を得ることができた。

令和 3 年度は第 3 期がん対策推進基本計画の分野別施策を達成するために、それまでの目的および内容を変更して「がんと診断された時からの緩和ケア」「ライフステージに応じたがん対策」にスポットをあてて研修を企画し、開催した。

令和 4 年度は令和 3 年度の実績と課題を踏まえた研修企画となっており、県内施設から 17 名の応募があった。講義は WEB において 7 日間（令和 3 年度）→10 日間とし、トータルペイン、危機理論、セルフケア、家族ケア、を追加し、中間評価およびフォローアップ研修をおこなう。実習は、感染対策に気を付けながら、四国がんセンターでの実習も再開することとしている。全ての実習を自施設でおこなう／全ての実習を四国がんセンターでおこなう／病棟実習を自施設でおこない、通院治療室や患者・家族総合支援センターなどの他部門実習を四国がんセンターでおこなう、といった選択が可能となっていることが今年度の特徴である。

推進の要である各施設のファシリテーターとの連携を図りながらすすめていく。8/18 が開講予定となっているので、実習生参加施設におきましては、講義、実習支援等ご協力をよろしくお願いします。

- ・令和 4 年度第 1 回専門部会の開催は 9/27 を予定している。

《質問特になし》

<橋根幹事長>

先程、役員会で決定したことをお知らせします。次回第2回の専門部会報告会について、毎年12月の土曜日の開催であったが、沢山の方が参加できるよう平日の方がより良いであろうということで、第一候補として年明け1/19(木)夕方5時30分からの開催を予定します。第二候補は1/12(木)ですが、なるべく1/19(木)5時30分～開催で予定しています。参加される方は予定をお願いします。

<橋根幹事長>

専門部会報告全体を通して確認事項、質問など、お気付きの点があれば事務局まで連絡をお願いします。

最後に、いつも参加して頂いているおれんじの会の松本さんから、何か追加発言等ないでしょうか。

<おれんじの会 松本さん>

新しく拠点病院の整備指針が1日に発出されているが、その中で、がん診療連携協議会への拠点病院の参画が強く打ち出されている。患者団体の参画を求めるといった文言も入っているが、愛媛県については、いち早く加えて頂くという取り組みがなされていることに感謝申し上げます。相談支援センターの周知などについては皆様方に一層のご協力を頂く点が増えると思いますが、どうぞよろしくをお願いします。

閉会の挨拶<山下協議会会長>

本日はお忙しい中長時間に渡りこの会に参加頂きありがとうございました。繰り返すにはなりますが、松本さんからも報告がありましたように、次期の基本計画に向けていろいろな体制について、強化して欲しいといった希望やご意見が反映される形で、指針が出されております。我々も、この状況に応じて、地域の先生方とも連携を深めながら情報発信ならびに診療レベルを高める努力を続けていって欲しいという主旨であったと思いますので、ご確認頂きながら引き続きご協力頂きたいと思っております。本日は本当にお忙しい中、長時間にわたりありがとうございました。これで終了とさせていただきます。

閉会

がん病診連携拠点病院指針 整備について (主な変更点抜粋) 2022年8月通知概要

1. 都道府県協議会における役割 (変更点概略)

「都道府県がん診療連携協議会」の機能を強化し、情報共有と連携強化、利用者への広報活動も含めたがん診療水準の向上を目指す。

県内拠点病院の役割分担を議論・整理・共有し、頻度の高いがんに対する集学的医療体制の整備と、希少がん・小児がん治療や妊孕性に対する適切なネットワークにつなげる支援・情報提供体制を確立する。

がん患者に対して「セカンドオピニオン受診を促す」、「必要な緩和ケア」を提供できる体制を構築する。

相談支援センターの充実 (人材育成と、相談支援センターの機能強化が盛り込まれ、患者はがん相談支援センターを1度は訪れることをがん拠点病院の必須要件に次回から位置づける予定)

2. 診療体制

① ア 集学的治療、リハビリテーション及び緩和ケア

ウ i 日常的なカンファレンス

ii 治療方針検討するカンファレンス

iii 臓器横断的にがん患者の診断及び治療方針を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンス

iv 臨床倫理的、社会的な問題を解決するための、具体的な事例に則した、患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした院内全体の多職種によるカンファレンス

エ 院内の緩和ケアチーム、口腔ケアチーム、栄養サポートチーム、感染防止対策チームなどの専門チームへ、医師だけでなく、看護師や薬剤師等の診療従事者から介入依頼できる体制を整備すること。

②手術療法、放射線療法、薬物療法の提供体制の特記事項

イ 厚生労働省院内感染サーベイランス事業(JANIS)へ登録していることが望ましい。

ウ 強度変調放射線治療と外来での核医学治療を提供することが望ましい。

エ 密封小線源療法について、地域の医療機関と連携し、役割分担すること。

オ 専用医療病室の内容情報提供体制と紹介体制の整備。

キ 画像下治療(IVR)を提供することが望ましい。

ク 免疫関連有害事象を含む有害事象に関して、連携対応など。

ケ 薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会を設置すること。

③緩和ケアの診療体制

イ また、診断や治療方針の変更時には、ライフステージ、就学・就労・経済状況、家族との関係性等、がん患者とその家族にとって重要な問題について、患者の希望を踏まえて配慮や支援ができるように努めること。

ウ 診療従事者の対応能力を向上させることが必要であり、これを支援するために組織上明確に位置づけられた緩和ケアチームにより、以下を提供するよう体制を整備すること。

エ 緩和ケア外来の設置など外来において専門的な緩和ケアを提供できる体制を整備すること。なお、自施設のがん患者に限らず、他施設でがん診療を受けている、または受けていた患者についても受け入れを行っていること。また、緩和ケア外来等への患者紹介について、地域の医療機関に対し広報等を行っていること。

ク 入院時の資料配付、ホームページ上の公開等により、がん患者及び家族に対し判りやすく情報提供を行うこと。

コ 疼痛緩和のための専門的な治療の提供体制について 自施設の実施状況や連携医療機関名など、実施体制の公表・周知

i 難治性疼痛に対する神経ブロック等について

ii 緩和的放射線治療を患者に提供できる体制整備

サ 全てのがん患者に対して苦痛の把握と適切な対応がなされるよう緩和ケアに関わる診療や相談支援、患者の PRO(患者報告アウトカム)、医療用麻薬の処方量など、院内緩和ケアに係る情報を把握し、検討・改善する場を設置し組織的に体制の改善に務めること。

④地域連携の推進体制

ア ii 希少がんに関して、専門家による適切な集学的治療が提供されるよう、他の拠点病院及び地域の医療機関との連携及び情報提供ができる体制の整備。

iii 高齢のがん患者や障害を持つがん患者について、患者や家族の意思決定支援の体制を整え、地域の医療機関との連携等を図り総合的に支援する。

iv 介護施設に入居する高齢者ががんと診断された場合に、介護施設等と治療・緩和ケア・看取り等において連携する体制の整備。

エ 地域の歯科医師と連携して対応すること。(望ましいから変更)

キ 緩和ケアチームが地域の医療機関や在宅療養支援診療所等から定期的に連絡・相談を受ける体制を確保し、必要に応じて助言などを行っていること。

ク 都道府県や地域の患者会などと連携を図り、患者会等の求めに応じてピア・サポートの質の向上に対する支援等に取り組むこと

⑤セカンドオピニオンに関する体制

ア すべてのがん患者とその家族に対して、他施設でセカンドオピニオンを受けられる

ことについて説明すること。その際、心理的な障壁を取り除くことができるよう留意すること。

ウ セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保することが望ましい。

⑥それぞれの特性に応じた診療など提供体制 (新たな項目)

ア 希少がん・難治がんの患者の診断・治療に関しては、積極的に都道府県協議会における役割分担の整理を活用し、対可能な施設への紹介やコンサルテーションで対応する。

イ 小児がん患者で長期フォローアップ中の患者については、小児がん拠点病院や連携する医療機関と情報共有する体制を整備すること。

ウ 生殖医療ネットワークの加入と、「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」への参画と、対象者への情報提供、支援体制の整備、診療従事者の配置・育成。

エ 就学、就労、妊孕性の温存、アピアランスケア等に関する相談支援体制の整備と、多職種からなるAYA世代支援チームの設置が望ましい。

オ 高齢者のがんに関して、併存症の治療との両立など連携する体制など

カ 医療機関としてのBCPを策定することが望ましい。(次回から必須要件となる予定)

(2) 診療従事者

① 専門的な知識及び技能を有する医師の配置

キ リハビリテーションに携わる専門的な知識及び技能を有する医師を配置することが望ましい。

ク がん診療連携拠点等の整備について 2022年3月31日まで認めていた、当該医療圏の医師数が概ね300人を下回る場合における医師の配置に関する特例は原則として認めない。ただし、地域における医療体制に大きな影響がある場合については、都道府県全体の医療体制の方針などを踏まえて、指定の検討会において別に討議する。

② 専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置

ア 放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の診療放射線技師を2人以上配置することが望ましい。(次回から必須要件となる予定)

エ 緩和ケアチームに、緩和ケアに関する専門的知識及び技能を有する薬剤師及び相談支援に携わる専門的知識及び技能を有する者をそれぞれ1名以上配置すること。(望ましいでなくなる) 相談支援に携わる者については社会福祉士であることが望ましい。これらは、他の部署との兼任を可とする。

オ 緩和ケアチームに協力する、公認心理師等の医療心理に携わる専門的知識及び技能を有するものを1人以上配置することが望ましい。(次回から必須要件となる予定)

キ がんのリハビリテーションに関わる業務に携わる専門的な知識および技能を有する

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等を配置することが望ましい。

(3) その他の環境整備 (医療施設から名称変更と項目追加)

①②患者や家族の利用できるインターネット環境について

③アピアランスケアに関して

④がん患者の自殺リスクに対し、院内で共通したフローを使用し、対応方法や関係機関との連携について明確にしておくこと。またその関係職種内の情報共有体制の確保と、自施設に対応診療科がない場合の診療連携体制の確保。

4. 人材育成 (研修の実施体制から名称変更と大幅項目追加)

(1) 各種学会が認定する資格等の取得について積極的に支援すること。広告可能な資格を有する者のがん診療への配置状況について積極的に公表すること。

(4) 連携する地域の医療施設のがん診療に携わる医師に対し緩和ケアに関する研修の受講勧奨を行うこと。

(6) 自施設の診療従事者等に、がん対策の目的や意義、がん患者やその家族が利用できる制度や関係機関との連携体制、自施設で提供している診療・患者支援の体制について学ぶ機会を年1回以上確保していること。自施設のがん診療に携わるすべての診療従事者が受講していることが望ましい。

5. 相談支援および情報の収集提供

(1) がん相談支援センター;オンラインの活用など情報通信技術の活用が盛り込まれる。

① 相談支援に携わる者のうち1名は社会福祉士であることが望ましい。

② 相談員研修などによる定期的知識の更新に努める。

③ (項目増加と内容追加)

ア 外来初診から治療開始までを目処に、がん患者およびその家族が必ず1度はがん相談支援センターを訪問することができる体制を整備することが望ましい。

(次回から必須要件となる予定)

その具体策や周知と、相談支援センターに関する広報活動

オ がん相談支援センターを初めて訪れた者の数を把握し、認知度の継続的な改善に努める。

⑤がん相談支援センターの業務内容について、相談者からのフィードバックを得る体制の整備と、都道府県協議会で報告し、他施設とも情報共有すること。

⑧患者サロンの設置と、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用

(2) 情報共有・普及啓発

- ① 希少がん、小児がん、AYA 世代のがん患者対応への治療支援（妊孕性温存療法を含む）が追加される。
- ④ 治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名などを広報すること。
- ⑤ 患者に対して治験も含めた医薬品などの臨床研究、先進医療、患者申出療養等に関する適切な情報提供と、医療機関への紹介
- ⑥ がん教育について、当該医療圏における学校教育や職域からの依頼に応じ、がんに対する正しい知識の普及啓発。

6. 臨床研究および調査研究

- (1) 研究の協力依頼に対応する窓口の連絡先を国立がん研究センターに登録する。
- (2) CRCを配置すること（望ましいから変更）。臨床研究法に則った体制の整備。

7. 医療の質の改善の取り組みと安全管理

- (3) 日本病院機能評価機構の審査などによる評価を受けていること

愛媛県がん診療連携協議会PDCA部会 令和4年度第1回専門部会報告

1. 患者体験調査について
2. 東班「QI研究」について
3. 専門部会活動のアンケート調査
4. 協議会共通 Quality Indicator の設定について
5. 相互訪問監査／WEB 監査について
6. がん診療体制の質に関する調査について

四国がんセンター 寺本典弘 青儀健二郎

1：患者体験調査について

患者体験調査報告書
平成 30 年度調査

国立がん研究センターがん対策情報センター
厚生労働省委託事業
令和 2 年 10 月

これまでの流れ

患者体験調査ご協力をお願い
患者体験向上のための全国調査に参加しています。～

平成 30 年 12 月 21 日
四国がんセンター院長
谷水正人

当院は、厚生労働省から「がん診療連携拠点病院」の指定を受け、地域におけるがん医療の充実に全力で取り組んで参りました。このたび当院は、がん対策推進基本計画の一環として国のがん対策の効果や進捗を知るために、当院を受診された皆様にアンケート調査を行うよう、厚生労働省の委託を受けた国立がん研究センターから依頼され協力をいたしております。

この調査では平成 25 及び平成 28 年 1 年間に当院を受診された患者さんの中から 100 名程度の方々に、アンケート調査票を郵送いたします。

この調査は、がん患者さんの体験が主たる調査内容ですが、比較のため、がん以外の病気で同時期に受診された方へも調査票をお送りしております。

調査票の発送は平成 30 年 12 月～平成 31 年 1 月の間の予定です。回答は国立がん研究センター研究事務局へ直接返送ください。

国のがん対策をより向上させていくためには、患者さんの体験を直接お聞きすることがとても重要ですので、どうか、調査へのご協力をお願い致します。

また、調査の集計結果は、当院に対しても伝えられる予定であり、当院の結果を全国と比較検討し、この調査の結果をこれからの診療向上に役立てる所存です。是非率直なご意見をお願いいたします。

ただ、アンケートの回答は自由ですので、回答しないことで不利益が生じることは一切ありません。また、プライバシー保護のため患者の皆さまに送付する際の封筒にも当院の病院名を記載しないこととしています。

お手数をおかけしますが、どうぞご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

『患者体験調査』を協議会PDCAとする意義

- 症例抽出・集計・考察を厚生労働省・国がんが中心になって行うので、妥当性・公正性・高い精度が期待できる
 - 企画・データ収集・集計を国がんが大部分やってくれる
- 3-4年おきに行われることが期待できる
- がん患者団体が参加した『提言』を参考に重点を把握しやすい
- 住民・患者が関心がある項目について直接愛媛県のがん拠点病院の取り組みを説明できる

『患者体験調査』に基づく愛媛県のがん診療HP文章案を作成した

『患者体験調査』とは、がん対策推進基本計画に基づき、がん対策の効果や進捗を知るため厚生労働省の委託を受けた国立がん研究センターが、がんと診断された患者さんについて、そのがん診療に対する体験をアンケート調査したものです。

調査の性質上少し前の状態の調査結果となります

最新のものとは対象が平成25年及び28年にがんと診断された患者さんです。

愛媛県は殆どのがん診療連携拠点病院が参加していますので、愛媛県のがん患者さんの体験を知り、患者の立場に立ってがん診療を見つめ直す良い材料となります。

- 詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

続き

セカンドオピニオンについての情報

セカンドオピニオンとは、治療を受ける前または受けている時に、受診施設以外の施設の医師を受診し、意見を受け取ること

→全ての患者さんが納得して治療を受けるために重要

セカオピの説明
ページへ

【愛媛県の目標値】

全体・若年がん・希少がんすべてで60%

一般的な目標値はない

【目標到達にむけての対策】

すべての協議会参加病院で、疾患毎に初回治療の病状や治療の説明文章にセカンドオピニオンについての説明を記載します。

施設側から周知することでセカンドオピニオンを受けることへの患者さんの心理的障壁を下げることをめざします

2：東班「QI研究」について

<PDCA部会における指標>として採用

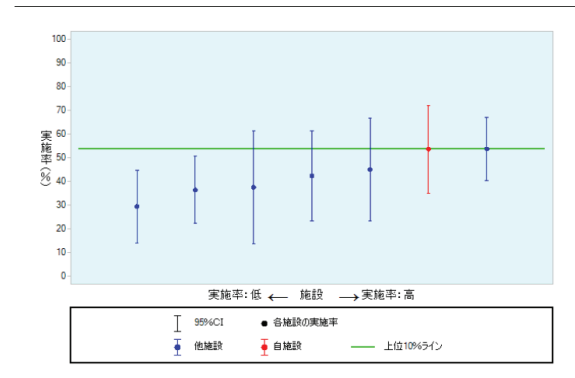
- ①大腸がん継続 (2018 大腸癌への術後化学療法)
- ④全がん 継続 (2018 嘔吐高リスクの抗がん剤へ制吐剤)
- ⑤全がん 継続 (2018 外来麻薬開始時の緩下剤処方)
- ⑦胃がん 継続 (2018 切除不能IV期胃がんへの化学療法前HER2検査)
- ⑧胃がん 継続 (2018 化学療法前の血液検査)

各施設の入力実施状況を確認のお願い 2021/11

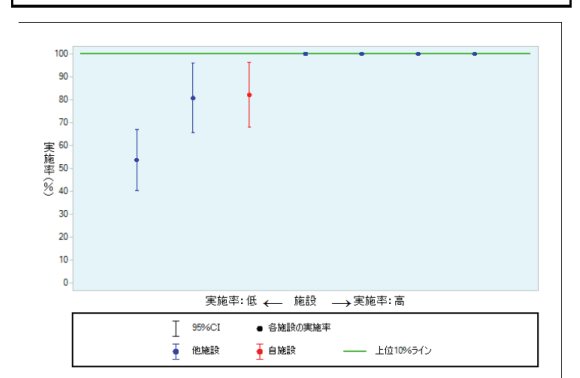
Feed backの状況を確認 2022/06

c32 大腸癌への術後化学療法

QI-c32 大腸癌への術後化学療法
 分子：術後8週間以内に標準的補助化学療法が施行された患者数
 分母：組織学的Stage IIIと診断された大腸癌患者数
 コメント：
 グループ全体：(対象患者数) 222 (実施率) 43.2% 自施設：(対象患者数) 28 (実施率) 53.6%

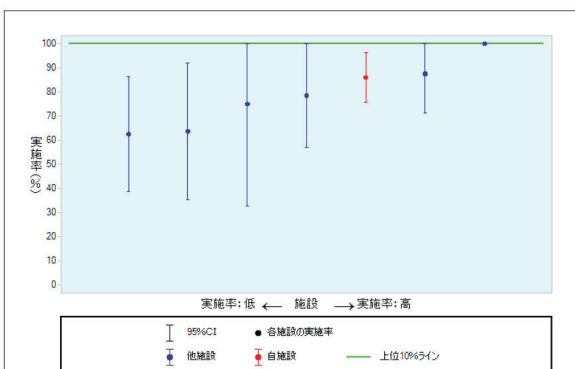


QI-c32 大腸癌への術後化学療法
 分子：術後8週間以内に標準的補助化学療法が施行された患者数
 分母：組織学的Stage IIIと診断された大腸癌患者数
 コメント：
 グループ全体：(対象患者数) 222 (実施率) 84.2% 自施設：(対象患者数) 28 (実施率) 82.1%

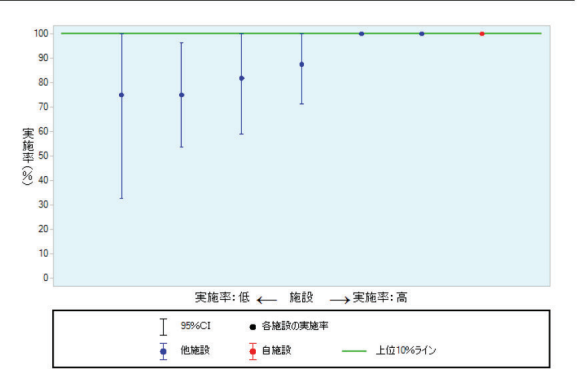


st3 切除不能IV期胃がんへの化学療法前HER2検査

QI-st3 切除不能IV期胃がんへの化学療法前HER2検査
 分子：初回化学療法前にHER2テストを実施した患者数
 分母：切除不能進行胃癌で初回化学療法が行われた患者数
 コメント：切除不能 = 「StageIVで手術がないもの」として抽出
 グループ全体：(対象患者数) 107 (実施率) 79.4% 自施設：(対象患者数) 43 (実施率) 86%



QI-st3 切除不能IV期胃がんへの化学療法前HER2検査
 分子：初回化学療法前にHER2テストを実施した患者数
 分母：切除不能進行胃癌で初回化学療法が行われた患者数
 コメント：切除不能 = 「StageIVで手術がないもの」として抽出
 グループ全体：(対象患者数) 107 (実施率) 91.6% 自施設：(対象患者数) 43 (実施率) 100%



『c32大腸癌術後化学療法』『st3 胃癌HER2』については、不実施理由がある事例が大部分であったものと思われる。そのため、事実上改善の余地のない指標とされます。愛媛県では、ほぼ達成された指標としてHPに明示しようと思います

3：専門部会活動のアンケート調査

専門部会の活動について、部会外にアンケートを行う

- ・ 目的：専門部会の活動の認知・効果・評価を知る

人定質問、認知度、評価、提案＋クイズ
クイズの正解数をアンケート調査の重み付け
に使う

注：上司・同僚から、アンケートを押し
つけられるかもしれないが、がん登録専
門部会員は引き受けないように、クイズ
の答えも教えないように

PDCA部会アンケート（幹事会・PDCA部
会員向け）

このアンケートは愛媛県がん診療連携協議会PDCA部会が行う各専門部会に関するアンケートです。専門部会の活動が第三者からどう評価されているかを知るためのものです。第一回目は『がん登録専門部会』がテーマです。

このアンケートはPDCA部会と幹事会メンバーを対象としています。アンケート結果はがん診療連携協議会の専門部会のPDCA活動の一環として利用させていただきます。アンケートは17の質問とクイズよりなります。クイズを除いて予想所要時間は5～10分です。

<重要> このアンケートを自施設のがん登録専門部会員に相談や質問したりすることなく現在の知識で答えてください。※切りは8月19日(金)

*必須

1 あなたの所属は? *

終了しました
有り難うございました。
がん登録専門部会の報告に結果・中間解析があります

4. 協議会共通 Quality Indicator の設定について

QI調査の参加状況

日本病院会 QIプロジェクト
<https://www.hospital.or.jp/qip/>
参加施設：市立宇和島病院、済生会今治病院、済生会松山病院
(参加施設一覧：
https://www.hospital.or.jp/qip/qi_member.html)
※回答があったのは市立宇和島病院のみ。他2施設は参加病院
一覧で確認。

Cancer Quality Initiative研究会
(株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン)
参加施設：済生会今治病院、松山日赤、四国がんセンター
<https://www.ghc-j.com/science/cqi/>

次期がん対策推進基本計画に向けて拠点病院および連携病院の
小児がん医療・支援の質を評価する新たな指標開発のための研究
(小児がんセンター 代表研究者：松本公一)
参加施設：愛媛大学医学部附属病院

国立大学病院データベースセンター
<https://www.dbc.nuhp.jp/>
参加施設：愛媛大学医学部附属病院

「医療の質と経済性に関する実態調査」(京都大学)
参加施設：愛媛県立中央病院
<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/>

「医療の質の評価・公表等推進事業」(全国自治体病院協議
会)
参加施設：愛媛県立中央病院、市立宇和島病院、市立八幡浜
病院
<https://www.jmha.or.jp/jmha/contents/info/137>

「臨床評価指標 - 国立病院機構」(国立病院機構)
参加施設：四国がんセンター
https://nho.hosp.go.jp/treatment/treatment_rinsyo.html

5. 相互訪問監査／WEB 監査について

病院のがん診療の質を改善していく取り組み

1 がん診療評価指標 (Quality Indicator)

国立がん研究センターがん対策情報センターがん臨床情報部

2 がん診療体制の質に関する調査

東京大学大学院 PCAPSがん質評価班

3 がん相談支援のPDCAサイクル確保の取り組み

国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部

4 緩和ケアチームセルフチェックプログラム

日本緩和医療学会

5 相互評価 (ピアレビュー)

など

#平成30年度 都道府県がん診療連携拠点病院 PDCAサイクルフォーラム 加藤雅志先生

1) がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供体制に関するピアレビュー
オンライン開催ハンドブック

https://ganjoho.jp/med_pro/med_info/peer_review_hb/peer_review_hb.html

2) 第8回 緩和ケア部会資料 秋田県における活動の報告
秋田大学医学部附属病院 「オンライン・ピアレビュー」

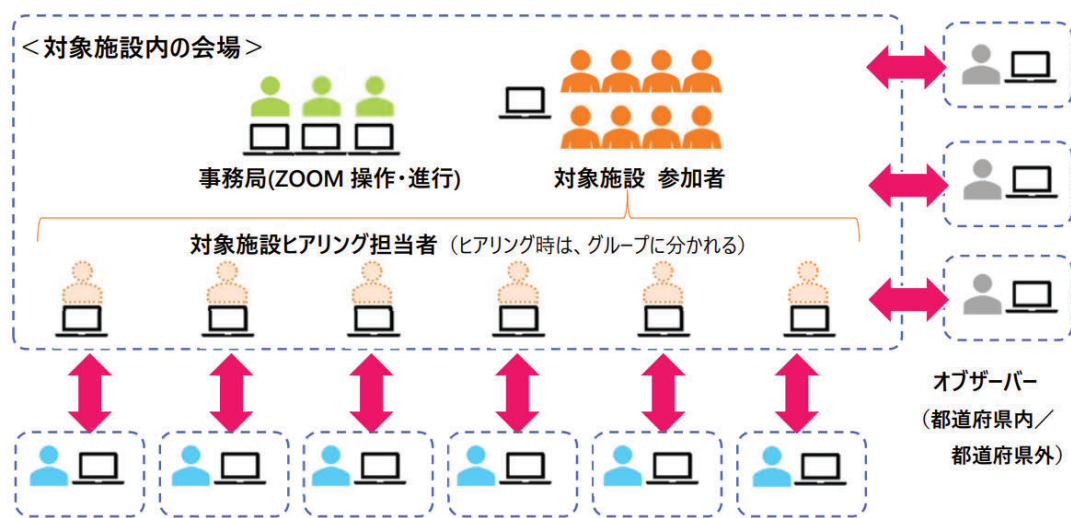
https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/p_care/shiryo8/pdf/03-2.pdf

がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供体制に 関するピアレビューオンライン開催ハンドブック

Web 会議システム ZOOM によるハイブリッド型開催モデル

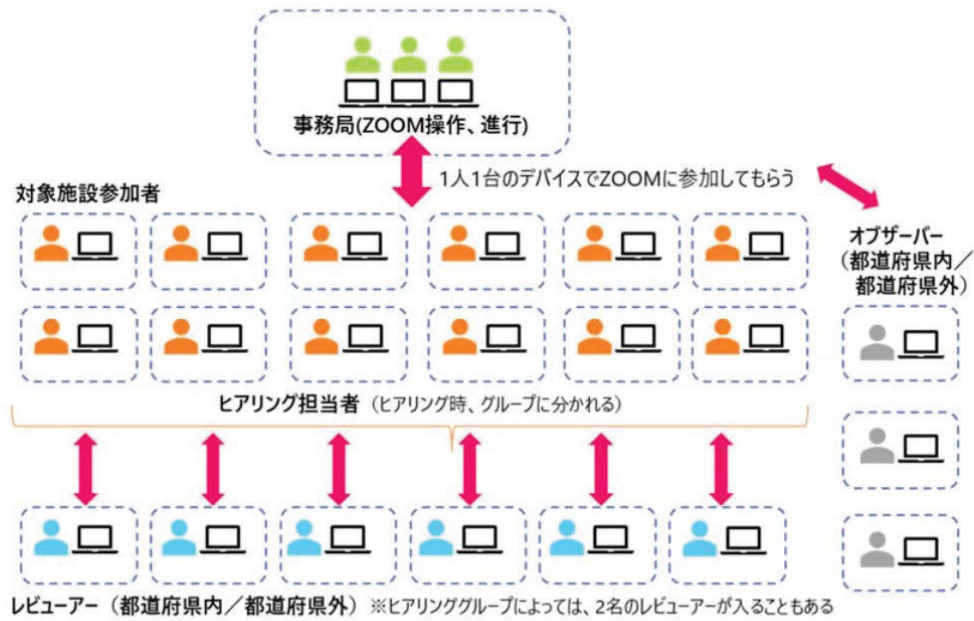
2021 年版

(推奨) ハイブリッド型 (対象施設関係者及び事務局の主要メンバーが1会場に集まるケース)



※ヒアリンググループによっては、2名のレビューアーが入ることもある
※レビューアーは会場に集合し、対象施設と直接レビューを実施することも可能

(参考) 完全リモート型 (事情により集合することが難しい場合※ただし事務局は情報共有、操作の観点から集合を推奨)



3. 当日参加者構成

対象施設	ヒアリングを受ける 10~15 名程度
レビューア (都道府県内/都道府県外)	ヒアリングをする 8 名~
オブザーバー (都道府県内/都道府県外)	専門家の立場で 医師 1 名・看護師 1 名程度
事務局	進行管理、ZOOM 操作ホスト対応

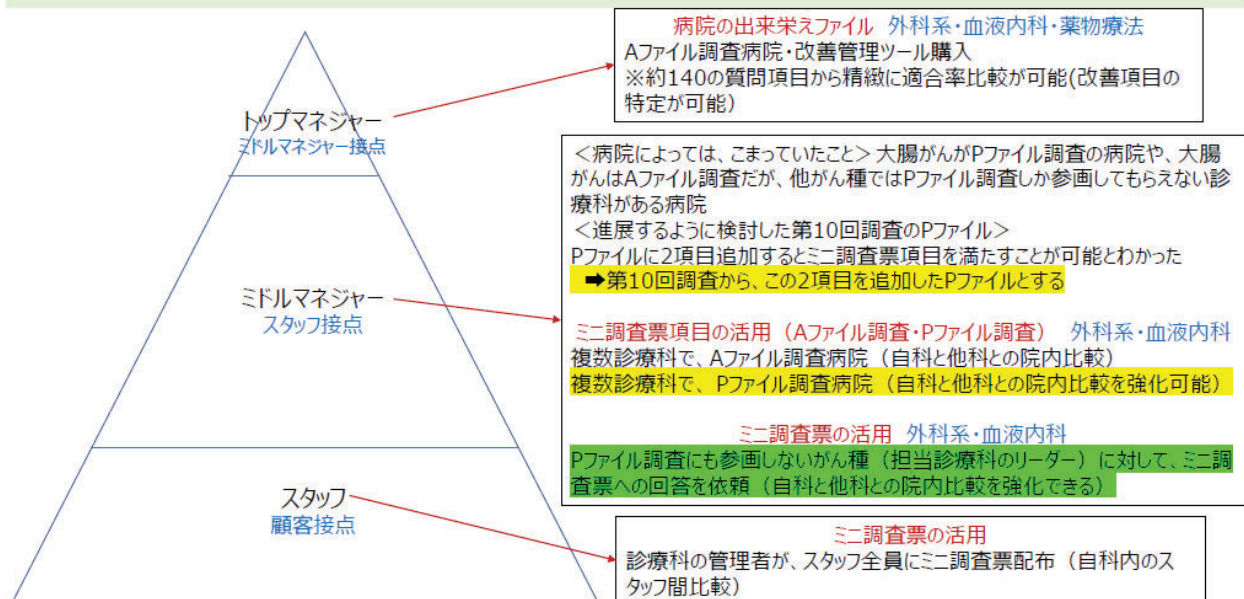
6. がん診療体制の質に関する調査

- 第10回がん診療体制の質に関する調査（2021年11月調査）の調査結果報告書を公開致しました。
- 調査にご参加いただいた病院には、別途ダウンロードリンクを送付済みです。
- がん種別の調査結果にコメントをいただいた先生方は、ご協力いただき誠にありがとうございました。
- 報告書はGoogleドライブにアップロードしておりまして、以下のURLからダウンロード可能です。
- 適宜ダウンロードしてご確認ください。

URL:

<https://drive.google.com/drive/folders/18WVgm6Enc-9abm4qDzLd5MgkC74AFpK9?usp=sharing>

病院管理者・診療科管理者が 自院・自診療科のクリニカルガバナンス状態の把握をするためのファミリーツール開発



ミニ調査票

- 「ミニ調査票」のダウンロード開始のお知らせです。
- ダウンロードをご希望の方は以下のURLからお申込みをお願い致します。
お申込み後、ダウンロード用のURLが送信されます。
複数の医師や複数の診療科で回答いただいた結果を比較することで、医師間や診療科間での貴院の診療体制に対する認識の差異を確認できます。
- 回答結果をもとに、診療体制の改善や診療体制に関する認識の改善にご利用いただければと思います。

<https://forms.gle/HhkgqdcPw3amDTfc6>

令和4年度 第1回愛媛県がん診療連携協議会 がん地域連携専門部会 Web 会議 議事録

日時 令和4年7月13日(水) 15:00~15:40

場所 四国がんセンター 3階研修室②

別紙資料：がん地域連携部会 web 会議資料

I. 診療報酬改定による病院体制の変更

1. 令和4年度の診療報酬改定による病院体制の変更
2. 連携に関しての変更や取り組み

II. オンライン面談の取り組み状況と件数

1. 入退院調整
2. お見舞いの活用
3. その他

議事内容

別紙資料に沿って各医療機関の報告と意見交換を行った。

四国がんセンター

- ・オンライン診療(セカンドオピニオンなど)の実施や検討している施設はあるか。
→現時点ではなかった。
- ・住友別子病院での発熱外来のタブレット使用について、どのように活用しているのか。
→発熱患者は救急外来の個室で対応し、コロナ陽性患者では医師の診療にタブレットを活用し、オンラインで問診や患者の説明を行っている。

松山赤十字病院

- ・現在、乳がん術後の連携パスは5年計画であるが、10年間ホルモン内服を要する患者に対応できるように変更してもよいか、検討して欲しい。
→乳がん術後パスは、松山赤十字病院と四国がんセンターが主に使用している。松山赤十字病院で現在の共通開発バージョンパス(5年計画)をカスタマイズして10年計画のパスを作成し、使用した後に協議会で報告してもらい、検討する。

まとめ

当面、がん地域連携部会では、各施設から連携室の取り組みについて事前にアンケートを行い、状況を報告していく。今後は、各施設からも事前に聞きたいことなどについて意見を頂き、アンケートを行いたい。また、連携パスの改定や運用についても検討していく。

次回開催予定：未定

1	診療報酬改定による病院体制の変更点	愛媛大学病院 診療報酬改定による 大きく変更した点 はない	愛媛県立中央病院 変更なし	済生会松山病院 病院の体制について 大きな変更はない	松山市民病院 がん分野ではない が、新規の診療報酬 として採用された FLSにつき、開業医 との連携を深める 為、委員会を設置 し、二次性骨折予防 管理料の届出を行っ た	松山赤十字病院	四国がんセンター 地域包括ケア病棟を 取りやめ、コロナ病 棟(感染対策向上加 算1取得)を7月1日 から設置した	済生会今治病院 重症患者初期支援充 実加算の算定のため、HCUに入院時重 症患者対応メデイ エーターとして MSWを1名専任で 配置した	HITO病院 ハイケアユニットと 脳卒中ケアユニット に早期栄養介入管理 加算の栄養士配置 重症患者初期支援充 実加算の人員配置 とすることから、再受審することになった	住友別子病院 現時点での変更はないも の、2022年度の診療報 酬改定において、病院機 能評価あるいはこれに準 ずる認定病院であること を要件あるいは努力義務 とする加算が新設された ことになった	済生会西条病院 変更なし	市立八幡浜総合病院 なし	四国中央病医院 変更なし	愛媛労災病院 なし	十全総合病院 なし		
2	2.連携に関 しての変更 点や取り組 み (例) オンラ イン診療を 開始 退院前カン ファレンス のオンライ ン活用件数 を増やして いるなど	診療報酬改定によっ て大きく変更した点 はない	「二次性骨折予防防 続管理料」を算定す るよう届出済み。 転院調整の際に当院 で作成するADL情報 や大腿骨連動バスを 用いて、算定の有無 を転院先医療機関へ 伝えるようしている	退院カンファレンス の件数増加を目標 に、オンラインの活 用や、新たにMSW の募集を行い人員を 増加した	・入退院支援加算1 一般病棟入院基本料等の場 合600点 → 700点 にな り、「算定要件」の「退院困 難な要因」にヤングケアラー 及びその家族に関する項目 を追加し、周知した 追加されたため、当院退院支 援計画書内『退院困難な要 因』のチェック項目にもヤン グケアラー及びその家族に関 する項目を追加し、周知した ・二次性骨折予防継続管理料 ・二次性骨折予防継続管理料 1,1000点の算定及び連携医療 機関への情報提供に対応した 診療情報提供書を新たに作成 し、5月1日から運用を開始し た	必要時、患者支援センターで オンライン面談のできる体制 はあるが、コロナ禍になって から使用した件数は、5件以内 必要な患者の合同研修会は、 コロナ対策を行い、来院して いただくことが多い	オンラインで退院前 カンファレンスを 2021年3件、2022年 2件実施で 2件実施で	病棟以外で施設設 職員と面談を行って いる。患者の情報提 供などでオンライン 面談が有効であれ ば、オンラインでも 行っている	施設スタッフ、介護 支援専門員等とオン ラインで実施 平均30件程度/月	取り組みなし	患者家族からの依頼によ り、システム担当者が日 程調整、実施までを担当 するが、病状説明が必要 な場合は担当看護師が行 っている 実施件数：2020年14件、 2021年21件、2022年4 件	原則、面談禁止。 当院のiPadを使用 し、家族に来院いた だいて行った(1件 のみ、コロナ関連の 入院患者)	原則禁止 看護上必要な場 合は、主治医・病棟師 長・感染管理者に相 談 危篤患者に関して は、原則3人まで、 短時間の面談	オンラインでの退院 前カンファレンスを 1件実施	オンラインによる面 談につきましては今 後の導入を含めて後 計中です	なし	入退院ともにオンラ インでのやりとりは なし
3	3.その他	入院中の患者のADL の確認や、自宅環境 の確認のためオンラ インでの情報共有を 行ったケースがある	昨年と比し、事業所 とのオンライン面談 も件数が増加してい る	原則不可、終末期な ど主治医の許可制に より、面談を許して いるケースもあり 【Web面会の再開】 5/24～ 完全予約制 各病棟1 組/日 15分程度/組	特になし	特になし	すべてオンラインで 実施 病院内で実施 が1日平均10件 自宅からの面談が1 日3～4件	すべてオンラインで 実施 病院内で実施 が1日平均10件 自宅からの面談が1 日3～4件	原則、面談禁止。 当院のiPadを使用 し、家族に来院いた だいて行った(1件 のみ、コロナ関連の 入院患者)	原則禁止 看護上必要な場 合は、主治医・病棟師 長・感染管理者に相 談 危篤患者に関して は、原則3人まで、 短時間の面談	原則、面談禁止。 当院のiPadを使用 し、家族に来院いた だいて行った(1件 のみ、コロナ関連の 入院患者)	原則禁止 看護上必要な場 合は、主治医・病棟師 長・感染管理者に相 談 危篤患者に関して は、原則3人まで、 短時間の面談	オンラインでの退院 前カンファレンスを 1件実施	オンラインによる面 談につきましては今 後の導入を含めて後 計中です	なし	入退院ともにオンラ インでのやりとりは なし	



1

<h2>タイムテーブル</h2>	<p>【緩和ケア専門部会】</p> <p>開催日：2022年7月8日(金) 18:00～19:15 (入室可能時間17:30～) 開催方法：Web開催 (Zoom)</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none">各施設の現状報告 (代表者の方より、1分程度で発表)グループワーク テーマ 「患者さん・家族の声を聴いていますか」 18:20～18:25 事例紹介 18:25～18:45 グループワーク<ol style="list-style-type: none">あなたがもしこのケースに遭遇したら、どう思い、何をしますか？緩和ケアチームが療養場所の支援にどのように取り組んでいるのか？意思決定支援で心がけていることは何か？患者・家族が望む療養場所の決定支援に必要な情報は何か？18:45～18:55 発表18:55～19:10 退院(連携)時のポイントについて19:10～19:15 質疑応答
------------------	--

2

参加者グループ分け

チーム	氏名	施設名	職種	備考
A	司会者	三好昭文	済生会今治病院 病棟有	医師
	書記・発表者	山本智子	松山赤十字病院	看護部
		明部真実	松山赤十字病院	薬剤師
		和田かおり	済生会今治病院	看護部
		加藤三栄子	往友別子病院 病棟有	看護部
		青木美佳	往友別子病院	看護部
		中川三和	往友別子病院	看護部
		浅木基裕	十全総合病院	薬剤師
		萬家俊博	愛媛大学医学部附属病院	医師
		藤井知英	愛媛大学医学部附属病院	医師
				個人
B	司会者	坂本勝広	四国がんセンター病棟有	医師
	書記・発表者	村上美乃枝	松山市民病院	看護部
		西谷 恵	県立中央病院	看護部
			県立中央病院地域連携室	
		青木清美	四国がんセンター	看護部
		多田春奈	四国がんセンター	薬剤師
		武智直佳	四国がんセンター	薬剤師
		鳥橋龍暉	済生会西条病院	看護部
		小嶋研太	済生会西条病院	医師
		星川仁美	四国中央病院	薬剤師
	C	司会者	中西 暉	松山ペテル病院
書記・発表者		上杉和英	松山ペテル病院	看護部
		小坂芳和	済生会松山	医師
		中平未英	済生会松山	看護部
		清家紀美子	済生会松山	リハビリ
		野間崇志	済生会松山	薬剤師
		岡崎麻実	済生会松山	薬剤師
		岡田春三	市立宇和島病院	医師
		近藤華希子	市立宇和島病院	看護部
		大西由利子	市立宇和島病院	薬剤師
		林博英	愛媛大学医学部附属病院	看護部
		岡廣範明	愛媛大学医学部附属病院	薬剤師
				個人

3

発表1

<質問1>あなたがもしこのケースに遭遇したら、どう思い何をしまか?

- ・経過をたどると状態が悪化傾向だったので、治療継続が難しくなってきた入院の際に、今後どうするか意思決定ができていれば良かったのではないかと思います。

- ・帰宅願望があるが症状が強くなり難しい場合、症状緩和が可能か否かを検討する必要があるのではないかと思います。

- ・どのような状況であっても本人や家族の覚悟次第では帰宅が可能であるから、双方の覚悟を確認した上サポート体制を整え、在宅療養の準備ができれば良かったのではないかと思います。

<質問2>緩和ケアチームが療養場所の支援にどのように取り組んでいるのか?

- ・チームとしては介入できておらず、緩和ケアナースや退院支援担当者が介入し主治医へ報告している。

- ・宇和島地区ではモデル事業があり、地域リソースも把握している上、状態が悪い患者でも受け入れてくれるという信頼関係があるので、在宅緩和に繋げやすい。

4

発表 2

<質問3>意思決定支援で心がけていることは何か？

- ・患者・家族双方から話を聞く。
- ・本人の意向を第一に確認。家族と意見の相違がある場合、チームメンバーが介入し本人と家族の橋渡しができればよいのではないかと思います。
- ・医療者としてはどちらか一方に気持ちが傾くことがないよう、本人・家族が同じ立場で話せるよう配慮し、関わっていければよいのではないかと思います。

<質問4>患者・家族が望む療養場所の決定支援に必要な情報は何か？

- ・本人・家族の意向
- ・病状・予後の認識
- ・マンパワー・社会資源の状態

5

緩和ケアをスムーズに進めるための 3つのポイント

1. 目標の確認
2. 病状についての共有
3. 予後の予測

中橋 恒 先生のスライドより

6

目標の確認

自分らしい生活の在り方・目標をどのように考えているかを確認することは、難治性進行がんにおける緩和ケアの大切な出発点である。

1. できるだけ治療を続けながら安心した生活を送りたい
2. 積極的治療は終了し、がんと共存の中で安心した生活を送りたい
3. 自分の人生の終わりを考慮しながら安心した生活を考えたい

中橋 恒 先生のスライドより

7

病状についての共有

目標を話し合うためには、病気や病状に関して、患者・家族と医療者が共通した認識の中で病状を話し合うことが大切

1. 今までの治療経過
2. 現在の病状
3. 今後の病状の見通し

中橋 恒 先生のスライドより

8

予後の予測

難治性進行がんは関わる期間が短く、スムーズなケアを進めるためには、今後の病状の見通しを立てる上で予後を予測することは重要である

1. 実現可能な目標を設定するために
2. 残された時間を有意義なものとするために
3. 予後に応じた治療・ケアのために

中橋 恒 先生のスライドより

9

4つのポイントで
患者さん、家族の声を聴きましょう

まとめ

- ①病名・病状の認識
- ②治療・療養の場所に対する気持ち
- ③余命についての認識
- ④療養についての希望

中橋 恒 先生のスライドより

10

令和4年度1回愛媛県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会

Web会議 議事録

令和4年7月14日(木) 13:30~15:00

出席者 (38名)	NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会	松本	愛媛県立中央病院	濱田、渋谷、季羽、石山、武田、井上、外山、片岡、小笠原
	愛媛県庁健康増進課	三宅 担当係長		
	愛媛大学医学部附属病院	塩見、古川	松山赤十字病院	池田、高須賀
			市立宇和島病院	黒田、沼田
	済生会今治病院	松岡、池田、斉藤	四国中央病院	高木
	住友別子病院	和田、山地、高橋	十全総合病院	白石
	松山市民病院	三谷	済生会松山病院	平岡、藤原
	HITO 病院	守屋	四国がんセンター	灘野 (部会長)
	済生会西条病院	大谷		羽藤 (副部会長)
	市立八幡浜総合病院	高橋		藤山 (副部会長)
	愛媛労災病院	田中		高橋、福島、大西
	事務局	四国がんセンター	安宅 (事務担当)	

I. 報告・協議事項

1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告

(第18回 5/26 オンライン配信)

福島 美幸 (四国がんセンター)

1) がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針および次期基本計画策定に向けての提案書について

○提案書のポイント (資料12ページ)

- ・がん相談支援センターだけでなく、より大きな組織(行政、都道府県がん診療連携協議会、拠点病院等)単位での対応も重要になることから、相談支援や情報提供に関する提案案を対象別に記載した。
- ・都道府県がん診療連携協議会の情報集約機能や役割分担・連携構築の議論を主導する機能、また患者団体と拠点病院の間をつなぐコーディネート機能等を強化することが必要である。
- ・拠点病院では、病院をあげて、患者家族支援体制を整備することや診断初期の患者に必要な情報を確実に伝える体制を整備することが必要である。また、がん相談支援センターで提供される支援の質を担保するため、整備指針上での人員配置要件や相談員の研修修了要件の見直しが必要である。

○16の提案内容とその背景となっている課題および体制や人材配置については、資料13~29ページ参照。

○島根県がんピアサポーター相談会 運営・実績報告 (資料31~38ページ)

- ・島根県では、平成23~25年の間、県より島根県立大学へ「島根県がん相談員等資質向上

事業」が委託され、平成 26 年度より島根県より島根大学医学部附属病院へ「がん患者・家族サポートセンター」事業が委託されている。

- ・ピアサポーター・県・がん相談員実務担当者会共催で意見交換会を実施。当事者の声を反映しながらよりよい運営を行っているとのこと。

○愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会のとりのくみ (資料 39～56 ページ)

- ・愛媛県から灘野専門部会長より当専門部会の取り組みについて発表。
- ・県の担当者や患者団体が参画している点等について質問があり、興味のある発表だったとの意見あり。
- ・(補足) 静岡県がん診療連携協議会 相談支援専門部会より、がんサポートブックえひめを参考に初版を作成したいと連絡があり、初版を作成した 10 年前の活動に関して 20 分程度発表。愛媛版を参考にしたい理由として、インデックスタイプで見やすく、愛媛県のイメージアップキャラクターみきゃんが使われている点をあげられる。どのような項目を入れるか等、1 年かけて皆で意見を出し合っただけで作成したところも関心があった様子。

○がんと診断されて間もない人への情報誌資材の活用について (資料 59～67 ページ)

- ・がんと診断されて間もない人への情報誌資材(冊子)について作成経緯と活用方法の案内。
- ・相談支援センターの周知が図られる資材として作成が始まったこと、平成 30 年の整備指針に「主治医等から相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること」と記載があり、そのツールとして活用をとのこと (資料 59 ページ)。
- ・資料 62 ページの 3 分半ほどの動画については、先生方への周知に活用を。
- ・コンセプト、冊子利用のメリットについて (資料 63～66 ページ)。
- ・5 月より購入が可能。初回発注 1 万冊、150 施設程度から注文あり。
- ・九州がんセンター 森田医師より「モニターとして数冊初診時に渡すことを試みた。がんの病気を説明する際は大変重たい雰囲気になりがちだが、この冊子を使うことで仕事や金銭面の話も触れることができ、場が和んだり、コミュニケーションがとりやすくなることが実際に使ってみてわかった」との紹介あり。

○相談員研修・国立がん研究センターの認定事業について (資料 68～79 ページ)。

○確かな医療情報を用いた相談対応について学ぶ研修 講師派遣事業について、今年度は高知県で開催 (資料 80 ページ)。

○主催者向け Zoom 説明会について、7 月 27 日(水)にオンラインにて開催 (資料 93 ページ)。

2. 「若年がん患者在宅療養支援事業」「今治市・西条市ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業」、
「小児・AYA 世代のがん患者の妊孕性温存療法研究促進事業」等の県内動向について

三宅 宏和 (愛媛県健康増進課)

1) 小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

- ・今年度から開始。将来子どもを産み育てることを望む小児・AYA 世代のがん患者等が希望を持ってがん治療等に取り組めるように、将来子どもを出産する可能性を温存するための妊孕性温存療法に要する費用の一部を助成する事業。
- ・治療費の相場の半額程度を助成される。対象となる治療・上限額は①妊孕性温存療法で 2 万

5千～40万円、②温存後生殖補助医療で10～30万円。助成回数は妊孕性温存療法で通算2回、温存後生殖補助医療で通算6回。

- ・愛媛県における事業イメージは、愛媛大学医学部附属病院が事務局を担当している愛媛県がん・生殖医療ネットワークがある。愛媛大学医学部附属病院 杉山医師、安岡医師が中心。
- ・助成金を使用する際に、指定の病院での治療が必要。愛媛大学医学部附属病院 産婦人科、矢野産婦人科が指定病院となっている。
- ・治療を受ける際に、原疾患の主治医の承認・承諾書が必要となっている。
- ・助成金の申請は本人もしくは未成年の場合は保護者。
- ・愛媛県のホームページに事業の詳細を公開している。

2) 若年がん患者在宅療養支援事業について

- ・令和2年度から実施。
- ・制度の変更はなく、対象は20歳以上～40歳未満。訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具貸与、福祉用具購入が対象。利用料の上限は月額6万円、自己負担額はサービス利用料の1割。9割(54,000円)は自治体と愛媛県で負担。
- ・全市町村での利用が可能となった。
- ・昨年度の実績、4市町で制度の医療利用あり。周知が不足しているので、該当の方への案内をお願いしたい。

3) 今治市・西条市ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業について

- ・愛媛県内では西条市、今治市で実施している。
- ・全国的にもアピアランスケアの女性が増えつつある。
(済生会今治病院) 数名の患者さんへ助成についてのお話をしたが、利用されたかは不明。

3. (2021年度実施) AYA世代支援活動についてアンケート結果のホームページ掲載について

福島 美幸(四国がんセンター)

- ・相談員レベルで知っておきたい情報の共有として、2021年12～2022年1月にアンケートを実施。2月に結果をまとめたものをメールにて連絡済み。
- ・ホームページへまとめた資料を活動実績のページに掲載したい。
- ・困った経験等、病院名が記載されたままでの掲載はよくないのでは。
- ・アンケート結果全てを出すのではなく、掲載内容を整理すべき。

4. 都道府県がん診療連携協議会四国ブロック会申し合わせ事項について

福島 美幸(四国がんセンター)

- ・4県で地域支援フォーラム等の研修会を開催しているので、申し合わせ事項を作ってはどうかという提案があり作成。
- ・四国ブロック会を以前から開催しているが、申し合わせ事項や会則がないため作成。四国ブロック会にて承認され、5月26日から施行。

- ・趣旨として、4県が協働で開催・運営する会を設置。1つの県では対応が難しい、がん相談支援に携わる者への研修の提供や相談支援センターの業務拡大への対応・がん相談支援体制の均てん化を推進する。
- ・組織として、拠点病院の相談支援部会会長、各県の行政担当者、実務担当者が委員。愛媛県の実務担当者は福島、松岡。
- ・会長は地域相談支援フォーラム及び研修会を主催する県の管理者または相談支援部会会長。今年度は愛媛の灘野部会長が会長。
- ・業務としての定例会は第6条3項の地域相談支援フォーラム、QA研修等がメイン。
- ・任期は1年としているが再任を妨げない。

5. 各ワーキングからの報告

1) 相談員研修 WG

福島 美幸(四国がんセンター)

- ・地域相談支援フォーラム in 四国愛媛開催について

【令和4年10月22日(土)13時~17時10分】

- ・7月19日より申し込み開始。Webでの申し込み。ちらしのURL、QRコード参照。
- ・50名定員、四国の方を優先する。8月中旬から全国で広報をし、9月9日締め切り。
- ・相談員だけでなく看護師や医師、事務の方にも参加をいただきたいので、各施設で声がけをいただきたい。

2) 広報活動 WG

大西 明子(四国がんセンター)

○がんサポートブック第4改訂版

(灘野部会長)大幅改訂であったため、県拠点病院から無料で配布(拠点病院:500部、準拠点病院:100部)。できるだけ医師から渡してもらうよう、各施設で検討いただきたい。

- ・積極的にがんサポートブックの活用を推進していくための方策について検討。
- ・誰に・どのタイミングで・どんな方法で渡すのかは各施設で検討。広報WGのメンバーがいる施設はメンバーを中心に検討いただきたい。
- ・次回の部会までにどういった方法で活用したかを報告いただきたいので、それまでにメールでアンケートを実施し、結果を報告する。

○「すごいもの博」の開催について【11月26・27日の2日間開催】

- ・8月から申し込みがあるので、参加に関して検討して欲しい。
- ・後日、メーリングリストにて案内予定。

○「がんと診断されて間もない人向け情報」冊子について

- ・利用を前向きに。がんサポートブックと併せて活用。動画等もあるので、医師へ案内を。

◎拠点病院の指定要件

- ・外来初診時に主治医等から、がん患者及びその家族に、相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること。
- ・地域の医療機関に対し、相談支援センターに関する広報を行うこと

その資料として作成されているもの。

○使用方法について

- ・医師から患者さんへ渡すことが理想。相談支援部会としての活動がスムーズにいくと考えられる。

(羽藤副部長) すんなりと患者さんやご家族は受け入れてくれる。渡しやすい。病状を説明した後に、検査前に渡し「待っている間に読んでみてください」と一声かけている。評価はまだとれていないが、カルテで冊子を見て来てくれたとの記載も見られ、いいのではないかと考えている。

3) チェックリスト WG

松岡 誠子 (済生会今治病院)

○昨年度実施報告

- ・11月末にチェックリストの評価をしていただいた。集計をし、次年度用の入力フォームを作成。Google フォームで作成できるように整えた。
- ・評価指標を作成し、チェックリストに評価指標を加えたので、結果が改善した。
- ・チェックリストの運用変更を検討し、Google フォームでの入力・集計のフォームを作成。入力・集計作業の負担が軽減できると考えられる。今年度はGoogle フォームで入力を行っていただく。
- ・昨年度の評価結果に引き続き、コロナ禍の影響による相談支援センターの活動の支障は顕著であった。39の項目で評価が下がったが、その内21の項目がコロナ禍の影響によるものと考えられる。特に患者家族サロン運営や地域の連携強化については顕著。コロナ禍での患者支援の在り方を部会で検討する必要がある。
- ・今年度も各施設で年1回のチェックリスト評価を行う。今後の評価結果集計の取り扱いや専門部会全体の評価方法などについては、ワーキンググループで検討し専門部会に提案する。

○今年度の活動目標、スケジュール

- ・昨年度作成した Google フォームでの入力・集計のフォームを使用し、各病院で評価する。
- ・新しいフォームの使用について、各施設から意見を集約し、フォームを洗練化する。
- ・チェックリストの全体評価は3年毎に実施し、全体評価を実施しない年度は、重点的に取り組んだほうが良いと思われる項目をワーキングより提案し、専門部会で承認を受けた項目のみ評価する。
- ・今年度の重点項目は①患者を孤立化させない支援、②研修参加の促進についてのみ。各拠点・推進病院で評価した内容をまとめ、県内の現状を把握し、昨年度との比較から課題を明らかにし、次年度活動に活かす。
- ・新しい入力フォームや今後のワーキング活動方針、今年度の重点項目について本日の部会で承認いただけたら、7月末にメールを配信。
- ・各病院でのチェックリストの実施。提出期限は令和4年11月30日(水)17:00とする。
- ・令和5年1月までに集計し、課題の抽出と来年度の活動を検討。年度末に結果・報告書を配信する。

6. がん患者サロンについて

1) 四国がんセンターの現況報告

福島 美幸 (四国がんセンター)

- ・2021年度ひまわりサロン(ピアサポーター開催)は6月から7月に集合型で開催。8月は新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置のため中止。9～12月は開催。2022年1月はオミクロン株感染拡大特別警戒期間となり中止。
- ・2022年度は解除に伴い、4か月ぶりに5月から再開
- ・イベントに参加されるみなさんへのちらしに「暖だんでの感染予防対策」と「感染症予防対策に関する留意点とお願い」を記載。
- ・申込書に連絡が取れるように申込者の電話番号の記載欄を。
- ・2021年度は6、7、9、10、11、12月の6回開催。参加者は1～4名。感染症防止対策として、マスクの着用・アルコール手指消毒・利用者カードへの記入・参加者の制限(事前申込)・ソーシャルディスタンス・窓の換気・ティーサービスなしとした。
- ・四国がんセンターの「がんサロン」は、ピアサポーターが運営する「ひまわりサロン」、医療者が運営する「憩いのサロン」、イベントボランティアが運営する「ふれあいサロン」の3つがある。参加者(スタッフ込み)は定員の半数、時間が45分に短縮されていたが、7月より60分に延長。

2) ピアサポーター派遣について

松本 陽子 (NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会)

- 県からの委託でおれんじの会から5か所の拠点病院へピアサポーターを派遣している。
- 昨年度は中止になったが、今年度は対面・オンラインどちらもありで活動。
 - ・愛媛大学医学部附属病院にて入院中の患者さんがオンラインでサロンに参加。申し込みはGoogleフォームからの事前申込制。対象は入院・通院中の方とした。1～2か月目から準備し、完全オンラインにて開催。ピアサポーターはまちなかサロンから、患者さんは病院が個室を用意し参加。愛媛大学医学部附属病院がホスト。自身のiPadを使用しようとしたが上手くいかず、病院から貸し出した。スタッフが部屋の近くに待機し、トラブルがある場合は対応できるようにした。開催時間は45分。参加からは「とても良かった」と満足の声。
- 全施設が今月から再開となった矢先に第7波で現在は何か所かが中止に。
- ピアサポーター自身が患者で治療中のため、ハイリスクに属する方がいる。

3) ピアサポーター養成研修

松本 陽子 (NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会)

- ・今年度集合研修で開催予定【令和4年9月】

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

○「認定がん専門相談員」認定事業

福島 美幸 (四国がんセンター)

- ・昨年度の申請から、自己の相談対応のモニタリングの提出が必要。
- ・今年度の申請から、地域開催Ⅲ群の相談員研修が必須。

- 「情報支援研修」研修講師派遣について 松岡 誠子（済生会今治病院）
（高知県主催）【令和4年8月21日（日）13時～17時15分】
「情報から始まるがん相談支援」研修～地域展開版～
開催方法：オンライン（Zoom）
募集人数：30名（四国を優先、他地域からの申し込み可）

II. その他

1. 「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」
【がん診療連携拠点病院等指定要件に関するワーキング】より
松本 陽子（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）
 - ・ワーキングは終了している。
 - ・個別で意見をいただいた。
 - ・7月21日に検討会があり、要件が確定する。
2. 2022年度愛媛県災害時連絡シミュレーション実施について
 - ・年に1回実施。今年は8月に実施予定。
3. その他（各施設から周知事項）
なし
4. 災害発生時の部会活動中止・延期に関する取り決めについて（毎年周知）
 - ・取り扱いについては2022年3月にメールにて連絡済み。
 - ・ワーキングは終了となったが、毎年周知を行う。

議事録担当：四国がんセンター（次回は松山赤十字病院）

(案) 都道府県がん診療連携拠点病院がん相談支援センター四国ブロック会
申し合わせ事項

(趣旨)

第1条 「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に基づく都道府県における相談支援機能の強化及びがんに関する相談支援に携わる者に継続的かつ系統的な研修を行うため、愛媛県・高知県・徳島県・香川県(以下「四国圏内」という。)が協働で開催・運営する会(以下「ブロック会」という。)を設置する。

ブロック会は、単県では実施や対応が困難な、四国圏内のがん相談支援に携わる者に継続的かつ系統的な研修の提供及びがん医療の拡充に伴う相談支援センターの業務拡大への対応・がん相談支援体制の均霑化をブロック会というスケールメリットを活かしつつ、推進する。

(協議事項)

第2条 ブロック会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 四国圏内のがん相談支援センターに関すること。
- (2) 四国圏内のがん診療における相談支援体制に関すること。
- (3) 四国圏内のがん相談に関わる相談員を対象とした研修及び相談員の育成・派遣に関すること。
- (4) 四国圏内のがん相談支援センター業務の情報収集、共有、評価及び広報に関すること。
- (5) その他、ブロック会で認めること。

(組織)

第3条 ブロック会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 四国圏内の各都道府県がん診療連携拠点病院相談支援部会会長及び事業担当医師
- (2) 四国圏内の各県行政担当代表者
- (3) 四国圏内の各都道府県がん診療連携拠点病院実務担当者1～2名
- (4) その他、ブロック会が必要と認める者

(会長)

第4条 ブロック会に会長を置き、第6条第3号アから順に、地域相談支援フォーラム及び研修会を主催する県の都道府県がん診療連携拠点病院のがん相談支援部門の管理者又は相談支援部会長をもって充てる。

- 2 会長はブロック会を主宰し、会務を総理する。
- 3 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議および運営)

第5条 ブロック会の会議は、必要に応じて会長が招集し、議長を務める。

2 ブロック会は、委員の3分の2が出席しなければ、議事を開くことができない。

3 委員は、やむを得ない理由により会議に出席することができない場合は、その代理者を会議に出席させることができる。その代理出席者には議決権を認めるものとする。

4 ブロック会は、諸課題を専門的、実践的に検討するため、実務担当者を含む。

5 ブロック会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

6 ブロック会は、会長の指名により、副会長(実務担当者)を置く。

7 副会長は、ブロック会会長の指示の基に定例会を主宰し、会務を総理する。

(業務)

第6条 定例会は、次の業務を行う。

(1) 四国圏内のがん専門相談員の育成及び教育環境の整備に関すること。

(2) 四国圏内のがん専門相談員、がん相談支援センター実務者間の連携強化に関すること。

(3) 四国圏内のがん専門相談員の知識・相談技術向上のため、次に掲げる研修会の企画・運営に関すること。

ア 地域相談支援フォーラム

イ 相談の質評価(QA)に関すること。

ウ 情報支援・提供に関すること。

エ その他、定例会が必要と認めること。

(4) 四国ブロック会から提議された内容について検討すること。

(委員の構成及び任期)

第7条 定例会構成員は、四国圏内の各都道府県がん診療連携拠点病院相談支援部会会長、及び事業担当医師が推薦する者とする。

2 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(事務)

第8条 ブロック会の事務は、ブロック会会長の所属する事務部において処理する。

(申し合わせ事項の改定)

第9条 この申し合わせ事項の改定は、ブロック会の議を経るものとする。

(雑則)

第10条 この申し合わせ事項に定めるもののほか、ブロック会の運営に関し必要な事項

は、会長が別に定める。

- 2 各県内のがん相談支援事業にあたり、本申し合わせ事項以外に必要な事項については各県相談支援部会内で定めるものとする。

附 則

この申し合わせ事項は、2022年5月26日から施行する。

2022年第二回愛媛県がん診療連携協議会幹事会・がん登録専門部会報告資料

役員会以降の動きについて

1. 2022年度院内がん登録腫瘍登録士認定試験実施中
2. 活動委員会の報告は来年報告会で行う
 - 今後も腫瘍登録士の専門部会としての活動、研修活動への尽力・配慮をお願いします
3. 第10回、五大がん登録講座
 - 令和5年1月21日(土)開催予定(webあるいはハイブリッド開催予定)
4. 2021年診断院内がん登録収集と『がん登録でみる愛媛県のがん診療 2021年版』について
 - 全施設提出完了
 - 発刊は来年予定(例年通り)
 - コロナ速報版『がん登録でみる愛媛県のがん診療 2021年版』の報告については、webにて、協議会内対象についてはできるだけ早いうちに、協議会以外(一般医療者/一般住民向け)にはその1ヶ月以内開催の予定
 - コロナ禍が施設の診療数、患者移動、受診意欲などに大きな影響を与えたことが読み取れる結果となっています
5. 愛媛県がん情報データベース計画の進捗
 - 中央施設となる四国がんセンター倫理審査委員会で承認(9月13日)
 - 各施設での責任者からの資料収集が終了し、責任者として各施設一括審査を申請(10月11日)
 - 現在、愛媛県がん情報データベース委員会を募集中 11月末までに発足予定
 - 各施設の研究責任者以外から数人を予定しています
 - 12月から利用申請を受け付ける
6. PDCA部会 がん登録部会アンケート結果
 - 概略は既報
 - がん登録専門部会で報告後、報告会で詳報する
7. がんサポートサイトえひめ
 - 今年度のデータに更新

(倫)書式14

整理番号

臨2022-15

西暦 年 月 日

2022. 9. 13

研究許可申請に関する指示・決定通知書

研究責任者
寺本 典弘 殿

申請のあった臨床研究に関する当院および当院外の倫理審査委員会の審査事項について下記のとおり決定しましたので通知いたします。

実施医療機関の長
独立行政法人国立病院機構
四国がんセンター院長



研究組織名	愛媛県がん情報データベース委員会
研究課題名	愛媛県のがん情報を活用するための院内がん登録を中心とした愛媛県がん情報を集約したデータベースの構築と活用に関する研究(愛媛県がん情報データベース計画)
判定	<input checked="" type="checkbox"/> 許可 <input type="checkbox"/> 不許可
添付書類	倫理審査結果通知書 2022年9月13日作成(写)

(倫)書式3

整理番号

臨2022-15

西暦 年 月 日

倫理審査結果通知書

2022. 9. 13

研究責任者
寺本 典弘 殿

倫理審査委員会

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
倫理審査委員会委員長：上月 稔幸審査依頼のあった件についての審査結果を下記のとおり通知いたします。
記

研究組織名	愛媛県がん情報データベース委員会						
研究課題名	愛媛県のがん情報を活用するための院内がん登録を中心とした愛媛県がん情報を集約したデータベースの構築と活用に関する研究(愛媛県がん情報データベース計画)						
審査事項 (審査資料)	<input checked="" type="checkbox"/> 研究の実施の適否 (倫理審査依頼書 (2022年8月31日付(倫)書式1-1写)) <input type="checkbox"/> 研究の継続の適否 <input type="checkbox"/> 重篤な有害事象 (重篤な有害事象に関する報告書 (年 月 日付(倫)書式10写)) <input type="checkbox"/> 変更 (臨床研究に関する変更審査依頼書 (年 月 日付(倫)書式4写)) <input type="checkbox"/> 安全性情報等に関する報告書 (年 月 日付(倫)書式11写)) <input type="checkbox"/> 研究に関する不適切事案に関する報告書 (年 月 日付(倫)書式12写)) <input type="checkbox"/> 継続審査 (実施状況報告書 (年 月 日付(倫)書式6写)) <input type="checkbox"/> その他 ()						
審査区分	<input type="checkbox"/> 委員会審査 (審査日: 西暦 年 月 日) <input checked="" type="checkbox"/> 迅速審査 (審査終了日: 西暦 2022年9月3日)						
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/> 承認 <input type="checkbox"/> 条件付承認 <input type="checkbox"/> 却下 <input type="checkbox"/> 既に承認した事項を取消 <input type="checkbox"/> 継続審議						
「承認」以外の 場合の理由等							
備考							
審査委員	氏名	職業資格及び所属			出欠	備考	
	上月 稔幸	四国がんセンター 臨床研究センター長			医師	○	委員長
	青儀 健二郎	四国がんセンター 臨床研究推進部長			医師		副委員長
	藤山 幹子	四国がんセンター 副院長			医師	○	
	浅松 誠治	四国がんセンター 事務部長					
	大西 玉美	四国がんセンター 看護部長			看護師		
	森近 俊之	四国がんセンター 薬剤部長			薬剤師	○	
	仁科 智裕	四国がんセンター がんゲノム医療センター部長			医師		
	大亀 真一	四国がんセンター 婦人科医長			医師		
	山下 夏美	四国がんセンター 臨床疫学研究室			医師		
	頼本 真一	四国がんセンター 企画課長					
	野田 裕久	愛媛大学 法文学部			教授		
	小林 三和子	松山大学 薬学部			准教授、薬剤師		
上山 友一	愛媛大学 法文学部			准教授			

出欠については以下の区分により記号で記載する。

○ (出席し、かつ当該研究に関与しない委員)、一 (出席したが、当該研究に関与するため審議及び採決に不参加の委員)、× (欠席した委員)

研究計画書

愛媛県のがん情報を活用するための院内がん登録を中心とした愛媛県がん情報
報を集約したデータベースの構築と活用に関する研究（愛媛県がん情報デー
タベース計画）

Version 1.0 2022 年 8 月 31 日

2022 年 9 月 13 日 四国がんセンター倫理審査委員会承認

Version 1.1 2022 年 10 月 5 日

研究代表者：四国がんセンター病理科・がん予防・疫学研究部長 寺本典弘

事務局：愛媛県がん診療連携協議会・がん登録専門部会事務局（519-ml-cr@mail.hosp.go.jp）

連絡先： 0 8 9 - 9 9 9 - 1 1 1 1

Email: teramoto@shikoku.cc

1 研究の名称：

愛媛県のがん情報を活用するための院内がん登録を中心とした愛媛県がん情報を集約したデータベースの構築と活用に関する研究（愛媛県がん情報データベース計画）

2 研究の実施体制：

- 研究組織：愛媛県がん情報データベース委員会
 - 愛媛県がん情報データベースを管理する委員会。『愛媛県がん情報データベース利用規定』（別添4）に規定される。
- 研究代表者：寺本典弘、四国がんセンターがん予防疫学研究部長・病理科医長・愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会長併任

3 研究の背景、目的、意義

3.1 背景 現状と問題点

平成 19 年 4 月よりがん対策基本法が施行され、がん医療の均てん化の促進が唱われている。様々な取り組みがすすんでいるが、1 地方の診療の実態や均てん化の進捗状況を具体的に把握するためのシステムは未確立である。またがん登録推進法ではがん登録情報の有効利用推進がうたわれているが、まだ十分とは言えない。

愛媛県では愛媛県がん診療連携協議会（協議会）が、事業として協議会参加病院の院内がん登録データの収集、集計・公表を行ってきた¹⁾。もとより愛媛県は、院内がん登録の質の評価が高い点、がん診療が拠点病院・推進病院に集約化されている点と、県境を越える患者の移動が少ない点などより、全県集計値の意義が高い。そのため重要な事業として評価されている。しかしながら、事業集計という形で行っているため、形の決まった集計結果は提供できるものの、県内外のがん診療関係者が各々の必要性で要望する特別な形のデータの提供は行っていない。また、国立がん研究センターがおこなう「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会 Quality Indicator 研究」（以後東班 QI 研究）には県内全がん拠点病院が参加している²⁾（別添1：東班 QI 研究計画書）。院内がん登録と DPC データを突合させたデータベースは、がん対策の進捗を管理するための貴重な情報源として応用可能性があると考えられるが、県内では報告書に記載された集計結果を PDCA 部会で利用するにとどまっている。東班のデータは各拠点病院のデータであるため、東班 QI 研究班は施設長の要望があれば集計用に各都道府県協議会へ提供可能であるが、愛媛県では利用法、管

理法が定まっていないため、現状では行われていない。

このような状況を改善するため、愛媛県がん診療連携協議会ががん情報のデータベースを構築し、研究利用の形式で安全かつ有効に用いることを目指すとの方針が愛媛県がん診療連携協議会・役員会で承認された(2022年8月6日)。

3.2 本研究の目的

本研究では毎年収集している協議会参加病院の院内がん登録と東班 QI 研究を収集し、研究的な要求に応え、その幅広い活用がえられるデータベース(愛媛県がん情報データベース)を構築する。それを安全に活用できるか、有効なデータを提供できるかについて実際に運用することによって検証する。

1. データベース運用実現性の評価

- 協議会参加病院の院内がん登録および東班 QI 研究データを収集してデータベースを構築し、規程に沿った運用を行えることを実証する。

2. 要望に応える情報提供の評価

- 地域の診療の実態や均てん化の進捗状況を具体的に把握することや、県内外のがん診療関係者の要望に応えるがん情報の提供を行うことが出来ることを実証する。

- ① 利用申請者：愛媛県がん診療連携協議会関係者、医療関係者、研究者などを想定するが、一般市民、メディア、企業であっても一概に排除することなく審査する。

3. 提供情報の有用性の評価

- 提供した情報が地域のがん診療の実態や均てん化の把握に役立つ事例の集積を行う。

3.3 意義

愛媛県のがん登録の質、がん診療の拠点病院への集約性の高さ、県を超える患者移動の少なさから愛媛県のみでなく全国的に見ても有用なデータベースとなることが期待出来る。

事業ベースの集計では毎年定型的な集計が行われる。新しい形の集計は1年かけて検討する。事業集計なので、年度間に浮かんだ新しい疑問や新規の研究的な要求に答えることは難しい。県内

に既存のデータベースを集約し、利用を研究ベースにすることで、これまでの事業集計と違い、県内外の医療関係者などの独自の発想による重要な疑問にタイムリーに答えることが出来るようになる。問題意識や背景が異なるがん医療関係者による利用により、データのさらなる有効利用が行われることが期待出来る。

4 研究の方法及び期間

- 後ろ向き観察研究（既存データ利用、侵襲・介入なし）
 - 総研究期間：倫理審査委員会承認日から 2027 年 3 月 31 日
 - 収集項目：
 1. 愛媛県がん診療連携協議会参加病院のうち、施設長の承認があった施設の以下のデータ。
 - ①院内がん登録 0 年データ（2013 年診断以降）
 - ②院内がん登録予後付きデータ（2013 年診断以降）
 - ③東班 QI 研究データ（2013 年以降）
- ☆ ①②に関しては例年の協議会院内がん登録事業収集と同じデータであるが、別途提出施設の同意を得る。③についても別途各施設長の同意を得て、東班から提供を受ける。
- データの内容に関しては、例年の事業集計のマニュアル参照のこと
 - ①：別添 2a, b（『院内がん登録情報・解析研修会』院内がん登録情報データ収集・解析実施要領と冊子作成マニュアル）、②：別添 3（2014 年 5 年予後付きデータ提出用ファイル配布について）、③：別添 1（東班 QI 研究計画書）
- ☆ 収集したデータベースの利用、管理に関しては『愛媛県がん情報データベース利用規程（利用規程）』（別添 4）、『愛媛県がん情報データベース管理規程（管理規程）』（別添 5）に従う。
- 愛媛県がん情報データベースはセキュリティが高い四国がんセンター医療情報管理室において、管理する。
- ☆ データベースは要配慮個人情報に相当するが、特定個人情報、個人識別符号は含まれない。

- 研究目的の評価方法

『3.2 本研究の目的』の達成度に関して次の評価を行う

1. データベース運用実現性の評価

- ◇ データベースを作成し、事業集計項目に沿った共通の全県データを作成する
 - 作成作業上の問題点を収集する。
- ◇ 『利用規程』『管理規程』の運用面の問題点を集積する。
- ◇ 『利用規程』『管理規程』に抵触した事例を集積する。

2. 要望に応える情報提供の評価

- ◇ 情報提供の件数、情報提供までの期間、提供情報に関する利用者アンケート
- ◇ 別添 6 の項目を算出する。

3. 提供情報の有用性の評価

- ◇ 提供情報の利用状況（公開・引用事例、発表・論文化事例など）を収集する。

1～3 についてがん診療連携協議会に報告し、関連学会等において公表する。

5 データ利用と審査

- 集積したデータの利用希望者は愛媛県がん情報データベース委員会（委員会）事務局（事務局）宛てに申請する。また、委員会会員も利用申請することが出来る。
- 申請者は、必要事項（申請者の氏名、所属、利用目的、共同研究者など）を規定の申請書に書き込み、事務局に申請する。委員会が認めた場合は四国がんセンター倫理審査委員会に当研究のサブ解析として利用申請が提出される。審査は四国がんセンター倫理審査委員会が迅速審査として行う。
- 当研究で提供可能な情報の概略、申請方法などは協議会 HP に提示する。

6 愛媛県がん情報データベース委員会

- 『愛媛県がん情報データベース利用規程』に規程される委員会である。
- 愛媛県がん登録専門部会長・同副部会長から若干名・四国がんセンターがん予防疫学研究部長、愛媛県がん診療連携協議会所属病院の有識者数名で構成される。
- 本研究計画の実行の主体となる。

- 愛媛県がん情報データベースの管理、愛媛県がん情報データベースの有効利用法を検討する。
- 倫理審査委員会の負担を減らすため、外部からの利用申請について、科学的妥当性、がん患者の個人情報判明のリスクや病院名の公示の妥当性などについてオンラインで予備審査する。
 - ◇ 審査の結果修正が必要と判断した場合、申請者に修正を指示できる。
 - ◇ 審査相当と判断した場合、倫理審査委員会へ内容について付言することが出来る。

がん登録専門部会・愛媛県がん情報データベース委員会の関係についての補足説明

- 本研究は愛媛県がん診療連携協議会の活動としてがん登録専門部会が中心となっていくが、がん登録専門部会単独で行うべきものではないので、がん登録専門部会とは別に非部会員を含めた『愛媛県がん情報データベース委員会』を組織する。活動を円滑にするため、がん登録専門部会長である当申請者を委員長とし、事務局をがん登録専門部会事務局が兼ねる。

7 研究対象者の選定方針

対象年における愛媛県がん診療連携協議会所属病院の院内がん登録

8 医療機関および研究責任者

愛媛県がん診療連携協議会参加施設 各施設の研究責任者は別添（参加施設研究責任者一覧 愛媛県がん情報データベース version1.0)参照

9 インフォームド・コンセントを受ける手続：

病院ホームページ上でオプトアウトする。

10 個人情報等の取扱いおよび対象者の保護

『管理規程』に従い、管理し、『利用規程』にしたがって情報提供する。

当研究は、『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針』³⁾ 個人情報の保護に

関する法律にしたがって行われる。この場合、研究対象者から必ずしもインフォームドコンセントを受けることを要しない研究にあたる。

本研究の実施、研究の意義、目的、方法、問い合わせ、苦情、オプトアウトの方法などの窓口の連絡先に関する情報を公開する。

11 研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益、これらの総合的評価、並びに当該負担及びリスクを最小化する対策

- 個人情報漏洩のリスクに対しては細心の注意を払う。
- 愛媛県がん情報データベースは、院内がん登録を行うための厳密な規則で管理されている四国がんセンター医療情報管理室におかれている。

12 試料・情報の保管及び廃棄の方法：研究終了後、情報は10年保管する。ただし、継続性が重要な研究であるので、研究計画終了前年度に、更新申請を行うかどうか愛媛県がん情報データベース委員会で検討し、データの引き継ぎに関してはその時点での倫理審査委員会での審議に諮る。

13 研究機関の長への報告内容及び方法：研究計画申請、年次報告、研究終了報告を行う。

14 研究の資金源等、研究機関の研究に係る利益相反及び個人の収益等、研究者等の研究に係る利益相反に関する状況：利益相反なし。

15 研究に関する情報公開の方法：

研究の概要を当院ホームページおよび愛媛県がん診療連携協議会ホームページに公開する。

16 研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応：

研究責任医師が対応する。

別添リスト

1. 東班 QI 研究計画書
2. 『院内がん登録情報・解析研修会』院内がん登録情報データ収集・解析実施要領
 - a 『院内がん登録情報・解析研修会』
 - b 院内がん登録情報データ収集・解析実施要領と冊子作成マニュアル
3. 2014 年 5 年予後付きデータ提出
4. 『愛媛県がん情報データベース利用規程』
5. 『愛媛県がん情報データベース管理規程』
6. データ利用事例
7. 参加施設研究責任者一覧 愛媛県がん情報データベース version1.0

References

1. 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会. がん登録で見る愛媛県のがん診療
2022 [Available from: https://ecch.jp/?page_id=169].
2. 国立がん研究センターがん対策研究所がん登録センター医療政策部. 都道府県が
ん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会 Quality Indicator 研究 2022 [Available from:
<https://www.ncc.go.jp/jp/icc/health-serv/project/010/index.html>].
3. 文部科学省・厚生労働省・経済産業省. 人を対象とする生命科学・医
学系研究に関する倫理指針 2021 [Available from:
<https://www.mhlw.go.jp/content/000909926.pdf>].

別添7

参加施設研究責任者一覧

研究課題名	愛媛県のがん情報を活用するための院内がん登録を中心とした愛媛県がん情報を集約したデータベースの構築と活用に関する研究	
研究代表者	所属・職名	四国がんセンター病理科・がん予防疫学研究部長
	氏名	寺本典弘

No.	施設名	研究責任者職名	研究責任者氏名
1	市立宇和島病院	副院長兼アカデミックセンター長 兼内科統括科長	大木元 明義
2	住友別子病院	がんセンター医師	松原 稔
3	愛媛大学医学部附属病院	臨床腫瘍学講座教授	薬師神 芳洋
4	愛媛県立中央病院	診療情報病歴室室長	椿 雅光
5	松山赤十字病院	院長	西崎 隆
6	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院	外科部長	井口 利仁
7	社会医療法人石川記念会 HITO 病院	病院長	田中 伸二
8	公立学校共済組合四国中央病院	緩和ケア外科部長	武知 浩和
9	愛媛労災病院	院長	木戸 健司
10	一般社団法人積善会十全総合病院	内科医師	古林 太加志
11	済生会西条病院	副院長	石井 博
12	一般社団法人永頼会松山市民病院	外科部長	梅岡 達生
13	社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院	副院長	村上 英広
14	市立八幡浜総合病院	院長	大藏 隆文

以上

2012 年以降当院にて、がん診療された全ての方へ
『愛媛県のがん情報を活用するための院内がん登録を中心とした愛媛県がん情報を集約したデータベースの構築と活用に関する研究』の実施について

1. 研究目的・方法

[研究目的]

本研究では愛媛県がん診療連携協議会（協議会）が毎年収集している各病院の院内がん登録と東班 QI 研究のデータをあつめてデータベースを構築し、がん診療の現状把握や新しいがん診療の開発に繋がる知見をえるためのデータソースとすることが、安全かつ安定的に行えるかを実際に運用することによって検証します。

[研究方法]

この研究では、各協議会参加病院の施設長の承認のもと、各施設の院内がん登録データと東班 QI 研究データを協議会が取得し、データベース化します。

前者は協議会が県の補助を受け、毎年『がん登録でみる愛媛県のがん診療』として発行しているがん情報収集事業と同じデータです。後者は国立がん研究センターがおこなう「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会 Quality Indicator 研究」のデータの県内施設分です。

四国がんセンター倫理審査委員会から、がん診療の実態把握や新たな治療法研究などとして重要であると承認された研究計画に対してデータベースからのデータの提供を行います。

2. 研究に用いる試料・情報の種類

①院内がん登録0年データ（2013年診断以降）、②院内がん登録予後付きデータ（2013年診断以降）、③東班 QI 研究データ（2013年以降）

3. 研究全体の期間と予定症例数

研究期間：四国がんセンター倫理審査委員会承認日から2027年3月31日

予想症例数：10万～20万件（2018, 2019, 2020年実績でそれぞれ14,426件、14,484件、13,591件）

4. 研究結果の公表について

成果については愛媛県がん診療連携協議会およびそのホームページ、関連学会・論文等において公表する予定です。

5. 個人情報の取り扱いについて

収集するデータは、各施設において個人特定情報（氏名・生年月日・住所・電話番号など）が削除され、愛媛県がん診療連携協議会あるいは国立がん情報センターで運用が承認されたデータです。研究成果が発表される場合にも、集計情報から個人が特定されることのないよう十分配慮します。

6. 外部への試料・情報の提供

四国がんセンター倫理審査委員会が承認した研究計画書である場合、データを提供します。しかし、個人情報との連結可能なデータベースではないため個人情報と連結する形でのデータ提供は行いません。

7. 研究組織

研究組織：愛媛県がん情報データベース委員会

研究代表者：寺本典弘 四国がんセンターがん予防疫学研究部長

各施設における研究責任者：

No.	施設名	研究責任者職名	研究責任者氏名
1	市立宇和島病院	副院長兼アカデミックセンター長兼内科統括科長	大木元 明義
2	住友別子病院	がんセンター医師	松原 稔
3	愛媛大学医学部附属病院	臨床腫瘍学講座教授	薬師神 芳洋
4	愛媛県立中央病院	診療情報病歴室室長	椿 雅光
5	松山赤十字病院	院長	西崎 隆
6	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院	外科部長	井口 利仁
7	社会医療法人石川記念会 HITO 病院	病院長	田中 伸二
8	公立学校共済組合四国中央病院	緩和ケア外科部長	武知 浩和
9	愛媛労災病院	院長	木戸 健司
10	一般社団法人積善会十全総合病院	内科医師	古林 太加志
11	済生会西条病院	副院長	石井 博
12	一般社団法人永頼会松山市民病院	外科部長	梅岡 達生
13	社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院	副院長	村上 英広
14	市立八幡浜総合病院	院長	大藏 隆文

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
 研究計画書は、愛媛県がん診療連携協議会ホームページ内がん登録専門部会/愛媛県がん情報データベースのページで参照できます。

また、試料が当研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【研究機関】愛媛県がん情報データベース委員会

愛媛県がん診療連携協議会および愛媛県がん登録室を母体とする委員会

【研究責任者】寺本典弘、四国がんセンターがん予防疫学研究部長・愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会長

【連絡先】〒791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲 160

国立病院機構 四国がんセンター 寺本典弘

TEL: 089-999-1111 (代表)

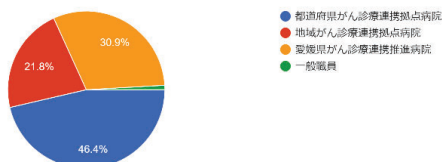
本研究への参加に同意しない場合は、連絡先までご連絡下さい

愛媛県がん診療連携協議会 (協議会) PDCA部会 『がん登録専門部会』 アンケート 粗集計

寺本典弘
がん登録専門部会
PDCA部会

一般協議会職員アンケート

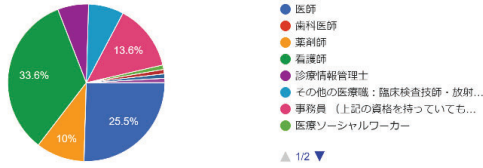
1 あなたの所属は?
110件の回答



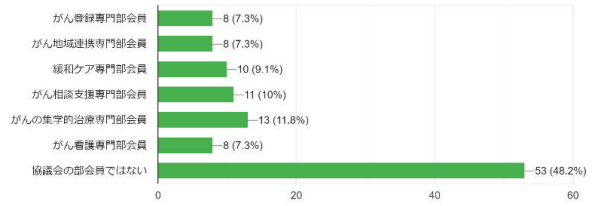
2 あなたの自施設における役職は?
77件の回答



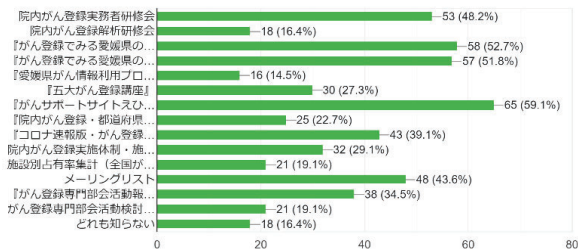
3 あなたの職業的専門性は？
110件の回答



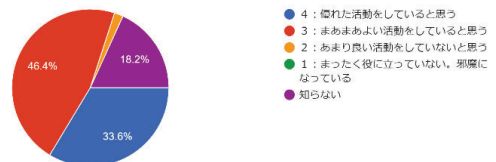
4 協議会での立場（複数選択可）※幹事会・PDCA部会の方はこのアンケートは対象外です。
110件の回答



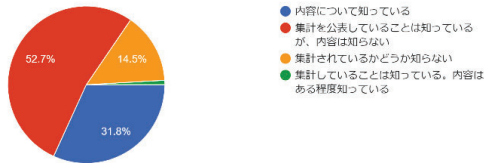
5 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会の...?知っているもの全てにチェックしてください。
110件の回答



6 がん登録専門部会は、がん診療連携拠点病院の...階で評価するとどれくらいだとおもわれますか？
110件の回答



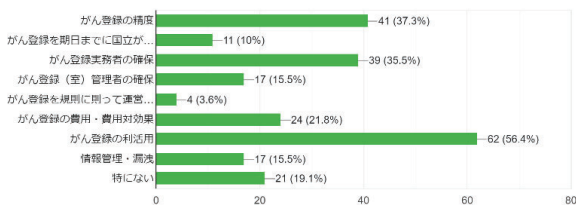
7 がん登録専門部会は、各施設での院内がん登録...内がん登録の集計結果について知っていますか？
110件の回答



8 愛媛県の院内がん登録の集計結果は協議会ホー...別の診療内容や生存率なども公表されています。
110件の回答



11 集計結果以外に自施設のがん登録に関して聞...と、心配なことを選んでください。(複数選択可)
110件の回答



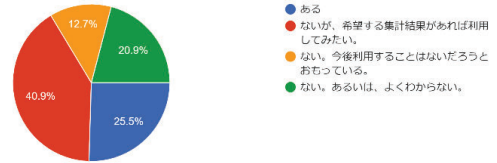
12 がん登録専門部会のあり方や活動についての意見があれば お願いします13件の回答

- ・ 特になし
- ・ がん登録の集計結果は当院の受診者の傾向や県の状況などを知り、何をしていけばいいのかを考える参考にさせていただいております。いつもありがとうございます。
- ・ 働き過ぎ
- ・ 組織の義務として参加しているだけの人が多い
- ・ 年に1、2回、管理診療会議でがん登録の実績や利活用等を完結に報告して頂けると、院内の職員に対しては今以上にがん登録について認識する機会になると思います。(事務部)
- ・ 参加することで勉強させて頂いています。
- ・ なし
- ・ 現在の自分の業務には無縁であるが、重要な活動だと認識している。いずれは利用させていただくこともあると思われる。
- ・ やることが増えすぎないようにした方がよいと思います。
- ・ 特にありません。活動にご尽力頂きありがとうございます。今後ともよろしく申し上げます。
- ・ 特にありません

9 自施設や愛媛県、あるいは全国の院内がん登録...どう思われますか? 近い表現を選んでください。
110件の回答

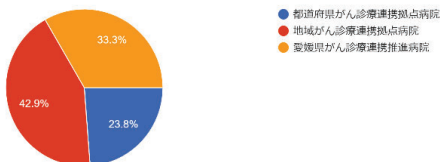


10 自身や自分の部署で、県や自施設のがん登録の集計を利用したことがありますか?
110件の回答



PDCA部会・幹事会アンケート

1 あなたの所属は?
21件の回答



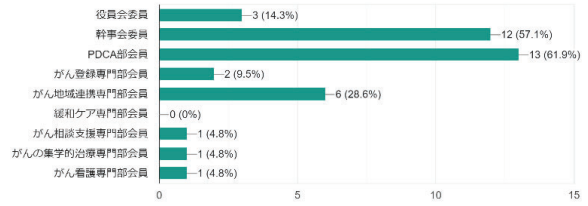
2 あなたの自施設における役職は?
19件の回答



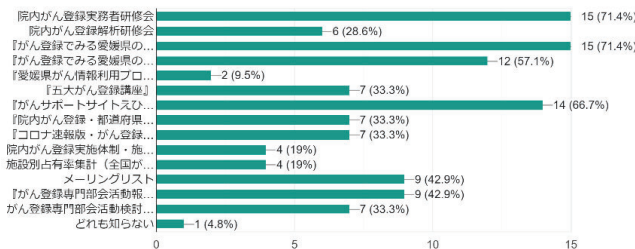
3 あなたの職業的専門性は？
21件の回答



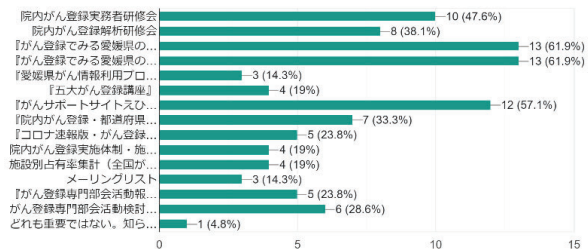
4 協議会での立場（複数選択可）注：幹事会・P...どちらにもチェックが入らない人は対象外です。
21件の回答



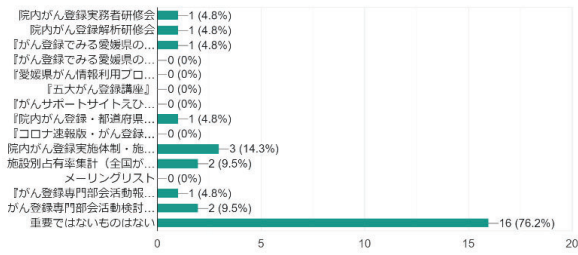
5 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会の...（複数選択可）（5、6、7の選択肢は同一です）
21件の回答



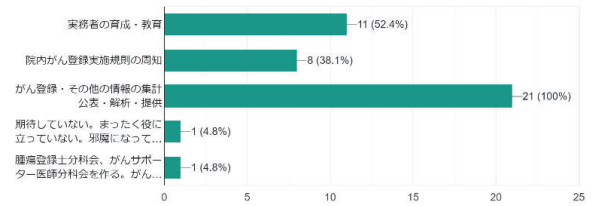
6 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会の...（複数選択可）（5、6、7の選択肢は同一です）
21件の回答



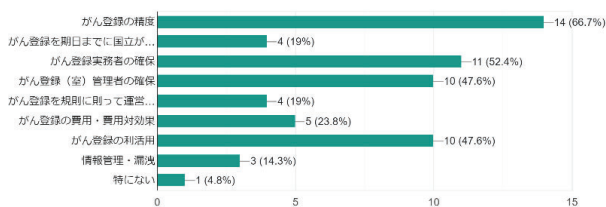
7 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会の過...複数選択可) (5、6、7の選択肢は同一です)
21件の回答



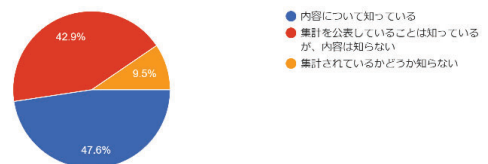
8 がん登録専門部会にどんなことを期待しますか...他」を選択後、後の自由記載欄をお願いします。
21件の回答



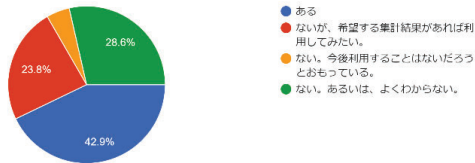
9 自施設のがん登録に関して関心があること、心配なことを選んでください。(複数選択可)
21件の回答



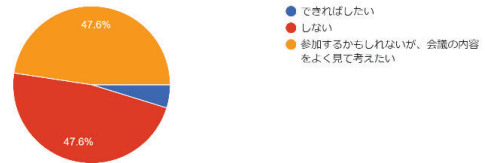
10 自施設の院内がん登録の集計結果について知っていますか?
21件の回答



11 自身や自分の部署で、県や自施設のがん登録の集計を利用したことがありますか？
21件の回答



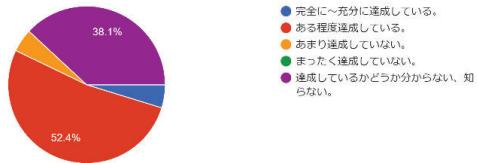
12 県や各施設の集計内容を決める会議に参加を希望しますか？
21件の回答



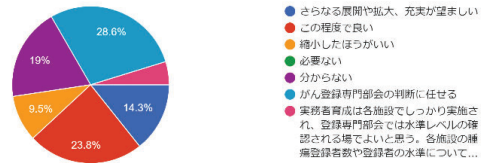
13 がん登録がどう活用されることを期待しますか？

- ひみつ
- がん患者の年齢構成分析
- 『がん登録でみる愛媛県のがん診療』のようなものでよい
- 質向上
- 年齢別・住所別の治療区分40の数・人口比の集計
- 増えているがん、減ってきているがん、横ばいのがんと治療内容との相関関係
- 検診と死亡率の関係
- 自施設のがん診療に関する強み弱み
- 部位または疾患別の件数解析
- 生存率や各施設の強み、がん検診が効果的に実施されているかを知ることができる
- 自施設のがん診療に関する強み弱みが浮き彫りになる解析

14 『がん診療連携拠点病院等の整備に関する指...携などが目的です。実務者研修会は上記の目的を、21件の回答



15 (14に引き続き) その目標のためがん登録専門部会の実務者研修会は、21件の回答



16 院内がん登録を行う病院では、定期的に医師...らされています。院内がん登録委員会の開催について 21件の回答

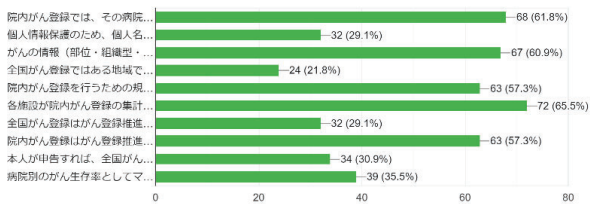


- 17 がん登録専門部会のあり方や活動についての意見
- なし
- 部会活動（WG）が多いような気がします
- ついて行くのにやっとのところを感じる時がある
- 毎回ではなく年に数回、管理診療会議等の多くの職員が集合する会議等で活動内容を短時間で報告するような取り組みはいかがでしょうか。
- がん登録の基本（誰が何をどう登録しているのか）を知らず、がん連携協議会に参加しようとする人が、毎回、背景として教えていただければありがたいです。

共通 クイズ回答

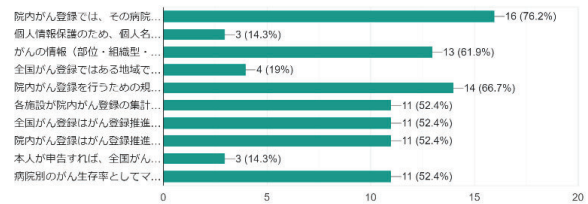
一般会員

13 がん登録について知っていますか?正しいものにチェックしてください。
110件の回答



PDCA部会・幹事会

18 がん登録について知っていますか?正しいものにチェックしてください。
21件の回答



正答数集計用関数を記載しておきます

『=COUNTIF(N14,"*だけでなく、紹介患者*")+COUNTIF(N14,"*がんの数が分かるが、院内がん登録では分からない*")+COUNTIF(N14,"*院内がん登録を行うための規則是、省令に基づき*")+COUNTIF(N14,"*『がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針』で義務*")+COUNTIF(N14,"*全国がん登録はがん登録推進法によって日本の全病院*")+COUNTIF(N14,"*病院別のがん生存率としてマスコミ等が報道するの*")+IF(COUNTIF(N14,"*その病院が診療した全てのがんの情報について登録する*")=1,0,1)+IF(COUNTIF(N14,"*個人名や生年月日の登録を避け、イニシャルと診断時年齢のみ登録*")=1,0,1)+IF(COUNTIF(N14,"*院内がん登録はがん登録推進法によって日本*")=1,0,1)+IF(COUNTIF(N14,"*院内がん登録はがん登録推進法によって日本*")=1,0,1)+IF(COUNTIF(N14,"*本人が申告すれば、全国がん登録・院内がん登録から除外*")=1,0,1)』



がん登録実務者のための 5大がん登録講座 2022 第10回記念大会

開催日

2023年
1月21日(土)
10時～15時
予定

講義内容

- 2022年症例からの登録ルール変更について
- 多重がんルールの概論と演習
- 院内がん登録におけるオプトアウトについて
- がん登録に役立つ内視鏡検査・内視鏡治療の知識
- がん登録に役立つ病理診断の知識

講師

国立がん研究センター
がん対策研究所がん登録センター
塚田 庸一郎先生

国立がん研究センター
がん対策研究所がん登録センター
江森 佳子先生

四国がんセンター
内視鏡科医長

長谷部 昌先生

愛媛県
がん診療連携協議会
がん登録専門部会部会長

寺本 典弘先生

参加申込

事前申込制

※2022年12月中旬より募集予定
下記URLよりご確認ください。

★がん登録実務者のための5大がん登録講座2022
ホームページ

https://ecch.jp/?page_id=3535

↑ここをクリック↑

参加費

無料

ホームペー
QRコード



事前質問受付中！！

受付期間

2022年10月17日(月)

～11月18日(金)

<https://forms.gle/skyGQQ4Rk1oHYWr9A>

↑ここをクリック↑

事前質問
QRコード



愛媛県がん診療連携協議会
がん登録専門部会公認
マスコットキャラクター
のいっくま



<お問い合わせ>

四国がんセンター 医療情報管理室

令和3年度愛媛県がん診療連携協議会
「がんの集学的治療専門部会」
2022/07/14 on WEB

1. 「在宅がん患者のirAE管理ツール」の運用について
愛媛大学 薬師神先生
2. 薬薬連携 「保険薬局とがん専門病院のがん化学療法に関する連携」について
四国がんセンター 亀岡
3. 愛媛県在宅ケア推進協議会の活動について
四国がんセンター 橋田
4. 曝露体験型セミナーについて、曝露調査について
四国がんセンター 青儀、橋田
5. 放射線治療FAX紹介簡易版について
四国がんセンター 濱本
6. がん薬物療法多職種チーム研修について
四国がんセンター 青儀、橋田、小倉、福島
7. 提案:がんサバイバーシップ研究について
四国がんセンター 青儀

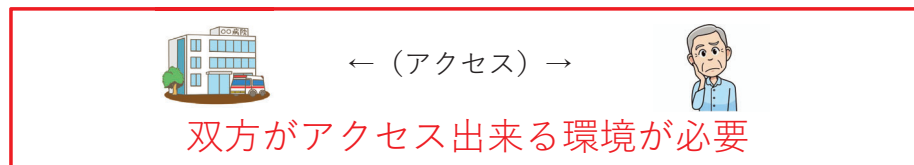
在宅がん患者の副作用管理ツール

現在のがん治療の問題点

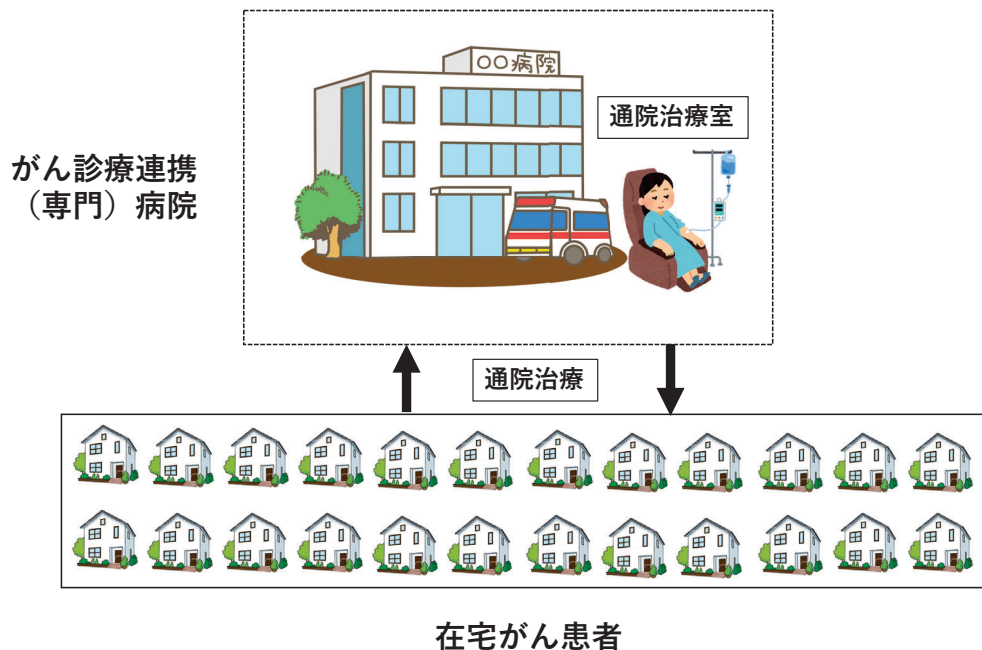
- ・通院時のみで、医療者は患者の体調を把握することが難しい。
- ・患者・家族は自宅での体調不良にどのように対処すれば良いのか
(そもそも体調不良時に病院に行くべきなのか) 思案することが多い。
- ・医療者ならびにがん患者双方の「不安」をどのように解消するかは
在宅がん医療において大きな課題。

更に

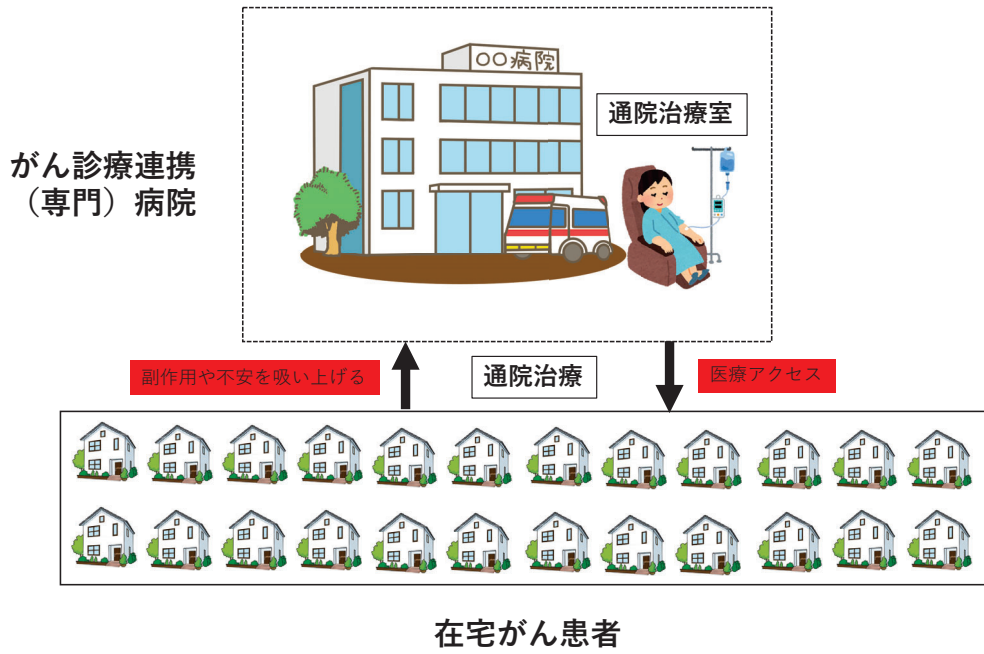
- ・現在のコロナウイルスのパンデミックの時代には、通院回数や
外来時間を少なくすることが求められ、生活の質(QOL)を維持した
在宅での体調管理が求められている。



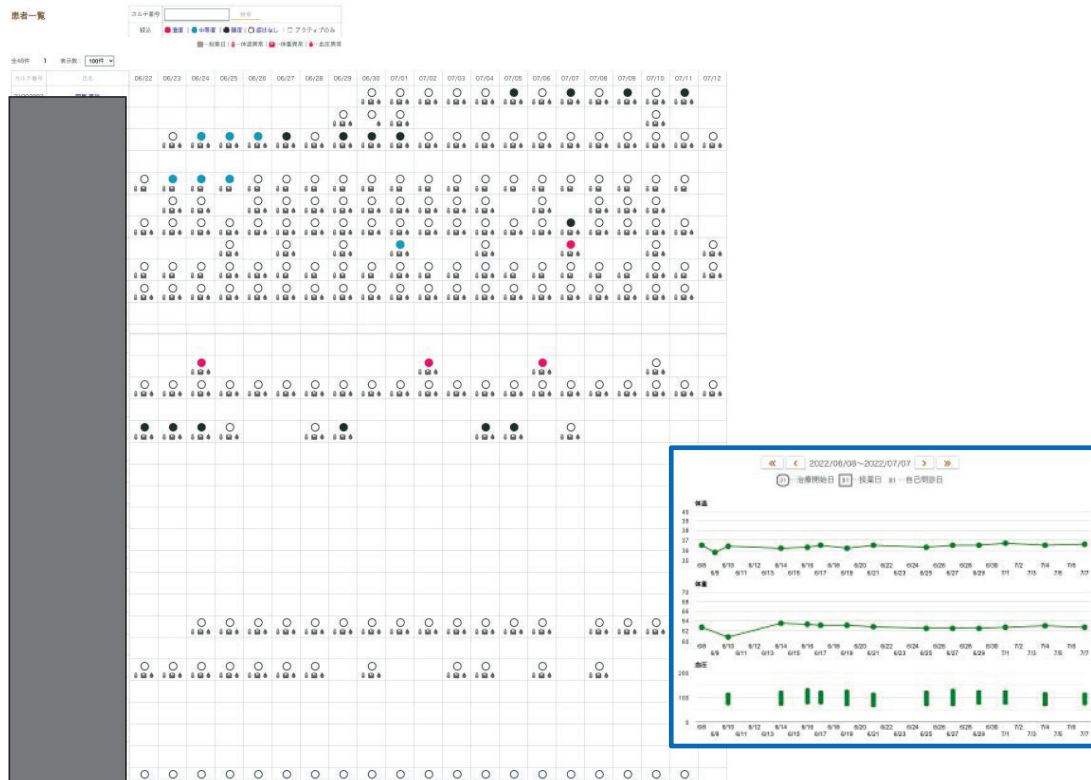
現在のがん治療



がん治療は入院から外来にシフトし 長期の自己管理ががん患者に必要



症例提示 (医療者の監視コンピュータ画面)



問診結果

氏名	カミナリ 隆幸
検査日	2022/06/02 検査済 40日回 ● 検査日管理

● 患者一覧へ戻る

■ 日付別データ表示 ■ グラフ表示

問診日 2022年 07月 07日 体温 36.6℃ 体重 62.7kg 血圧 120/69mmHg

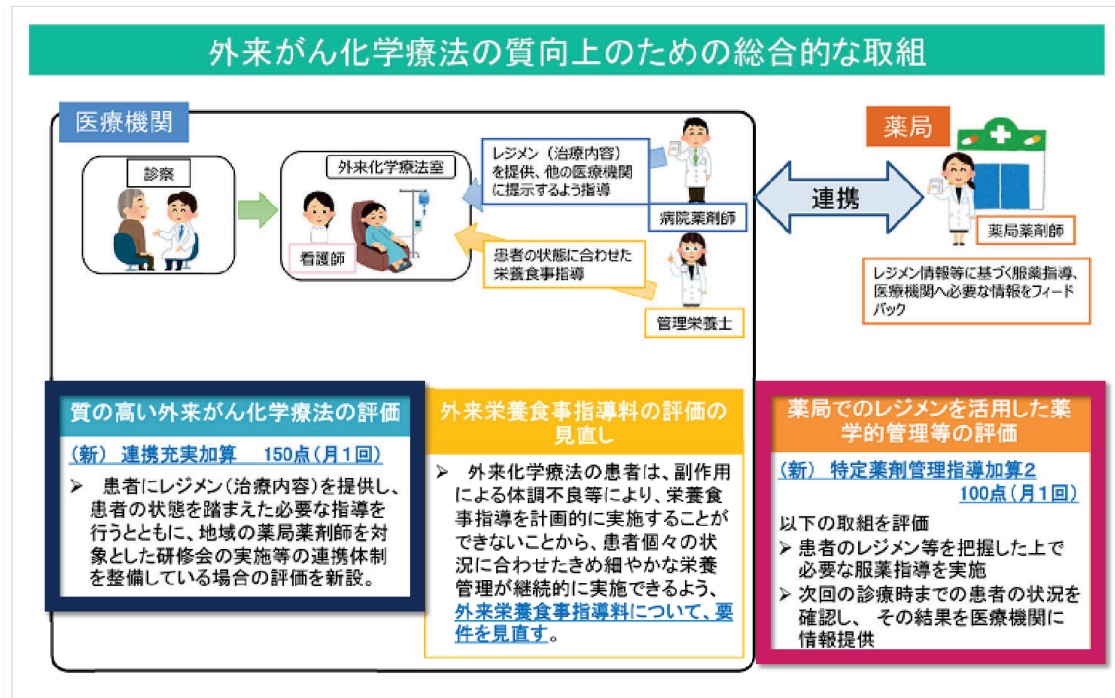
	Point	呼吸器病	大腸炎	腎臓病(腎臓病)	腎臓病(腎臓病)	糖尿病(糖尿病)	心疾患	I型DM	中核疾患	副腎疾患	皮膚疾患	肝臓疾患	甲状腺疾患	眼疾患	脳炎・髄膜炎	神経科疾患	感染症
悪心	1						○	○		○		○	○				○
嘔吐	1						○	○		○		○	○				○
食欲不振	1		○	○			○	○		○		○	○				
下痢	1		○	○			○	○		○		○	○				
便秘	1	○	○	○			○	○		○		○	○				
浮腫	1								○								○
胸水	1			○													○
腹水	1			○													○
疲労	1	○	○	○			○	○		○		○	○				
筋力低下	1			○			○	○		○		○	○				
痛下	2			○			○	○		○		○	○				
呼吸器	3	●		●	●	●	●										●
認知									○								○
減少									○								○
その他		腎臓病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病	糖尿病
合計Point		3	0	3	3	3	3	1	1	1	0	0	3	0	0	3	0
修正値		0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0

総計Point 3 0 3 3 3 3 3 0 0 0 0 0 0 3 0 0 3 0

2022.07.14 愛媛県がん診療連携協議会がんの集学的治療専門部会

薬薬連携に関する報告

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
薬剤部 亀岡 春菜



調査方法

対象者

愛媛県薬剤師会の会員保険薬局に勤務する薬剤師
1,723名

調査期間

2020年9月26日～2020年11月30日

調査方法

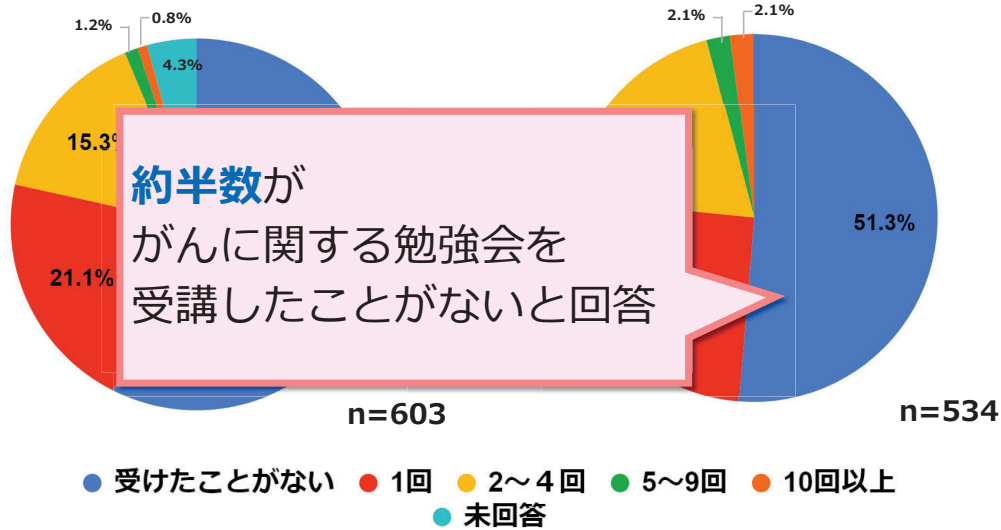
Web形式のアンケート調査

2022.07.14 愛媛県がん診療連携協議会がんの集学的治療専門部会

がんに関する勉強会（研修・講演会など） を受けたことがありますか

<2009年>

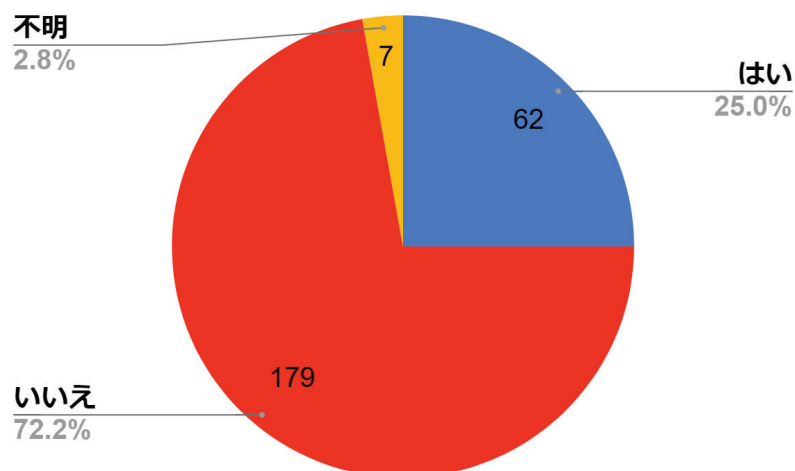
<2020年>



「薬剤服用歴管理指導料 特定薬剤管理指 導加算2」を取得していますか

n=248

※管理薬剤師のうち「がん患者の来局がある」と回答した薬剤師のみ

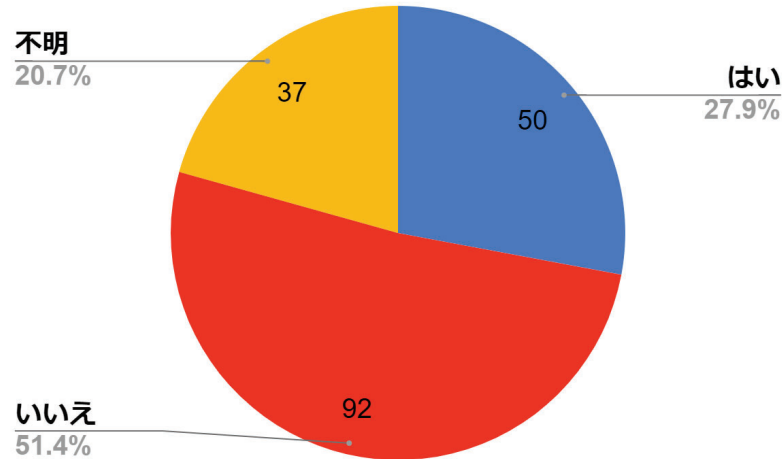


2022.07.14 愛媛県がん診療連携協議会がんの集学的治療専門部会

「薬剤服用歴管理指導料 特定薬剤管理指導加算2」の取得を検討していますか

n=179

※管理薬剤師のうち「特定薬剤管理指導加算2を取得していない」と回答した薬剤師のみ



2022.07.14 愛媛県がん診療連携協議会がんの集学的治療専門部会

アンケート調査の結果概要

- 2009年から約10年での変化
 - ★がんに興味のある薬剤師は増加
 - ★服薬指導に関する情報は約8割が不足を指摘
 - ★勉強会の参加を希望する薬剤師は多いが、約半数が未受講の現状→地域差も影響している可能性あり
- 特定薬剤管理指導加算2
 - ★調査時点で取得しているのは約4分の1に留まる
 - ★問題点として「医療機関との連携不足」「レジメンの確認における不安」「情報、知識不足」が挙げられた

特定薬剤管理指導加算2の問題点 (自由記載)

- 病院との連携がとれない
- 情報が不足している
- レジメン内容が把握できない
 - * マンパワー不足
 - * 研修会への参加が困難
 - * 知識不足
- 算定要件の達成が困難
- その他
対象患者がいない、患者にメリットが伝わりにくい
継続的な情報提供・フォローができない

連携充実加算に関する現状調査のお願い

前回、保険薬局を対象に特定薬剤管理指導加算2の現状調査を行ったので、次は医療機関の連携充実加算の取得状況を調査させていただきたい。

- ✓ 調査対象：本専門部会に参加の医療機関
- ✓ 調査内容：連携充実加算の実施状況
- ✓ 調査方法：メーリングリストより
調査票を配布

愛媛県在宅緩和ケア推進協議会

設立:2011年8月

目的:居住地や病期に関わらず、苦痛なく安心して『家で過ごしたい』と願う患者とその家族の思いを叶えるために、愛媛における在宅緩和ケアの支援体制の確立を目指す。

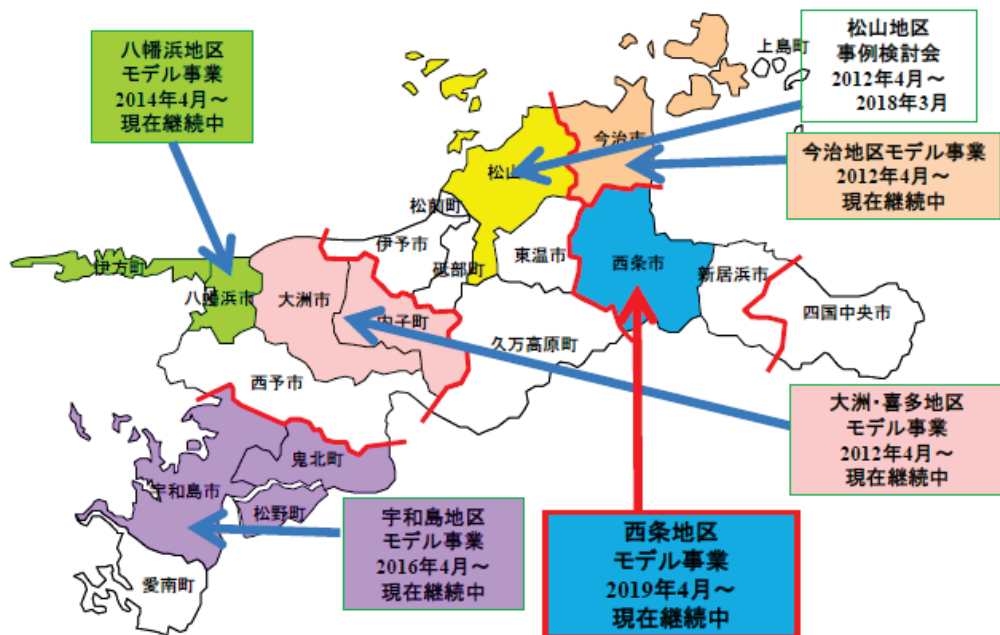
事業内容:

在宅緩和ケア推進のための
モデル事業の立ち上げと実践

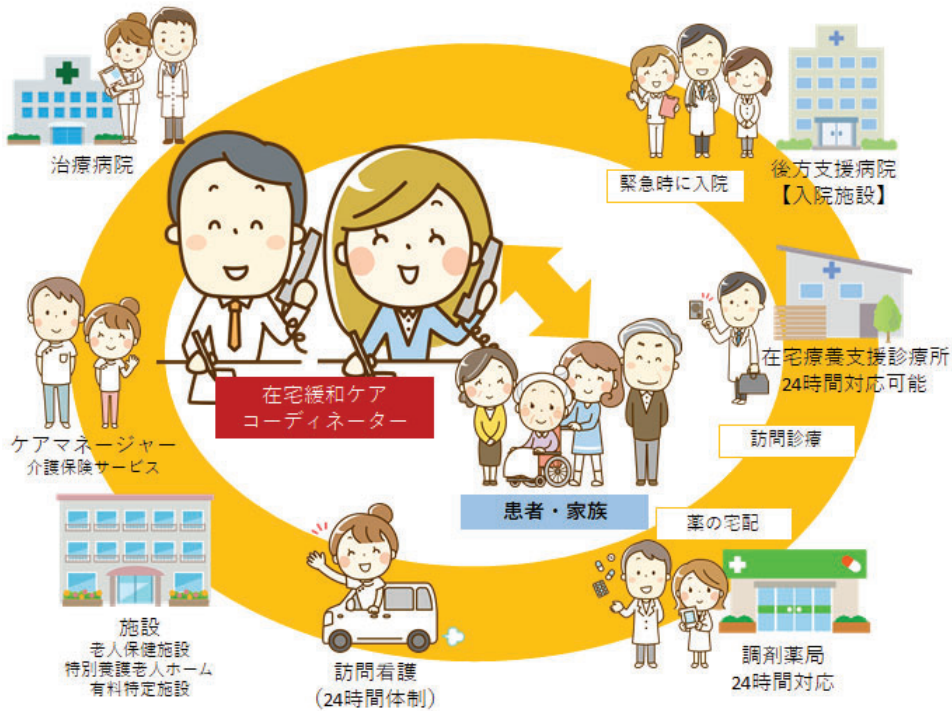


モデル事業代表者会議2022.3.29

各地区における実践事業



モデル事業代表者会議2022.3.29



各地区の症例検討会

大洲・喜多地区、八幡浜地区、西予地区、
宇和島地区、今治地区、西条地区

- Web開催であり、紹介元の医師が参加できるようになり、事例の治療期からの流れが参加者で共有でき、治療医にとっても在宅の様子がわかり**連携の強化**に繋がる
- 医療、介護、行政など多職種が地域の課題や事例について話し合う事で**顔の見える関係を構築**し、質の高い医療が行えるようにスキルアップを図ることができる



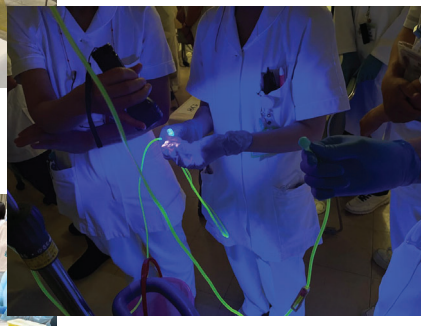
Chemotherapy Seminar
～抗がん薬曝露対策を考える～
2022年6月30日(木)
18:15～20:00
【会場】
四国がんセンター
地域医療連携研修センター3階 研修室
定員: 50名
定員になり次第、締め切り致します。
ご承知おきください。

総合司会 独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター
臨床研究推進部長 青儀 健二郎 先生

一般講演 18:15～19:00
演題 | 『抗がん薬静注時の曝露リスクと予防対策
～CSTD「クモセーフロック」の適正使用について～』
演者 | テルモ株式会社 中北 香子

特別講演 19:00～20:00
座長 | 独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター
院長 山下 素弘 先生
演題 | 『曝露対策の必要性&がんとの向き合い方』
演者 | 国立研究開発法人 国立がんセンター 名誉総長
公益財団法人 日本対がん協会 会長
特定非営利活動法人 抗がん剤曝露対策協議会 理事長
垣添 忠生 先生

主催: テルモ株式会社
後援: 愛媛県がん診療連携協議会



ご参加ありがとうございました

**職業性 Hazardous Drug (HD)曝露の基礎的データ収集のための
医療スタッフにおけるサイクロフォスファミド尿中濃度と床面 HD 曝露のバイト調査**
<2021年12月実施>

試験受付番号: JF21-L009

[別紙1]

調査目的
職業性 Hazardous Drug (HD)曝露の実態調査として、がん化学療法に関わる看護師、薬剤師の尿イコフォスファミド測定を行い、HD 曝露対策立案の基礎的データとともに、バイト試験として本調査実施可能性を確認する。同時に通院治療室、薬剤部において汚染のあると思われる床面全体をセップで拭り、選定する床面 HD 曝露の実態を調査し、HD 曝露対策立案の基礎的データとして追加する。

調査概要
1. 調査測定方法 (尿中サイクロフォスファミド濃度調査)
がん化学療法に関わる看護師3名、薬剤師2名において2021年12月第1週終了時(12月3日午後5時)までに採取を行い、検体を凍結保存後、翌12月第2週にシオノギ分析センターに提出し尿中サイクロフォスファミド測定する。
床面曝露調査は2021年12月第1週終了時までに床面全体を測定用セップで清掃し、サイクロフォスファミド濃度測定を行う。なお通常の方法で、調査前には通院治療室、薬剤部を行うこととする。その週における測定したサイクロフォスファミド、SFU 含有のシムデータ調査書に記載し、検体とともに、データは結果確定後 HD 曝露ワーキンググループ代表両名で報告する。検体は測定終了後シオノギ分析センターにおいて廃棄する。

サンプルID	作業部署	測定箇所	測定法	使用日及び採取日	採取時刻	採取量	CPA 検出限界 (ng)	CPA 測定値 (ng)	CPA 検出限界 (ng/mL)	CPA 測定値 (ng/mL)	SFU 検出限界 (ng)	SFU 測定値 (ng)
モップ01-012	薬剤部	床	抽出法	2021/12/17	-	-	0.563	1.70	-	-	2.82	79.6
モップ01-013	薬剤部	壁	抽出法	2021/12/17	-	-	0.563	ND	-	-	2.82	271
モップ01-014	外来化学療法室	床	抽出法	2021/12/17	-	-	0.563	2.49	-	-	2.82	87.1
モップ01-015	外来化学療法室	壁	抽出法	2021/12/17	-	-	0.563	ND	-	-	2.82	116
U01-036	薬剤部	尿	尿中濃度測定	2021/12/8	13:00	16mL	-	-	0.03	ND	-	-
U01-037	薬剤部	尿	尿中濃度測定	2021/12/8	12:50	170mL	-	-	0.03	ND	-	-
U01-038	通院治療室	尿	尿中濃度測定	2021/12/17	12:00	200mL	-	-	0.03	ND	-	-
U01-039	通院治療室	尿	尿中濃度測定	2021/12/15	16:30	80mL	-	-	0.03	0.03	-	-
U01-040	通院治療室	尿	尿中濃度測定	2021/12/15	12:30	110mL	-	-	0.03	ND	-	-

本調査の今後の展開
これらのデータは HD 曝露対策立案の基礎的データとし、本調査が今後繰り返し実施可能かを検討する。実施可能と判断すれば、愛媛県がん診療連携協議会が学術的治療専門部会で共有し、部会施設で実施検討する。

以上

数値の取り扱い
有効数字3桁で表示する。

シオノギファーマ株式会社

ND:検出限界未満
(作成日:2022/01/11)

放射線治療FAX紹介簡易版

FAX (089)999-1100
四国がんセンター 外来放射線治療 FAX 紹介

ご施設 _____ 診療科 _____ ご担当医氏名 _____

電話番号 _____ FAX _____

.....

患者氏名 _____ 性別 1. 男 2. 女
生年月日 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日 生まれ _____ 歳

病名 _____

(1) 依頼目的(簡単に結構ですので、具体的に記入下さい)。

(2) 放射線治療の既往 1. あり 2. なし。
「あり」の場合、治療時期、治療施設、治療部位をおわかりになる範囲で記入下さい。
(_____)

(3) 移動 1. 独歩、2. 車いす、3. ストレッチャー。

(4) 理解度 本人からの同意取得 1. 可 2. 不可。

(5) 直近で使用した抗腫瘍薬とその最終投与日 (_____)
今後、投与予定の抗腫瘍薬 (_____)

(6) 下記の使用がある場合、ご記載下さい。
1. 心臓ペースメーカー、埋込み型除細動器 2. 酸素吸入 (_____ リットル/分)。
3. 鎮痛剤 (_____)

(7) その他の特記事項 (病状説明、同意取得の際に留意すべき点など)。

23

「実践から学ぶ がん薬物療法 多職種チーム研修」

開催日：2022年7月30日 (土)



四国がんセンター
愛媛県

都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

【現状】

中央から遠隔の地方であるため、化学療法の最新情報、支持療法等のアップデート等が遅れて入ってくるため、それらの情報にやや疎い傾向がある。外来化学療法の運用については、県で統一した運用法はなく、ポリシー・運用方針、必要な人員・リソースの確保・活用、バックアップ体制について、各施設の判断に任されている。感染症蔓延、災害等に対する、化学療法実施を維持していく体制ができていない。

【課題】

外来化学療法の標準的運用方針を共有する。そのための医療リソースの活用についても統一見解を共有する。がん診療連携協議会、医師会、行政と共同して、災害時の化学療法実施維持体制の構築をすすめる。がん治療に関する最新情報の共有体制を作る。

今回の研修で取り組むこと

がん薬物療法を受ける患者を多職種で支援するためのチーム作りについて学び、多職種で協働した副作用マネジメントを実現できるように、

- ・ 自施設におけるチーム活動の現状を把握し、
- ・ チーム活動においての課題を明らかにし、
- ・ 今後のチーム活動について話しあい、
自施設で取り組みをより具体的に考える

研修会開催までの流れ



研修会プログラム

	時間	内容
	9:00~9:20	受付
	9:30~9:40	1. オリエンテーション
	9:40~10:10	2. 参加施設紹介 [発表(1グループ5分程度)・質疑応答] ×4チーム
午 前 の 部	10:10~10:15	休憩
	10:15~11:05	3. 講義:「多職種チームの構築方法」 講師:鳥取大学医学部付属病院 腫瘍内科 診療科長 陶山 久司先生
	11:05~11:15	休憩
	11:15~12:00	4. 講義:「チーム医療の取り組みについて(仮)」 講師:奈良県立医科大学付属病院 がんゲノム・腫瘍内科学講座 助教 吉井 由美先生
	12:00~13:00	昼休憩
午 後 の 部	13:00~13:45	5. グループワーク(職種別): チームにおける役割・現在の取り組み
	13:45~13:50	休憩
	13:50~15:20	6. グループワーク(施設別): チームの課題を基に今後の活動計画を考える
	15:20~15:30	休憩
	15:30~16:30	7. 発表: より良いチーム医療を行うために [発表(1グループ10分程度)・質疑応答(1グループ5分程度)] ×4チーム
	16:30~16:45	8. まとめ

第3期がん対策推進基本計画(平成30年3月9日閣議決定)(概要)

第1 全体目標

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」

①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ②患者本位のがん医療の実現 ③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

第2 分野別施策

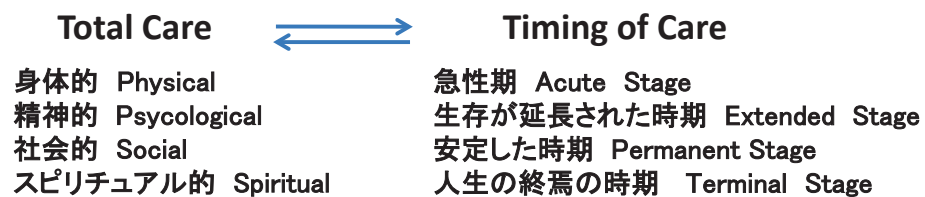
1. がん予防 (1)がんの1次予防 (2)がんの早期発見、がん検診(2次予防)	2. がん医療の充実 (1)がんゲノム医療 (2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法 (3)チーム医療 (4)がんのリハビリテーション (5)支持療法 (6)希少がん、難治性がん (それぞれのがんの特性に応じた対策) (7)小児がん、AYA(※)世代のがん、高齢者のがん (※)Adolescent and Young Adult: 思春期と若年成人 (8)病理診断 (9)がん登録 (10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組	3. がんとの共生 (1)がんと診断された時からの緩和ケア (2)相談支援、情報提供 (3)社会連携に基づくがん対策・がん患者支援 (4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題 (5)ライフステージに応じたがん対策
4. これらを支える基盤の整備 (1)がん研究 (2)人材育成 (3)がん教育、普及啓発		

第3 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 関係者等の連携協力の更なる強化 | 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化 |
| 2. 都道府県による計画の策定 | 6. 目標の達成状況の把握 |
| 3. がん患者を含めた国民の努力 | 7. 基本計画の見直し |
| 4. 患者団体等との協力 | |

1

がんサバイバーシップ保持活動の概念



がんサバイバーシップの4×4

実践課題

身体的問題: 二次性発がん 術後後遺症 妊孕性 心・骨・ケモブレイン・性機能障害
アピランス等

社会的問題: 経済的負担 就労問題 チャイルドケア

精神的問題: 適応障害 うつ病

スピリチュアリティ

*実践 がんサバイバーシップ 監修: 日野原重明 医学書院 改

問題点

- ・サバイバーシップケアモデルに関する国際的コンセンサスはなく、さまざまな形態が提唱されている。
- ・本邦でもがんサバイバーシップの概念定着や実践の展開は十分とはいえない。

背景・目的

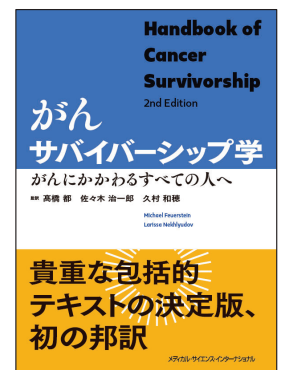
- ・ サバイバーシップの概念や種々のテーマに関する教材と、体系的な学習機会がきわめて少ない
- ・ がんサバイバーシップに関して、日本の研究知見や社会文化的背景及び医療システムに基づいた解説が必要



ゴール：日本の多職種医療者ががんサバイバーシップの概念と関連テーマを学ぶための包括的な教材と地方研修プログラムを開発すること

3年間で目指すこと：

- ① **全国に向けて** Handbook of Cancer Survivorship 2nd ed.の内容を参考にしつつ、わが国の社会文化的背景や医療システムに基づく解説や支援リソースの情報を加え、現場の支援実践に役立つ医療者向け教材を開発すること（媒体としてE-learningを想定）。
- ② **地方に向けて** 各地の医療者が、その地方（都道府県単位）の医療状況や行政施策・民間の支援リソースなどを学び、医療者が自らの日常業務に活かすための地方研修プログラムを開発すること（対面またはオンラインの研修を想定）。愛媛県でパイロット研修を実施し、運営ノウハウを蓄積するとともに全国展開上の課題を明らかにする。



がん看護専門部会報告

第1回がん看護専門部会の部会は、9月27日(火曜日)14:00～WEBにおいて、拠点病院・推進病院の看護管理者の方々14名と当院担当者5名の出席を得て開催いたしました。

1) 幹事会及び役員会報告

4月21日に開催された第1回幹事会の議事録の説明。がん専門部会においては、昨年の活動報告、今年度の計画、能力向上研修会について提案を行い、幹事会からの意見は特になし。

8月7日に開催された第1回役員会・各部門報告会の議事録はHPにまだアップされていないため、当日のレジメに基づき説明。2023年度の年間スケジュールについてはまだ検討中となっている。看護専門部会からの報告として、がん看護実践能力向上研修会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和2年度は中止となり、令和3年度は初めての試みであるWEB開催、自施設実習を取り入れたため、拠点病院のみの参加者であったが、各施設の支援を得て、9名の参加者全員が修了証を得ることができた。その結果を踏まえ、令和4年度は研修期間を7日～10日へ変更、講義内容等の追加、実習場所の選択肢に四国がんセンターを加え、7月27日からスタートしており、研修生17名が学んでいる。

2) 今年度研修計画の進捗状況

①令和4年度がん看護専門部会研修

- ・がん看護実践能力向上研修会 23名募集中17名の応募があり、17名が研修中
- ・トミックス研修

8月20・21日(共催)ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム 40名修了

10月20日(共催)高齢者の意思決定支援 100名募集中

②がん看護実践能力向上研修会スケジュール

公開講座受講者状況

③今後の課題と確認事項

- ・新型コロナウイルス感染症への感染や濃厚接触者になることに伴う、実習の未実施(特に四国がんセンターでの実習)の場合への対応
 - 四国がんセンターの実習期間(10/7-11/2)であれば、時期をずらしての参加は可能。研修修了においては、原則全過程への出席が必要。
- ・新型コロナウイルス感染症に伴う研修参加禁止の基準
 - 最低でも、四国がんセンターの基準に照らして参加。四国がんセンターの基準よりも所属施設の参加禁止条件が厳しい場合、所属施設と要相談。

3) 検討事項

①次年度におけるがん専門部会の開催日について

現在、他の部会は協議会報告会前に開催されているが、看護専門部会のみ協議会后(9月・1月)に開催されている。協議会報告に部会報告を行うのであれば、協議会前の開催がよいが、がん看護実践能力向上研修会を優先に考える必要があり、現状がよいのか。

- ・協議会報告 4月 幹事会(第2回部会報告+企画委員会報告)
8月 役員会・専門部会報告会(第2回部会報告+研修会進捗状況)
10月 幹事会(第1回部会報告)
12月 専門部会報告会(第1回部会報告+研修会進捗状況)
- ・がん看護実践能力向上研修会(8月開催のため7月には研修案内必要)
企画委員会 年2回開催 5～6月・2～3月
- ・以上より、案
 - 1回目:研修会案内の検討・承認(1回目企画委員会開催後)
5月第4火曜日 or 6月第1火曜日
 - 2回目:現状継続 1月第4火曜日(ある程度の研修会報告が可能。閉会式は2月27日予定であり、企画委員会後となると3月になる)

→ 1回目の開催日のみ変更

案の5月 or 6月の開催で承認あり。後日、メンバーにメールにて周知する。

②がん看護専門部会活動周知のためのアンケート調査実施の有無について

8月協議会におけるPDCA部会活動報告から抜粋

<連携協議会部会活動周知のためのアンケート調査>

専門部会活動に対しては、外部評価されていないのではないかという視点から、各施設幹部（PDCA委員など）と一般職員（非専門部会員）の皆様を対象として各専門部会の活動の認知度や評価をアンケートとして実施し、それを協議会自身のPDCA活動とできるのではないかと。

第一回目は『がん登録専門部会』に関するアンケートを実施済み

がん登録専門部会の設問を参考に、がん看護専門部会用の設問を決めればPDCA部会でアンケートの形式にして、発信し、解析することができる。

→ アンケート調査を実施することに決定

- ・アンケート内容は案を作成後、メンバー間でメールにて追加・修正、承諾を得る。
- ・アンケート実施時は、各施設において回答の協力を図る。

第2回がん専門部会の開催は、令和5年1月24日（火）14:00～の予定

2022年度 年間スケジュール

日時	開催会	内容	場所
4月21日(木) 18:00～19:30	幹事会(WEB)	(協議事項) ・令和4年度幹事会会員の紹介 ・今年度役員会、専門部会の会員について ・年間スケジュールについて ・各専門部会より連絡事項について ・その他	四国がんセンター
6月21日(水) 18:00～19:00	PDCA部会(WEB)	(連絡・協議事項) ・各専門部会の年次活動方針及び企画について周知および活動に関する審議 ・その他	四国がんセンター
6月24日(金) 14:00～15:30	がん登録専門部会(WEB)		
7月13日(水) 15:00～16:00	がん地域連携専門部会(WEB)		
7月14日(木) 18:00～19:00	がんの集学的治療専門部会(WEB)		
7月14日(木) 13:30～15:00	がん相談支援専門部会(WEB)		
7月8日(金) 18:00～19:15	緩和ケア専門部会(WEB)		
8月6日(土) 10:15～11:00	役員会(WEB)	(決議事項) ・今年度役員、幹事及び専門部会員について ・年間スケジュールについて ・その他幹事会で協議された事項	四国がんセンター
	報告会(WEB) (専門部会報告)	役員会および各専門部会決定事項、活動に関する事項の報告 ・その他連絡事項	
9月27日(火) 14:00～15:00	がん看護専門部会	(連絡・協議事項) ・各専門部会の年次活動方針及び企画について周知および活動に関する審議 ・その他	四国がんセンター
10月13日(木) メール会議	幹事会	(協議事項) ・専門部会の活動について ・次年度計画案(各会開催日の決定) ・その他	四国がんセンター
10月27日(木) 18:00～19:00	PDCA部会	(連絡・協議事項) ・各専門部会の活動に関する審議 ・次年度計画案について ・その他	四国がんセンター
	がん登録専門部会		
11月16日(水) 15:00～16:00	がん地域連携専門部会		
11月10日(木) 18:00～19:00	がんの集学的治療専門部会		
	がん相談支援専門部会		
12月1日(木) 18:00～19:00	緩和ケア専門部会		
◎1月19日(木) 17:30～19:00	報告会 (専門部会報告)	各専門部会活動に関する事項の報告 ・その他連絡事項	四国がんセンター
(予備日)1月12日(木)			
1月24日(火) 14:00～15:00	がん看護専門部会	(連絡・協議事項) ・専門部会の活動に関する審議 ・次年度計画案について ・その他	四国がんセンター

令和4年度 愛媛県がん診療連携協議会 第2回専門部会報告会(予定)

◇ 日時・場所 ◇

令和5年1月19日(木)17時30分～19時00分(Web会議)
発信：四国がんセンター研修室

◇ 議題 ◇

開会の挨拶

報告事項

- 1) PDCA 部会
- 2) がん地域連携専門部会
- 3) 緩和ケア専門部会
- 4) がん相談支援専門部会
- 5) がん登録専門部会
- 6) がんの集学的治療専門部会
- 7) がん看護専門部会

第2回専門部会の予定について

- 1) PDCA 部会 2022/10/27 (木) 18:00～19:00Web 会議
- 2) がん地域連携専門部会 2022/11/16 (水) 15:00～16:00Web 会議
- 3) 緩和ケア専門部会 2022/12/1 (木) 18:00～19:00Web 会議
- 4) がん相談支援専門部会
- 5) がん登録専門部会
- 6) がんの集学的治療専門部会 2022/11/10 (木) 18:00～19:00Web 会議
- 7) がん看護専門部会 2023/1/24 (火) 14:00～15:00 Web 会議

がん相談支援に携わる医療者必見

参加費
無料

がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会

現在、がん診療連携拠点病院では、医療者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援が求められ、すでにさまざまな取り組みがされています。それらが施設のがん患者とその家族のニーズに適した支援となっているよう、質の向上を図ることが重要です。

本研修は、がんサポートグループの基本的な知識や技術を講義や動画、ロールプレイを通して実践的に学習できます。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるためのより最適で効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

日時

2022年11月3日

木・祝

10:00~
17:00

定員

90名
応募者多数の
場合は選考

開催
方法

ハイブリッド開催

会場 東京秋葉原UDXカンファレンス (JR秋葉原駅徒歩2分)

WEB Zoomミーティングを使用

対象

がん診療連携拠点病院等で
がん相談支援に携わる医療者

講義・実践編の両方参加できる方および事前評価アンケートを提出できる方

看護師、MSW、心理職、
医師、薬剤師等

申込
方法

WEB上でお申込ください。

URL <https://ws.formzu.net/dist/S4641802/>

申込期間 9月28日(水) 17:00まで



お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業

がん総合相談に携わる者に対する研修事業

日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986

URL <https://www.peer-spt.org/>

Mail info@peer-spt.org

申込期間

2022年 9月28日(水) 17:00
まで

申込方法

- インターネットでの申込をお願いいたします。以下URLまたはQRコードからお申込ください。
<https://ws.formzu.net/dist/S4641802/>
- 受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが info@peer-spt.org にご連絡ください。

申込は
こちらから

研修前～当日のプログラム

01

評価編 研修前
10/5-10/21

- 自施設の取り組み
振り返りのアンケート

02

講義編 11/3(木・祝)
10:00～12:00

- がん患者の心理社会的支援
- がんサポートグループとは
- がんサポートグループの方法：
形態や目的
- ファシリテーションの基本スキル
- 多様なニーズへの対応
(起こり得る事例)
- ピアサポーターとの協働 等

03

実践編 11/3(木・祝)
13:00～17:00

- 基本的なコミュニケーションスキル
- 動画で学ぶ
ファシリテーションの実際
- ロールプレイ
(ファシリテーター体験)
- 企画・運営に関するグループワーク

留意事項

- 応募者多数の場合は選考を行います。結果を申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので @east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いします。
- 修了証を全員に発行いたします（会場での出席・Zoomの視聴記録から、講義編・実践編（ロールプレイ）両方の出席が確認できた方に限ります）。
- 新型コロナウイルス感染の拡大状況等により開催内容・形式の変更の可能性があります。

WEB参加希望の方へ

- 研修会当日、ご自身でインターネット・Zoomにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。
- インターネットの接続環境が安定した状態で参加されることを推奨します。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。
- 機器の貸出等はありません。ご自身でのご準備をお願いいたします。

現地参加希望の方へ

- 会場では、マスク着用・手指消毒の上、他の参加者との会話は控えめにお願いいたします。また、当日会場にて検温を実施いたします。予め風邪等の症状がある方は参加をお控えください。

会場「東京秋葉原UDXカンファレンス」へのアクセス

- JR秋葉原駅 電気街口より徒歩2分
- つくばエクスプレス 秋葉原駅A1出口より徒歩3分
- 東京メトロ日比谷線 秋葉原駅2番出口より徒歩4分
- 東京メトロ銀座線 末広町駅 1番または3番出口より徒歩3分



お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986
URL <https://www.peer-spt.org/>
Mail info@peer-spt.org

2023年度 がん診療連携協議会年間スケジュール (案)

項目	日程	時間
第20回 日本臨床腫瘍学会学術集会	2023年3月16日(木) - 18日(土)	
幹事会候補日	2023年4月17日(月)	18:00~19:30
	2023年4月18日(火)	
第28回 日本緩和医療学会学術大会	2023年6月30日(金) - 7月1日(土)	
役員会、専門部会報告会候補日	2023年7月29日(土)	(役員会) 10:00~11:00
	2023年8月5日(土)	(報告会) 11:00~12:00
第82回 日本癌学会学術総会	2023年9月21日(木) - 23日(土)	
幹事会候補日	2023年10月5日(木)	18:00~19:30 (※議題により メール会議または Web会議)
	2023年10月12日(木)	
専門部会報告会候補日	2024年1月11日(土)	(17:30~19:00)
	2024年1月18日(土)	

☆☆☆ 愛媛県緩和ケア研修会 PEACE のご案内 (案) ☆☆☆

2022年11月吉日

医師会員各位

愛媛県緩和ケア推進センター
愛媛県がん診療連携協議会

謹啓

平素より緩和ケアの普及推進にご尽力を賜り感謝申し上げます。

さて、令和5年度緩和ケア研修会 PEACE の開催についてご案内させていただきます。この研修会は、がん対策推進基本計画に基づくもので、受講修了者（医師）には厚生労働省健康局長名による修了証書が発行され、氏名が公表されます。「B001 22 がん性疼痛緩和指導管理料 200 点」の算定には、本研修修了が要件とされています。

なお、開催指針の改正により、e-learning による事前学習とロールプレイなどを実施する集合研修を組み合わせた形式で実施しておりますが、今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況により開催方法の変更や中止となる場合もあります。つきましては、研修会の開催日程を下記のとおりご案内いたしますので、受講予定の皆様には、e-learning の修了証書を添付のうえ、FAX 送信（本紙裏面）またはメールでお申し込みください。（e-learning の受講方法については別紙1をご参照ください。）なお、参加状況は、施設毎に異なっており、随時ホームページに更新いたします。受講の際には、各拠点病院の担当者に直接ご確認をお願いします。

謹白

開催日程	申し込み期限	申込先（問い合わせ先）
2023年3月11日(土)	2023年1月20日(金)	四国がんセンター がん診療連携協議会事務局：武智 祥江 TEL：089-999-1111 FAX：089-999-1100 メール：519-tsupport@mail.hosp.go.jp
2023年4月15日(土)	2023年2月17日(金)	住友別子病院 がんセンター事務担当：横井 美由紀 TEL：0897-37-7111 FAX：0897-37-7121 メール：miyuki_yokoi@ni.sbh.gr.jp
2023年5月13日(土)	2023年3月10日(金)	済生会今治病院 総合医療支援室：柚山 直哉 TEL：0898-47-2571 FAX：0898-47-2826 メール：n-yuyama@imabari.saiseikai.or.jp
2023年6月24日(土)	2023年4月21日(金) ※院内研修医等の希望者を優先するためお断りする場合がありますので、ご承知おきください。	愛媛大学医学部 総務課企画・広報チーム：上甲 通子 TEL：089-960-5225 FAX：089-960-5131 メール：mekoho@stu.ehime-u.ac.jp
2023年7月8日(土)	2023年5月12日(金)	松山赤十字病院 がん診療推進室：大西 麻弓 TEL：089-926-9630 FAX：089-926-9614 メール：ganshinryo@matsuyama.jrc.or.jp
2023年8月5日(土)	2023年6月2日(金)	愛媛県立中央病院 事務局総務医事課：富田 隆幸 TEL：089-947-1111 FAX：089-943-4136 メール：tomita-takayuki@pref.ehime.lg.jp
2023年8月19日(土)	2023年6月16日(金) ※南予地区の方限定	市立宇和島病院 医事課：清家 さゆり TEL：0895-25-1111 FAX：0895-26-6560 メール：seike_sayuri@uwajima-mh.jp
フォローアップ研修会 2023年9月30日(土)	上記研修会修了者のためのフォローアップ研修会です。 2023年7月初旬に案内いたします。なおフォローアップ研修会は「がん性疼痛緩和指導管理料」算定には関係しません。	

- 詳しくは緩和医療学会 PEACE プロジェクト (<http://www.jspm-peace.jp/>) をご参照ください。



下記を記載の上、それぞれの主催拠点病院宛にお申込みください。

FAX 番号 () 《送信票不要》
宛 先 () 病院 () 宛て

☆☆☆愛媛県緩和ケア研修会申込書☆☆☆

① 2023年()月()日 - ()日 開催の緩和ケア研修会に
申し込みます。

② 受講者氏名 (同一医療機関で複数名応募の場合は、優先順位を付けて下さい)

優先順位 (複数の場合)	ふりがな 氏名	所属医療機関 診療科等名	職種 (○で囲む)	医籍登録番号 (医師のみ記入)
			医師 看護師 薬剤師 その他 ()	
			医師 看護師 薬剤師 その他 ()	
			医師 看護師 薬剤師 その他 ()	
			医師 看護師 薬剤師 その他 ()	
			医師 看護師 薬剤師 その他 ()	
			医師 看護師 薬剤師 その他 ()	
			医師 看護師 薬剤師 その他 ()	

医師以外の医療スタッフには、愛媛県知事名による修了証書が発行されます。

③ 連絡の方法:

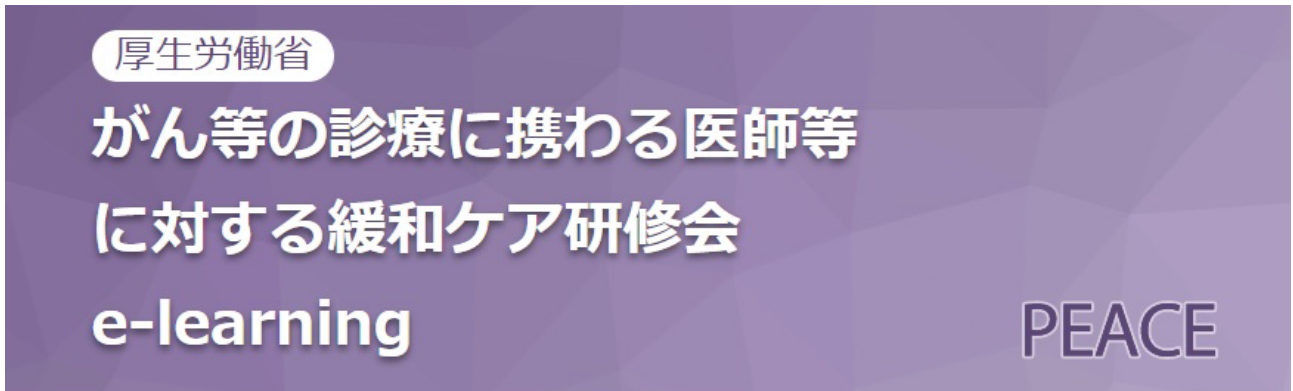
氏名 (代表者1名)、電話番号、FAX 番号、メールアドレス

④ 備考欄

e-learning の受講方法

1. 下記サイトにアクセス

<https://peace.study.jp/rpv/>



本サイトは「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針（平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局長通知）」に則り実施される緩和ケアの知識を習得するためのオンライン学習サイトです。がん等の診療に携わる全ての医師・歯科医師、またこれらの医師・歯科医師と協働し、緩和ケアに従事するその他の医療従事者を対象としています。
平成30年度以降の緩和ケア研修会は、「e-learning」と「集合研修1）」で構成され、双方の修了をもって、緩和ケア研修会修了となります。緩和ケア研修会を受講される方は、こちらのe-learningを修了の上、2年以内にごがん診療連携拠点病院等で開催されている「集合研修」を受講してください。

1)集合研修の開催情報は、各都道府県のがん対策当課にお問い合わせください。

e-learning 受講から集合研修受講までの流れについて

情報
2022.7.26 【お知らせ】 夏季休業について
2022.7.5 【お知らせ】 医師・歯科医師以外の医療従事者の登録職種を追加しました
2022.5.30 【重要】 アクセス障害発生のお詫びと復旧について
2022.3.4 【重要】 サーバー通信障害について（2022年4月12日追記あり[太字部]

PDF

動画

- がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会開催指針(PDF)
- e-learning受講から集合研修受講までの流れ(PDF)
- e-learning受講から集合研修受講までの流れ(動画)
- PEACEプロジェクトについて

2.e-learning 受講から集合研修受講までの流れについて、動画の視聴またはPDFを一読。

3.2 の手順のとおり新規登録～e-learning 修了証書の印刷まで実施。

4.印刷した e-learning 修了証書を添付のうえ、研修会へ参加申込。

(案) 都道府県がん診療連携拠点病院がん相談支援センター四国ブロック会
申し合わせ事項

(趣旨)

第1条 「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に基づく都道府県における相談支援機能の強化及びがんに関する相談支援に携わる者に継続的かつ系統的な研修を行うため、愛媛県・高知県・徳島県・香川県（以下「四国圏内」という。）が協働で開催・運営する会（以下「ブロック会」という。）を設置する。

ブロック会は、単県では実施や対応が困難な、四国圏内のがん相談支援に携わる者に継続的かつ系統的な研修の提供及びがん医療の拡充に伴う相談支援センターの業務拡大への対応・がん相談支援体制の均霑化をブロック会というスケールメリットを活かしつつ、推進する。

(協議事項)

第2条 ブロック会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 四国圏内のがん相談支援センターに関すること。
- (2) 四国圏内のがん診療における相談支援体制に関すること。
- (3) 四国圏内のがん相談に関わる相談員を対象とした研修及び相談員の育成・派遣に関すること。
- (4) 四国圏内のがん相談支援センター業務の情報収集、共有、評価及び広報に関すること。
- (5) その他、ブロック会で認めること。

(組織)

第3条 ブロック会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 四国圏内の各都道府県がん診療連携拠点病院相談支援部会長及び事業担当医師
- (2) 四国圏内の各県行政担当代表者
- (3) 四国圏内の各都道府県がん診療連携拠点病院実務担当者1～2名
- (4) その他、ブロック会が必要と認める者

(会長)

第4条 ブロック会に会長を置き、第6条第3号アから順に、地域相談支援フォーラム及び研修会を主催する県の都道府県がん診療連携拠点病院のがん相談支援部門の管理者又は相談支援部会長をもって充てる。

- 2 会長はブロック会を主宰し、会務を総理する。
- 3 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議および運営)

第5条 ブロック会の会議は、必要に応じて会長が招集し、議長を務める。

- 2 ブロック会は、委員の3分の2が出席しなければ、議事を開くことができない。
- 3 委員は、やむを得ない理由により会議に出席することができない場合は、その代理者を会議に出席させることができる。その代理出席者には議決権を認めるものとする。
- 4 ブロック会は、諸課題を専門的、実践的に検討するため、実務担当者を含む。
- 5 ブロック会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。
- 6 ブロック会は、会長の指名により、副会長(実務担当者)を置く。
- 7 副会長は、ブロック会会長の指示の基に定例会を主宰し、会務を総理する。

(業務)

第6条 定例会は、次の業務を行う。

- (1) 四国圏内のがん専門相談員の育成及び教育環境の整備に関すること。
- (2) 四国圏内のがん専門相談員、がん相談支援センター実務者間の連携強化に関すること。
- (3) 四国圏内のがん専門相談員の知識・相談技術向上のため、次に掲げる研修会の企画・運営に関すること。
 - ア 地域相談支援フォーラム
 - イ 相談の質評価(QA)に関すること。
 - ウ 情報支援・提供に関すること。
 - エ その他、定例会が必要と認めること。
- (4) 四国ブロック会から提議された内容について検討すること。

(委員の構成及び任期)

第7条 定例会構成員は、四国圏内の各都道府県がん診療連携拠点病院相談支援部会会長、及び事業担当医師が推薦する者とする。

- 2 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(事務)

第8条 ブロック会の事務は、ブロック会会長の所属する事務部において処理する。

(申し合わせ事項の改定)

第9条 この申し合わせ事項の改定は、ブロック会の議を経るものとする。

(雑則)

第10条 この申し合わせ事項に定めるもののほか、ブロック会の運営に関し必要な事項

は、会長が別に定める。

- 2 各県内のがん相談支援事業にあたり、本申し合わせ事項以外に必要な事項については各県相談支援部会内で定めるものとする。

附 則

この申し合わせ事項は、2022年5月26日から施行する。

愛媛県がん診療連携協議会

標準 大

お問い合わせ サイトマップ



愛媛県がん診療連携協議会会長あいさつ

愛媛県がん診療連携協議会について

専門部会について

協議会・専門部会の参加について

[トップページ](#) > [専門部会について](#) > [がん相談支援専門部会](#) > 活動方針・目的

専門部会について

がん相談支援専門部会 活動方針・目的

目的

愛媛県内で実施されているがんに関する情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。

活動方針

- 愛媛県内外の関連部門との積極的に情報共有を図る
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
愛媛県がん相談支援推進協議会
がん患者団体
各種専門団体（医師会、薬剤師会、看護協会等）
- 各施設で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握・課題の明確化を行い、改善に向けて取り組み
地域の療養情報作成
- 情報提供・相談支援体制の質向上のための交流会・研修会等を行う
がん相談員研修
がんサロン担当者の交流・検討会

2020年8月5日承認

自然災害発生時における研修会等の取り扱いについて

- 対象となる災害
台風、大雨、大雪、川の氾濫、地震などの自然災害
- 対象となる研修会等
がん相談支援専門部会が主催する研修会、ワーキング会議、出張相談イベント、その他の打ち合わせ会議等。
- 判断基準
 - 開催地に特別警報が発令された場合は中止とする。
 - 特別警報・暴風雨警報など避難勧告発令などに伴い、公共の交通機関（バスや電車）が開催地の全区間完全に運行停止となった場合は中止とする。
 - 以下の場合は状況を勘案して個別に判断する。
 - 開催地に i 以外の警報が発令されたとき。
 - 開催地に台風が接近している場合。
 - 開催地に直接影響する地震が前日、あるいは当日に発生し被害が出たとき。
 - 参加者の移動に危険が生じる恐れがあるとき。
 - 天候等により欠席者が多いと予測される場合。
 ※WEB開催時は運営事務局設置場所を開催地とみなす。
- 判断の時期

PDCA部会

活動方針・目的

年度計画

活動実績

議事録

抄録・学会報告・冊子等

課題

セミナー・研修会

がん地域連携専門部会

活動方針・目的

がん治療連携指導料の施設基準

年度計画

活動実績

議事録

がん地域連携バス稼働の実際

愛媛県がん地域連携バス（共同開発バージョン）

共同申請の医療機関リスト

緩和ケア専門部会

活動方針・目的

年度計画

活動実績

議事録

愛媛県緩和ケア研修会PEACE

開催のご案内

修了者名簿

がん相談支援専門部会

愛媛県のサポート情報

がんサポートブックえひめ

がんサポートサイトえひめ

愛媛県内のがん相談支援センター

活動方針・目的

年度計画

活動実績

第1回愛媛県がん診療連携協議会

議事録

報告書

セミナー・研修会

部会長が、前日15時の状況のみで判断する。
前日に判断が難しい場合は、部会長が当日の朝6時の時点で気象庁のホームページで判断する。

5. 中止の周知方法
前日に中止の判断となった場合は、ワーキングのリーダーが、相談支援専門部会MLへメールする。また、電話にて参加者に周知する。
当日の判断基準に沿って中止となった場合は、ワーキングのリーダーが相談支援専門部会MLへメールする。また、参加者が問い合わせできる窓口を設ける。
(※相談支援専門部会MLに登録している委員は、研修会等に参加する該当者に周知する。)
6. 中止後の対応
中止した研修会等の後日開催については、ワーキングにて判断する。

2022年3月承認

実務者代表 に関する取り決め事項

I. 目的

この規定は、愛媛県がん診療連携協議会（以下、協議会とする）がん相談支援専門部会（以下、専門部会）専門部会における 実務者代表（以下、実務者代表 とする）に関する事項を定め、専門部会の活動を円滑に運営することを目的とする

II. 選任および任期

1. 実務者代表 は専門部会の委員 から、都道府県がん診療連携拠点病院より1名、地域がん診療連携拠点病院より1名を選出し、2名体制とする
2. 任期は2年を原則とし、再任は妨げない
3. 地域がん診療連携拠点病院は、以下の順で輪番とする
済生会今治病院
住友別子病院
愛媛県立中央病院
市立宇和島病院
松山赤十字病院
愛媛大学医学部附属病院

III. 任務

実務者代表は目的達成のために次の役割を担う

1. 部会長と協力し、専門部会を運営する
2. 都道府県がん診療連携連絡協議会 情報提供・相談支援部会へ出席し、その内容を専門部会に周知および還元する
3. 専門部会の各ワーキング活動の支援および諸調整を行う
4. 愛媛県のがん相談支援の実務者代表として、四国ブロックでの連携を図る
5. そのほか、専門部会におけるがん相談支援の実務者代表として必要とされる役割を担う

2020年8月5日承認

塗装府県がん診療連携協議会がん相談支援センター四国ブロック会申し合わせ事項

がん登録専門部会

活動方針・目的

愛媛県のがん登録
がん情報利用プロジェクト
院内がん登録とは
地域がん登録とは
全国がん登録とは
がん登録専門部会としての活動及びデータ利用に関して

年度計画

がん登録実務者のための5大がん登録講座 2022
がん登録実務者のための5大がん登録講座 2021
がん登録実務者のための5大がん登録講座 2020
がん登録実務者のための5大がん登録講座 2019
令和元年度 第1回がん登録実務者のための勉強会・情報交換会

活動実績

議事録
抄録・学会報告・冊子等
訪問調査
セミナー・研修会
コロナ速報版『がん登録で見る愛媛県のがん診療 2020年診断』報告 on line meeting
がん登録でみる愛媛県のがん診療

セミナー・研修会

院内がん登録実務者研修会とは
院内がん登録情報・解析研修会とは
過年度研修会情報

がんの薬学的治療専門部会

活動方針・目的

年度計画

活動実績

議事録
抄録・学会報告・冊子等

セミナー・研修会

がん看護専門部会

活動方針・目的

年度計画

活動実績

議事録
抄録・学会報告・冊子等

セミナー・研修会

